

科目コード	M8000	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	子どもの学びと教育課程経営				
(英語名称)					
担当教員	竹内 元、椋木 香子、安影 亜紀				
開講日	前期 火曜日 3・4時限				

授業概要
<p>本講義は、子どもの学びの創造に資する教育課程の編成と実施の課題と条件について教育方法の観点から理解し、この観点から教育課程を構想し、教育課程の基本原則と実践的課題について教育課程の編成・実施・評価の各局面にわたって理解するとともに、効果的な教育課程経営の具体的手立てを構想することを目的とするものである。本年度は、子どもの学びと教育課程経営の媒介として、子ども虐待、道徳の教科化、学習集団づくり、授業研究を中心に取扱う。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の変化と学校改善の課題に対応した学校づくり 学校における子ども虐待の発見(竹内・安影) 2. 社会の変化と学校改善の課題に対応した学校づくり 道徳の教科化と授業改善(椋木・安影) 3. 社会の変化と学校改善の課題に対応した学校づくり 道徳の教科化と授業改善(椋木・安影) 4. 社会の変化と学校改善の課題に対応した学校づくり 道徳の教科化と授業改善(椋木・安影) 5. 社会の変化と学校改善の課題に対応した学校づくり アクティブ・ラーニングと授業改善(竹内・安影) 6. 学習形態の転換と授業改善(ワークショップ&レクチャー)(竹内・安影) 7. 学習規律づくりと授業改善(ワークショップ&レクチャー)(竹内・安影) 8. 指導的評価活動と授業改善(ワークショップ&レクチャー)(竹内・安影) 9. 教育課程の編成と実施(安影・竹内) 10. 教育課程の編成と実施(安影・竹内) 11. 教育課程の編成と実施(安影・竹内) 12. 社会の変化と学校改善の課題に対応した学校づくり(発表:メンター)(竹内・安影) 13. 基礎能力発展実習「道徳」を考える(椋木・安影) 14. 基礎能力発展実習「道徳」を考える(椋木・安影) 15. 授業研究を通じた学校づくり(ワークショップ&レクチャー)(竹内・安影) 16. 基礎能力発展実習における事後検討会を考える(ワークショップ)(竹内・安影)

達成目標
<p>【現職・ストレート共通】 ・教育課程の編成・実施・評価に関する実践課題を理解する。 【現職】 ・現職教員は、社会の変化と学校改善の課題に対応した学校・学級経営計画を作成する。 【ストレート】 ・ストレートマスターは、指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取り組みを行う。</p>

成績評価基準
成績評価基準の規程に基づき評価する

成績評価方法
レポート(詳細はオリエンテーションで示します)

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等についての規程に基づき、対応する

文献・教材
参考文献は、講義のなかで紹介いたします。

関連する授業科目
教職総合研究

履修上の注意
講義内容によっては、変則的な時間割編成で行うことがある。本講義においては、講義のなかで思考し判断したことを記述することを求める。また、学外の公開研究会等、フィールドから学ぶことを奨励する。

オフィスアワー		
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;">【前期】 月1・2</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">【後期】</td> </tr> </table>	【前期】 月1・2	【後期】
【前期】 月1・2	【後期】	

備考

参考URL

ファイル

更新日付

科目コード	M8010	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学校改善とカリキュラムマネジメント				
(英語名称)					
担当教員	遠藤 宏美、中野 通彦				
開講日	後期 火曜日 3・4時限				

授業概要

本授業では、後述するテキストに示された学校レベルでの教育改革実践の記録を読み、入念に検討する作業を通して、学校改善とカリキュラムマネジメントにかかわる今日的な諸問題を取り扱う。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション、授業のねらいと概要説明（中野、遠藤）
 - 第2回：講義1 カリキュラムとカリキュラムマネジメント（遠藤、中野）
 - 第3回：確かな学びを生み出す授業モデル（中野、遠藤）
 - 第4回：学力向上に向けた授業改善（遠藤、中野）
 - 第5回：講義2 校内研究（中野、遠藤）
 - 第6回：研究授業（遠藤、中野）
 - 第7回：ワークショップ研究型協議会（中野、遠藤）
 - 第8回：新学校システム（遠藤、中野）
 - 第9回：学校常識の再考（中野、遠藤）
 - 第10回：講義3 多様なカリキュラムマネジメント（遠藤、中野）
 - 第11回：カリキュラムマネジメントの実際（1）（中野、遠藤）
 - 第12回：カリキュラムマネジメントの実際（2）（遠藤、中野）
 - 第13回：講義4 カリキュラムマネジメントの実際と課題（中野、遠藤）
 - 第14回：レポート発表・全体協議（遠藤、中野）
 - 第15回：まとめ（中野、遠藤）
- （受講生の実態や要望に応じて、計画を変更することがある）

達成目標

- 1 共通到達目標
現場の教員として、学校改善とカリキュラムマネジメントを進めるに当たっての基礎的な知識や能力を身につけることができる。
- 2 現職到達目標
学校の教育目標の実現に向けて、学校の課題を踏まえた学校改善やカリキュラムマネジメントに同僚等と協働して適切に取り組むことができる。
- 3 ストレート到達目標
学校改善とカリキュラムマネジメントの意義と課題を理解するとともに、授業改善に自ら取り組むことができる。

成績評価基準

受講及び試験に関する内規に従う。

成績評価方法

出席状況、レポーターとしての働き、グループ作業はじめとする授業への参加状況、最終レポート、その他を総合的に判断して成績評価を行う。詳細については、初回授業時に連絡する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等についての規定に基づき対応する。

文献・教材

テキストとして『学びを起こす授業改革』（村川雅弘・田村知子・東村山市立大谷小学校編著、ぎょうせい、2011年）を用いるほか、適宜指示する。参考文献はその都度紹介する。必要に応じて補足資料等を配布する。

関連する授業科目

教育課程編成の理論と方法

履修上の注意

- 1 受講生を5～6つ程度のグループに編成し、各グループが順にレポーターを担当する。担当となったグループは、全員が責任を持ってレポートを行うこと。
- 2 テキストに示された実践事例を入念に検討し、報告・討論を行う。レポーターとなったグループ以外の受講生も、全員がテキストの該当部分を読み込んだうえで出席すること。
- 3 最終レポートを作成し、まとめ・協議を行う。

オフィスアワー

【前期】	【後期】
随時	随時

備考

参考URL

ファイル

更新日付

2017/03/31 18:54:43

科目コード	M8020	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	教科学習の構成と展開・評価と課題				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、兼重 幸弘、木根 主税、中山 迅、三輪 佳見、幸 秀樹、吉村 功太郎				
開講日	前期 水曜日 3・4時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育の捉え方によって、教科領域の類型や目標が異なることを理解するとともに、類型の違いによる各教科の目標・内容・方法等の違いを分析する。 ・ 実践や事例を通して、わが国の公教育の考え方の変遷による各教科の性格、目標、内容構成、学習方法の特徴の変化を討議し、把握する。 ・ 現職教員学生と学部新卒学生に分かれて、今日の教育の新しい動向を視野に入れた授業づくりと評価案を作成する。授業づくり・評価案のプレゼンテーションとグループ討議、評価を行う。 ・ 教科系列に分かれて授業・評価案の修正案を作成した後、模擬授業と討議、評価を行う。

授業計画
<p>第1回：現職教員学生の教科指導の経験をもとに、現在の教科指導に共通する問題を把握する。(グループ討議)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第2回：児童生徒の全面的な発達と現在の教科区分の根拠を、戦後の学習指導要領の教育課程をもとに、グループに分かれて討議して明らかにする。(グループ討議)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第3回：現在の教育課程において主として知育を担う教科のあり方を、見直すべし(教科再編成)、現行の考えを継続すべきかの観点からのディベートを通して、現在の教科の根拠を明確にする。(ディベート)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第4回：現在の教科指導の潮流である「新しい学力観」や「確かな学力」をどのようにとらえるかについてグループ討議する。(グループ討議)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第5回：各教科教育系に別れて、「新しい学力」や「確かな学力」の観点から、理論的な学習を行うとともに、典型的な授業事例を分析し、検証する。(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第6回：授業事例の分析、検証をもとに、「新しい学力」及び「確かな学力」の授業論・教育方法に共通する点、相違点を明らかにする。(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第7回：「新しい学力」及び「確かな学力」の評価方法に関する理論的学習を行うとともに、典型的な授業事例を通して分析、検証する。(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第8回：各教科に別れて、「確かな学力」の授業論にもとづく学習指導案の基本構想を検討する。(グループ別討議)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第9回：「確かな学力」の授業論にもとづく具体的な学習指導案(授業の目標、過程及び評価案)を作成する。(フィールドワーク、作業学習)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第10回：授業案のプレゼンテーションを行うとともに、相互に批評する。(プレゼンテーション)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第11回：教科別グループに分かれて、再度学習指導案を検討する。(グループ別討議)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第12回：改善後の学習指導案の発表を行う。(発表活動)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第13回：学部新卒学生による改善後の学習指導案に基づくマイクロティーチングを行う。(マイクロティーチング)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第14回：現職教員によるマイクロティーチングの評価の発表とともに、大学教員による全体的指導を行う。(発表活動)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(グループ討議)(木根・中山・三輪・幸・吉村・アダチ・兼重)</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、以下の通り。</p> <p>共通 学校教育の主要領域である教科教育は、社会や学校の在り方の変化によって教科の構成や目標・内容などが変化することを理解することが出来る。「生きる力を育む」や「確かな学力形成」をねらいとする各教科における授業実践のそれぞれの目標や内容構成、学習方法の特徴をとらえることができる。それを踏まえて、今日の教育の新しい動向を視野に入れた各教科の授業展開・評価案を作成するとともに、相互に発表し、評価を行い、より高度な教科教育に関する授業構成論や評価法を修得する。</p> <p>現職教員 各教科の授業について同僚等の模範となる実践を行うとともに、指導方法の問題解決に向けて、適切な指導助言ができる。</p> <p>ストレート 未実施領域の授業をそれまでの授業実践の反省に基づき、新たに構築できる。各授業の指導方法の問題解決について、意見交換を行い取り組むことができる。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育教育学研究科の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・ 授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・レポート等で総合的に評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育教育学研究科の受講及び試験に関する内規による。

文献・教材
<p>各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。</p> <p>参考書： 文部科学省、学習指導要領解説(各教科、領域)</p>

関連する授業科目
教科領域実践開発コースの授業科目

履修上の注意
各時間ごとに予習・復習を義務づける。

オフィスアワー		
<table border="0"> <tr> <td>【前期】 各教員により別途定めている</td> <td>【後期】 各教員により別途定めている</td> </tr> </table>	【前期】 各教員により別途定めている	【後期】 各教員により別途定めている
【前期】 各教員により別途定めている	【後期】 各教員により別途定めている	

備考		
参考URL		
<table border="0"> <tr> <td>新学習指導要領(本</td> <td>http://www.mext.go.jp</td> </tr> </table>	新学習指導要領(本	http://www.mext.go.jp
新学習指導要領(本	http://www.mext.go.jp	

ファイル

更新日付
2017/02/17 23:08:18

科目コード	M8030	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	教科外活動の構成と展開・評価と課題				
(英語名称)					
担当教員	竹内 元、中野 通彦、椋木 香子、盛満 弥生				
開講日	後期 水曜日 5・6時限				

授業概要
<p>道徳教育の教科化を踏まえ、子どもの道徳性の発達を促す道徳授業改善のための視点・方法を理解する。</p> <p>学習指導要領を踏まえて、特別活動の意義と課題について理解し、特別活動のカリキュラム開発に関する事例を検討する。</p> <p>キャリア教育について理解を深めるとともに、総合的な学習の時間等でのキャリア教育の実践事例を検討し、キャリア教育の課題や展望について理解する。</p>

授業計画
<p>第1回：オリエンテーション・授業のねらいと概要（椋木・盛満・中野）</p> <p>第2回：道徳の教科化と授業分析（椋木・中野）</p> <p>第3回：道徳授業改善のための分析視点（椋木・中野）</p> <p>第4回：道徳授業の分析方法（椋木・中野）</p> <p>第5回：特別活動の基本的理念と現代的課題（盛満・中野）</p> <p>第6回：望ましい集団活動の条件とは（盛満・中野）</p> <p>第7回：特別活動と学力向上（盛満・中野）</p> <p>第8回：特別活動と学力向上（盛満・中野）</p> <p>第9回：特別活動と学力向上（中野・盛満）</p> <p>第10回：キャリア教育の必要性（中野・竹内）</p> <p>第11回：キャリア教育の実際（竹内・中野）</p> <p>第12回：総合的な学習の時間とキャリア教育（竹内・中野）</p> <p>第13回：キャリア教育の課題と展望（竹内・中野）</p> <p>第14回：総合的な学習の時間の課題と展望（竹内・中野）</p> <p>第15回：まとめ（中野・竹内・盛満・椋木）</p>
<p>* 各回の主題は変更することがある。</p>

達成目標
<p>共通</p> <p>現代日本の学校における道徳教育と特別活動、キャリア教育の現状と問題、及び学習指導要領に基づく道徳教育、特別活動、キャリア教育に関連した総合的な学習の時間の充実のための課題について理解し、それぞれのカリキュラム編成や指導の展開に関わる具体的諸問題についての知見を高める。それを踏まえて、効果的な指導方法の具体的手立てを構想しつう力を習得する。さらに、その他教科外活動に関わる諸問題について認識し、その対応策について考えることができる。</p> <p>メンター</p> <p>学校における道徳や特別活動について同僚等の模範となる実践を行うとともに、課題をとらえた適切な指導助言ができる。また、キャリア教育に関わる諸問題についても認識を深め、その具体的な対応について率先して取り組むことができる。</p> <p>ストレート</p> <p>道徳の授業について発問や教材・教具等を工夫するなどして、授業づくりに意欲的に取り組むことができる。特別活動について、自主的・実践的な態度を育てるための望ましい集団活動のあり方を理解することができる。また、キャリア教育に関わる諸問題についても認識を深め、その具体的な対応に協働して取り組むことができる。</p> <p>この科目は、ディプロマポリシーに掲げる、「子ども理解」「使命感・倫理観」「学校・学級経営」「授業力」に関する知識と実践力を総合的に育成する。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<p>・この科目の授業は複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の観点・方法により評価を行う。</p> <p>・出席率および、資料の収集や発表など授業への参加の度合い、レポートをもとに総合的に判定・評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
授業は講師が用意した資料や受講生自身が用意した資料をもとに行う。

関連する授業科目
特別活動学習開発研究（前期）、道徳教育学習開発研究（後期） 子どもの学びと教育課程経営（前期）

履修上の注意
<p>・この科目では、講師が用意した資料・関連文献を随時配布するので、講師の指示に従い、予習・復習を実施すること。</p> <p>・道徳授業に関する内容では、基礎能力発展実習で実施した研究授業をもとに授業を行う。研究授業をビデオ録画し、授業で使用したワークシート等のコピーを取っておくこと。その他、詳細な内容については、「子どもの学びと教育課程経営」で指示する。</p> <p>・グループで議論を行う場合は積極的に議論に参加し、議論の進め方や論点の整理の仕方などを学ぶこと。</p>

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>随時</td> <td>随時</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	随時	随時
【前期】	【後期】			
随時	随時			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/12 09:07:57

科目コード	M8040	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	情報メディアによる実践的指導方法と課題				
(英語名称)					
担当教員	兼重 幸弘、新地 辰朗				
開講日	前期 木曜日 3・4時限				

授業概要
情報コミュニケーション技術（ICT）や情報メディア関連技術の進展を背景にした教育の情報化及び情報教育の現状を整理した後、教科等の指導における情報メディアの実践的指導方法について解説する。また、教科等の指導場面を具体的に想定し、教育効果と教師の情報（メディア）リテラシーを検証しながら、実践的指導方法を習得させる。また、現職教員等による事例紹介を参考に、他の教師、教育委員会、地域、家庭等との連携における情報メディア活用についても整理する。 なお、この科目では、単元の前半で自作のフラッシュ型教材、中盤で情報活用能力育成に関するレポート、終盤で情報モラル教育に関するレポートをを課します。

授業計画
第1回：情報通信技術や情報メディア関連技術について（新地・兼重：講義） 第2回：教育の情報化及び情報教育の現状（新地・兼重：講義） 第3回：情報通信技術及び情報メディア（ICT）活用指導力（新地・兼重：演習） 第4回：教材研究・指導の準備における情報メディア活用（新地・兼重：事例研究） 第5回：授業の教育効果を高めるための情報メディア活用（新地・兼重：事例研究） 第6回：授業評価における情報メディア活用（新地・兼重：演習） 第7回：児童生徒の情報メディアの実践的活用能力を習得させる指導（新地・兼重：演習） 第8回：ネットワーク社会における情報倫理（新地・兼重：講義） 第9回：情報モラルの指導（新地・兼重：演習） 第10回：校務における情報メディア活用（新地・兼重：演習） 第11回：第4回～第6回で検討した視点に基づく授業設計及び評価（新地・兼重：グループ討論・実習） 第12回：第4回～第6回で検討した視点に基づく模擬授業の実施（新地・兼重：模擬授業） 第13回：第7回～第9回で検討した視点に基づく授業設計及び評価（新地・兼重：演習、グループ討論・実習） 第14回：第7回～第9回で検討した視点に基づく模擬授業の実施（新地・兼重：模擬授業） 第15回：これからの学習・教育における情報メディアの活用（新地・兼重：総合討論[まとめ]）

達成目標
【現職・ストレート共通】 ・情報化が進む学校教育において求められる、情報メディア活用による実践的指導方法を習得することができる。 ・事例検討を通して、情報メディア活用による教科指導の効果と課題を理解できる。 【現職】 ・同僚職員の模範となるような、教育機器を効果的に活用した授業を実践できる。 ・同僚職員に対し、教育機器を効果的に活用した授業改善のためのアドバイスができる。 【ストレート】 ・教育目標や内容に沿って児童・生徒の問題意識を引き出すために、教育機器を効果的に活用できる。 この科目は、ディプロマポリシーに掲げる使命感・倫理観、学校・学級経営、授業力に関する能力を養います。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規によるものとする

成績評価方法
授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・レポート・試験等で総合的に評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規によるものとする

文献・教材
○文部科学省、教育の情報化に関する手引、開隆堂出版 ○P.グリフィン/編 B.マクゴー/編 E.ケア/編 三宅なほみ/監訳 益川弘如/編訳 望月俊男/編訳、21世紀型スキル：学びと評価の新たななたち、北大路書房 R.リチャート、M.チャーチ、K.モリソン著、黒上晴夫、小島亜華里 訳、子どもの思考が見える21のルーチン、アクティブな学びをつくる、北大路書房

関連する授業科目
情報メディア教育開発研究

履修上の注意

オフィスアワー	
【前期】 火曜日 7・8	【後期】 火曜日 7・8

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/10 16:46:17

科目コード	M8050	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学校カウンセリングの実践と課題				
(英語名称)					
担当教員	高橋 高人、立元 真、東迫 健一				
開講日	後期 水曜日 3・4時限				

授業概要	
<p>・児童・生徒が抱える生徒指導上の諸問題をカウンセリングの視点から理解し、ケーススタディを通して、児童・生徒の問題行動等への適切な対応法に習熟する。</p> <p>・本講義では、現職教員とストレートマスターによる集団討論やプレゼンテーションを多く取り入れながら、個々の児童・生徒の問題行動の発生メカニズム、維持要因のアセスメント、アセスメントに基づいた指導法の選択、関係職員や関係諸機関との連携等を含めた指導計画の作成が可能になるように援助する。</p>	

授業計画	
第1回	オリエンテーション(実習を振り返って)、カンファレンス(チームとしての問題解決)(講義・演習)
第2回	学校カウンセリングの基本技法と姿勢(講義・演習)
第3回	児童・生徒のメンタルヘルス・問題行動と学校カウンセリング(講義)
第4回	児童・生徒への個別指導のための行動アセスメント(講義・演習)
第5回	児童・生徒への個別指導のための記述・測定アセスメント(講義・演習)
第6回	保護者面談スキル(講義と演習)
第7回	児童・生徒のメンタルヘルスと生徒指導(講義と演習)
第8回	子どもの内在化問題:不安、抑うつ、ストレス反応など(集団討議・演習) [レポート課題]
第9回	子どもの外在化問題:問題行動、非行、暴力など(集団討議・演習)
第10回	学校カウンセリングにおける集団指導と個別指導(講義) 東迫
第11回	学校カウンセリングにおける具体的な問題(講義・演習) 東迫
第12回	学校カウンセリングにおける発達障害への支援(集団討議・演習) [レポート課題]
第13回	学業問題、進路選択に関するケーススタディ(集団討議・演習)
第14回	生徒指導・教育相談領域における幼保小連携、小中連携、高校との連携(集団討議)
第15回	関係諸機関との連携、実践に向けて(まとめ)

達成目標	
<p>【現職・ストレート共通】</p> <p>・児童・生徒が抱える生徒指導上の諸問題をカウンセリングの視点から理解し、児童・生徒の問題行動等への対応法を学び、子どもに対する気付き(子ども理解)から、チームとしての問題解決の見通しをもつことができる。</p> <p>・児童・生徒の行動に関するアセスメントの方法や保護者との連携を含めた対処技法を知る。</p> <p>【現職】</p> <p>・児童・生徒理解の仕方や情報の集め方について、同僚職員にアドバイスできる。</p> <p>【ストレート】</p> <p>・児童・生徒の行動の発生メカニズムや維持要因を理解している。</p>	

成績評価基準	
<p>授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・レポート・授業内の振り返りシート等で総合的に評価する。</p>	

成績評価方法	
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当時間数の多少にかかわらず、評価の観点にもとづく協議により行う。</p>	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
<p>答案の返却・開示等については、教育学研究科受講及び試験に関する内規によるものとする。</p>	

文献・教材	
<p>講義中に適宜、文献と教材を紹介する。</p>	

関連する授業科目	
<p>基礎能力発展実習、メンターシップ実習、生徒指導の実践と課題(後期 共通必修)</p>	

履修上の注意	
<p></p>	

オフィスアワー	
【前期】	【後期】

備考	
<p></p>	

参考URL	
<p></p>	

ファイル	
<p></p>	

更新日付	
<p>2017/03/10 15:01:32</p>	

科目コード	M8060	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	生徒指導の実践と課題				
(英語名称)					
担当教員	高橋 高人、立元 真、東迫 健一				
開講日	前期 水曜日 5・6時限				

授業概要	
<p>・この科目は、先手をうつ生徒指導、つまり児童・生徒の問題行動や社会的不適応をいかに予防するかという視点から構成される。予防的生徒指導にとって重要な柱は、「心の教育」「心の健康」そして「教師と児童生徒の円滑なコミュニケーション」である。</p> <p>・本科目では、これらの柱を具体化するために、生徒指導の基本的な技法からスタートし、「ソーシャルスキル教育」「問題解決プログラム」「情動調整」「構成的グループエンカウンター」等の具体的な予防的介入プログラムを講義と実践演習の中で身につける。</p>	

授業計画	
第1回	オリエンテーション・生徒指導の3機能、(講義・演習)[課題:生徒指導の指導計画1]
第2回	生徒指導の技法と指導計画・構成的グループエンカウターの指導(講義と演習)
第3回	ソーシャルスキルの指導(講義・演習) 立元
第4回	望ましい行動を指導する生徒指導の技法と体験させる生徒指導の技法(演習)
第5回	子どもの発達段階と子どもの行動の機能的分析(講義・演習)
第6回	15分のSST,問題行動への対処 無視と再指示(講義・演習)[分担課題1]
第7回	15分のSST,問題行動への対処 自然な結果と理にかなった結果(講義・演習)[分担課題1]
第8回	15分のSGE,問題行動への対処 タイムアウト等(講義・演習)[分担課題2]
第9回	15分のSGE,情動への対処の指導(講義)[分担課題2]
第10回	15分のSGE,情動への対処の指導(演習)[指導計画作成課題]
第11回	子どもの問題行動に関わる法的問題(講義・演習)
第12回	構成的グループエンカウターの指導~いじめ問題~(講義・演習)
第13回	問題解決を教える(講義)
第14回	問題解決を教える(演習)(集団討議)
第15回	長期的な生徒指導戦略の計画,まとめ [課題:生徒指導の指導計画1]

達成目標	
<p>【現職・ストレート共通】</p> <p>・先手をうつ生徒指導、つまり児童・生徒の問題行動や社会的不適応をいかに予防するかという視点の重要性を理解し、問題の解決手順を学ぶ。</p> <p>・予防的生徒指導の柱となる基礎的技法を身につける。</p> <p>【現職】・児童・生徒の問題行動や社会的不適応を予防・改善するための指導プログラムを作成・指導できる。</p> <p>【ストレート】・児童・生徒の問題行動や社会的不適応を予防・改善するための指導プログラムを作成・実践できる。</p>	

成績評価基準
<p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議により以下の評価の観点・方法により行う。</p>

成績評価方法
<p>・授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・レポート等で総合的に評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

文献・教材
<p>ウェブスター・ストラットン著 「認知行動療法を活用した子どもの教室マネジメント 社会性と自尊感情を高めるためのガイドブック」 文部科学省 「生徒指導提要」</p>

関連する授業科目
<p>学校カウンセリングの実践と課題,基礎能力発展実習,メンターシップ実習</p>

履修上の注意
<p>この科目では、授業に関する振り返りシートの提出を度々求めます。</p>

オフィスアワー	
【前期】 随時随時 但しメール等によるアポイントがあること s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]	【後期】 随時随時 但しメール等によるアポイントがあること ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]

備考

参考URL
<p>認知行動療法を活用 http://kongoshuppan.co.jp/dm/1314 教科書・副読本として 生徒指導提要 http://www.mext.go 重要資料として用い</p>

ファイル

更新日付
2017/03/10 13:56:20

科目コード	M8070	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学校経営の実践と課題				
(英語名称)					
担当教員	山本 真司、湯田 拓史				
開講日	後期 火曜日 5・6時限				

授業概要	
学校経営の基礎理論についての理解に基づき、自律的学校経営並びに参加型学校経営の実現に向けて実践的な課題の分析と解決の方策について検討する。	

授業計画	
毎時間、コンプライアンス研修・研究者教員による講義・事例研究・グループワーク・グループワークでのまとめ発表・実務家教員の講評の構成ですすめる。	
第1回	オリエンテーションと組織としての学校
第2回	学校経営の在り方の事例研究 1 - 学校ビジョン -
第3回	学校経営の在り方の事例研究 2 - 県・市町村の施策と学校の独自性 -
第4回	学校経営計画の事例研究 1 - 学校経営計画の企画・立案 -
第5回	学校経営計画の事例研究 2 - 学校経営計画の実施 -
第6回	学校経営計画の事例研究 3 - 学校経営計画の点検・評価 -
第7回	学校経営計画の事例研究 4 - 学校経営計画の改善 -
第8回	自主的・自律的な学校組織の在り方 1 - 学校組織(集団)の作り方と校務分掌
第9回	自主的・自律的な学校組織の在り方 2 - 合意形成の手順と職員会議の運営方法
第10回	自主的・自律的な学校組織の在り方 3 - 校内研修の組織化
第11回	地域社会と連携した参加型の学校経営 1 - マスコミへの対応と学校経営
第12回	地域社会と連携した参加型の学校経営 2 - 保護者・地域と学校経営
第13回	地域社会と連携した参加型の学校経営 3 - 学校評議員制度・学校運営協議会
第14回	地域社会と連携した参加型の学校経営 4 - 異校種間連携と学校経営
第15回	まとめ

達成目標	
ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。 【現職・ストレート院生共通】 1 学校経営の在り方(経営戦略づくり、学校経営計画の企画立案、実施、評価)について理解し、実践することができる。 2 学校組織の在り方(組織編成と校務分掌、職員会議の運営、研修の組織化)について理解し、実践することができる。 3 地域社会と連携した学校経営の在り方(保護者・地域との連携、学校評議員制度・学校運営協議会、異校種間連携)について理解し、実践することができる。 4 【現職】学校経営の課題の分析と解決の方策に関して、同僚・保護者・外部の専門家と協働して取り組むことができるとともに、所属する学校を越えて地域の教員に対しても指導・助言することができる。 5 【ストレート院生】学校経営の課題の分析と解決の方策に関して、同僚・保護者・外部の専門家と協働した取組に関する知識を理解している。	

成績評価基準	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。	

成績評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・到達目標に即して、レポート(指定課題図書レポートとまとめレポートの計2本)等により総合的に評価する。 ・到達評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に即して定める。 	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。	

文献・教材	
テキスト等については、別途指示する。必要な資料等は、授業中に適宜配布する。	

関連する授業科目	
学級経営の実践と課題(前期)	

履修上の注意	
現職院生は、管理職等の了解並びに指導の下、各回のテーマに即した所属校等の学校経営案や資料を用意し、ストレート院生に説明できるようにすること。	

オフィスアワー	
【前期】 湯田：木曜日11時45分～12時45分 山本：木曜日11時45分～12時45分 中野：火曜日11時45分～12時45分	【後期】 湯田：木曜日11時45分～12時45分 山本：木曜日11時45分～12時45分 中野：火曜日11時45分～12時45分

備考	

参考URL	

ファイル	

更新日付	
2017/03/09 11:50:58	

科目コード	M8080	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学級経営の実践と課題				
(英語名称)					
担当教員	兼重 幸弘、山本 真司、湯田 拓史				
開講日	前期 火曜日 5・6時限				

授業概要	
学級経営の実践について事例研究を行い、実地調査やワークショップ等の方法を通して、学級経営計画の企画・立案、実施、点検・評価、改善という学級経営サイクルの観点から、学級経営の実践と課題について分析し改善の方策を検討・検証する。	

授業計画	
第1回	学級経営上の課題の明確化とオリエンテーション
第2回	学級経営上の課題の整理 - 朝の会・帰りの会、学級通信の意義 -
第3回	よりよい学級づくり1 - よりよい学級づくりのためのアセスメント - (ワークショップ「Q-Uアンケート活用」)
第4回	よりよい学級づくり2 - 構成的グループエンカウンターによる学級集団づくり - (ワークショップ「グループエンカウンター」)
第5回	よりよい学級づくり3 - ソーシャルスキルトレーニングによる人間関係づくり - (ワークショップ「ソーシャルスキルトレーニング」)
第6回	学年・学級経営案の設計1 - 学級経営案の企画・立案、学年・学級目標の設定 - KJ法 -
第7回	学年・学級経営案の設計2 - 学級経営案作成にかかわる配慮事項、目標達成に向けた手だて、ロジックツリー -
第8回	学年・学級経営案の設計3 - 学年・学級経営案のフォーム作成 -
第9回	学年・学級経営案の設計4 - 学年・学級経営案の作成 -
第10回	学年・学級経営案の設計5 - 学年・学級経営案の発表 -
第11回	学級経営に関する課題解決1 - 子どもが生きる学級の組織づくり -
第12回	学級経営に関する課題解決2 - 子どもをめぐる諸問題への対応(いじめ・けが・事故) -
第13回	学級経営に関する課題解決3 - 開かれた学級経営(懇談、家庭訪問、教育相談、行事) -
第14回	学級経営に関する課題解決4 - 保護者の意見・要望への対応の工夫(クレーム対応) -
第15回	まとめ 演習・ワークショップ「教育実習に向けて」

達成目標	
ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。 【現職・ストレート院生共通】 1 学級経営(学年経営)の基礎単位としての学級経営の実践について理解し、かつ実践することができる。また、他の教職員と適切に情報を共有して協働体制を構築することができる。 2 学習集団及び生活集団としての学級づくりの理論と方法を理解し、かつ実践に移し、さらに改善の工夫を行うことができる。 3 保護者との連携を図り、その意見や要望に適切に対応できる。 4 【現職】学級経営の課題の分析と解決の方策に関して、他の教職員を指導するとともに、所属する学校を越えて地域の諸学校の教員に対しても指導・助言することができる。 5 【ストレート院生】学校教育目標や保護者等の意見や要望を受けて、学級目標の具現化を図るマネジメントサイクルの方策や活用等について理解している。	

成績評価基準	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。	

成績評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行う。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 到達目標の観点に即して、レポート(学級通信等10本程度、増減あり)の方法により、総合的に判定・評価する。 	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。	

文献・教材	
テキストについては、授業で別途指示する。必要な資料等は、授業中に適宜配布する。	

関連する授業科目	
学校経営の実践と課題(後期)	

履修上の注意	
毎回、テーマに即した学級通信等の作成・提出を課します。	

オフィスアワー	
【前期】	【後期】
湯田：木曜日 11:45～12:45	湯田：木曜日 11:45～12:45
金重：木曜日 13:00～14:00	金重：木曜日 13:00～14:00
中野：火曜日 11:45～12:45	中野：火曜日 11:45～12:45

備考	

参考URL	

ファイル	

更新日付	
2017/03/09 17:01:06	

科目コード	M8090	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	現代の教育課題と学校の社会的役割				
(英語名称)					
担当教員	河原 国男、高橋 利行、武富 志郎、山本 真司				
開講日	前期 木曜日 5・6時限				

授業概要
<p>1. 学校とはどのような教育施設か、その基本的特質を考える。とくに塾と対比し、その異同を検討する。その上で学校が果たすべき公共的役割を把握する。この把握をふまえて、わが国の現代社会（少子化の進行を含む）との関連で、学校教育の諸課題（特別支援教育の課題をも含む）について指摘する。とくに（1）学社融合の考え方とその実践、2）地域の教育資源の活用、3）地域貢献など、について理解する。</p> <p>2. 学校の社会的役割を生徒学習の観点から把握する。とくに（1）学社融合の考え方とその実践、2）地域の教育資源の活用、3）地域貢献など、について理解する。</p> <p>3. 以上の検討をふまえて、教員の職業倫理について諸側面から明らかにする。教師としての使命感は、どのように規定できるか、その概念を理念的に認識するとともに、今日の社会から、どのような教師像が期待されているか、なぜ要請されているか、について、教員を採用・研修を担う自治体資料を手がかりに検討する。その上で、学校組織のなかでどのような職務行動として実現されるべきか、について教員人事評価制度を紹介しつつ理解する。とくに事例研究や現職教員とストレートマスターのグループに分かれた討議、ロールプレイを通じて解明する。</p> <p>4. 以上をふまえて、現代社会の変化と関連した学校のあり方をグループに分かれて協議し、構想し、その結果についてプレゼンテーションを行う。</p>

授業計画
<p>第1回：学校とはどのような教育施設か-塾と対比において-（河原、高橋、山本、武富：演習）</p> <p>第2回：現代社会の動向と学校教育の課題（河原、高橋、山本、武富：講義）</p> <p>第3回：特別支援教育の現状と課題（武富、河原、高橋、山本：講義）</p> <p>第4回：学校の社会的役割 1）学社融合の考え方とその実践（高橋、河原、山本、武富：講義、報告、討論）</p> <p>第5回：学校の社会的役割 2）地域の教育資源の活用（高橋、河原、山本、武富：講義、報告、討論）</p> <p>第6回：学校の社会的役割 3）地域貢献のために学校の果たすべき役割（高橋、河原、山本、武富：講義、報告、討論）</p> <p>第7回：教員の職業倫理 1）「職業（天職）としての教員」概念（河原、高橋、山本、武富：講義）</p> <p>第8回：教員の職業倫理 2）「優れた」教員像を検証する（河原、高橋、山本、武富：事例研究）</p> <p>第9回：教員の職業倫理 3）社会から求められる教員像の内容とその背景（山本、河原、高橋、武富：事例研究）</p> <p>第10回：教員の職業倫理 1）教員人事評価の制度の在り方（山本、河原、高橋、武富：プレゼンテーション、討議）</p> <p>第11回：教員の職業倫理 2）教員人事評価の制度の在り方（山本、河原、高橋、武富：プレゼンテーション、討議）</p> <p>第12回：現代社会の変化に対応する学校の在り方 1）授業実践と経営実践（高橋、河原、山本、武富：プレゼンテーションと討議）</p> <p>第13回：現代社会の変化に対応する学校の在り方 2）授業実践と経営実践（高橋、河原、山本、武富：プレゼンテーションと討議）</p> <p>第14回：現代社会の変化に対応する学校の在り方 3）授業実践と経営実践（高橋、河原、山本、武富：プレゼンテーションと討議）</p> <p>第15回：現代社会の変化に対応する学校の在り方 4）授業実践と経営実践（高橋、河原、山本、武富：プレゼンテーションと討議）</p>

達成目標
<p>【現職・ストレート共通】</p> <p>1) 変化する現代社会における学校教育の諸課題（塾との対比を含め）を認識しつつ、他方で生涯学習の観点から学校の社会的役割を理解できること。</p> <p>2) 「優れた」教員の資質能力分析を含めて学校教員がどのような職業倫理を果たすべきか、理念的、実的に把握できること。</p> <p>3) 授業実践や学校・学級経営実践に関わる活動案を通じて、学校の社会的役割を具体的に明らかにすることができること。</p> <p>【現職】</p> <p>・現代の学校教育がかかえる諸課題を理解し、教育実践者としての自己を反省的にとらえるとともに、他の教員をリードする形で教員資質の改善ができる。</p> <p>【ストレート】</p> <p>・現代の学校のおかれた状況のなかで、教員の在り方を全体的に理解できる。</p> <p>以上のように、この科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げる諸能力、すなわち、高度な専門性が求められる教職を担うための学識及び実践力、応用力を養う。</p>

成績評価基準
<p>1) 成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p> <p>2) 到達目標の各事項の全体もしくは一部について、学習の努力の跡がうかがえ、かつ特に優秀な水準で達成している場合を「秀」とし、以下、優秀な場合を</p>

成績評価方法
<p>1) 本科目は、担当教員の合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>2) 評価に際しては、レポート、平常点、プレゼンテーション、討議状況、出席状況等も、総合的に加味する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>宮崎大学大学院教育学研究科規程による。</p>

文献・教材
<p>必要な文献資料はこちらで準備する。とくに中教審答申など各種審議会答申や、宮崎県の教職員評価関係関連資料など。</p>

関連する授業科目

履修上の注意
<p>この科目では、単元の終了時にその内容についてのミニレポートを課します。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】</p> <p>【後期】</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/01 16:26:18

科目コード	M8100	配当年次	1年	単位数	3
授業科目	基礎能力発展実習				
(英語名称)					
担当教員	三輪 佳見				
開講日	その他 その他				

授業概要
オリエンテーションにて詳細を示す。 この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。

授業計画
<p>第1週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員としての心構え ・教員の服務と研修 ・校務分掌や学校組織の理解と協力 ・学級経営業務への協力 ・児童・生徒理解と課題を抱える児童・生徒への対応法の習得 ・基本的な生活習慣を身に付けさせる適切な指導法の習得 ・特別な配慮を要する児童・生徒に対する理解と指導法の習得 <p>第2週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動等に対する適切な処置 ・児童・生徒の好ましい人間関係づくりや問題場面に対する対応法の習得 ・教科単元目標分析と各時間の具体的目標設定 ・児童・生徒の状況や指導内容の特質に応じた指導計画の策定 ・児童・生徒の状況や指導内容の特質に応じた教材・教員の開発 ・児童・生徒の意欲の喚起や内容への関心を高める説明・指示・示範の工夫 ・教育機器や補助資料の適切な使用 ・学習活動を活発化させる発問・板書等の工夫 <p>第3週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の教育活動の省察と改善 ・特別な配慮を要する児童・生徒への理解と指導法の習得 ・児童・生徒の反応に即応した指導法の選択 ・児童・生徒の授業後の変容分析に基づく授業の省察と問題点の析出

達成目標
<p>学段段階で受講した教育実習において修得した教員としての基礎的・基本的な能力を、より確かなものに発展させるとともに、教職大学院において履修した必修5領域の学習内容を実践に転化・応用する実習を通して、力量ある新人教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解及び教科の指導力などの能力・資質及び幅広い知見を修得する。</p> <p>この科目は、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究それぞれに関する能力を養う。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規に基づく。達成度チェックは達成度評価指標による。

成績評価方法
附属学校の点数並びに指導教員の「事後報告書」に基づく大学の点数を総合して評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申合せに基づいて対応する。

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意
この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	【前期】	【後期】		
【前期】	【後期】			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/22 14:12:03

科目コード	M8110	配当年次	2年	単位数	3
授業科目	学校教育実践研究実習				
(英語名称)					
担当教員	菅 裕				
開講日	その他 その他				

授業概要
<p>オリエンテーションにて詳細を示す。 この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。</p>

授業計画
<p>第1回：学校組織の一員としての教員の心構え 第2回：教員の服務と研修 第3回：学校の教育目標と学校経営案 第4回：一日学級担任(1) 第5回：示範授業参観及び授業研究(1) 第6回：学級通信のつくり方 第7回：各教科等の年間指導計画と週案の作成 第8回：各教科等の教材研究及び開発 第9回：各教科等の指導における高度な教育技術の修得 第10回：個々の子どもの理解・把握とより適切な学習指導案の研究と作成 第11回：一日学級担任(2) 第12回：示範授業参観及び授業研究(2) 第13回：研究授業の実施と授業研究 第14回：課題研究の進め方、具体的な研究テーマの設定等の検討 第15回：一日学級担任(3)まとめ</p>

達成目標
<p>基礎能力発展実習において修得した力量のある新人教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解及び教科等の指導力を基礎として、学校組織の一員として力量ある新人教員に求められる能力・資質及び幅広い知見を習得する。この科目は、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究それぞれの能力を養う。</p>

成績評価基準
<p>宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規に基づく。達成度チェックは達成度評価指標による。</p>

成績評価方法
<p>連携協力校の点数並びに指導教員の「事後指導報告書」に基づく大学の点数を総合して評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申合せに基づいて対応する。</p>

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意
<p>この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】 【後期】</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/02 10:24:42

科目コード	M8120	配当年次	2年	単位数	4
授業科目	教育実践開発研究実習				
(英語名称)					
担当教員	菅 裕				
開講日	その他 その他				

授業概要
<p>オリエンテーションにて詳細を示す。 この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。</p>

授業計画
<p>第1回：課題研究テーマの進捗状況の確認 第2回：具体的な検証授業等の準備(1) 第3回：人権教育について 第4回：学校保健・安全指導について 第5回：教室環境設営の進め方について 第6回：総合的な学習の時間の指導と実際 第7回：特別活動の指導と実際 第8回：具体的な検証授業等の準備(2) 第9回：検証と事後評価(1) 第10回：教育機器等の活用について 第11回：学校図書館の利用指導について 第12回：具体的な検証授業等の準備(3) 第13回：検証と事後評価(2) 第14回：集団指導の実際 第15回：研究のまとめ</p>

達成目標
<p>基礎能力発展実習及び学校教育実践研究実習において修得した学校組織の一員として力量ある新人教員に必要な基本的能力・資質、学級経営能力・資質及び子ども理解や教科等の授業力・指導力を基礎として、個人として得意分野に関する高度な能力の修得及び幅広い知見を修得する。この科目は、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究それぞれの能力を養う。</p>

成績評価基準
<p>宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規に基づく。達成度チェックは達成度評価指標による。</p>

成績評価方法
<p>連携協力校の点数並びに指導教員の「事後指導報告書」に基づく大学の点数を総合して評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申合せに基づいて対応する。</p>

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意
<p>この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】 【後期】</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/02 10:25:23

科目コード	M8130	配当年次	1年	単位数	4
授業科目	メンターシップ実習				
(英語名称)					
担当教員	三輪 佳見				
開講日	その他 その他				

授業概要
<p>第1週目に宮崎県教育研修センターが実施する初任者研修に参画し、その後、附属学校において、基礎能力発展実習のストレートマスターを対象に、指導・助言を行う。その指導の在り方について、大学教員や指導主事より指導助言を受けて省察し、スクールリーダーに必要な能力・資質の向上を図る。</p> <p>この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。</p>

授業計画
<p>第1週：宮崎県教育研修センターが実施する初任者研修への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修についての講義・演習 ・初任者研修の事前準備 ・センター指導主事等が行う初任者研修指導を観察分析 ・初任者研修指導等の一部を担当し、その在り方について指導主事より指導を受ける。 <p>第2週～第4週：附属学校におけるストレートマスターへの指導・助言</p> <p>第2週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールリーダーを目指す教員としての心構え ・スクールリーダーを目指す教員として不可欠な学級経営に関する知見や資質の修得 ・示範授業の参観及び授業研究 ・校内の各種研究会に参加し、子ども理解や教科等の授業力に関する知見の修得 ・研究授業の実施と授業研究 <p>第3週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターとして学生の使命感・倫理観に関する項目に参与・支援 ・メンターとして学生の学級経営に関する実習項目に参与・支援 ・メンターとして学生の子ども理解や教科の授業力に関する実習項目に参与・支援 <p>第4週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターとして学生の使命感・倫理観に関する項目の指導・点検 ・メンターとして学生の学級経営に関する実習項目の指導・点検 ・メンターとして学生の子ども理解や教科の授業力に関する実習項目の指導・点検

達成目標
<p>一定の教職経験を有する現職教員学生が、学校の教育活動全体について総合的に考察したり、反省的振り返りをしたりする機会やスクールリーダーの資質として不可欠な新人教員や若手教員へのより高度な「指導・助言能力」の修得をねらいとする。</p> <p>この科目は、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究それぞれの能力を養う。</p>

成績評価基準
<p>宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規に基づく。達成度チェックは達成度評価指標による。</p>

成績評価方法
<p>附属学校の点数並びに指導教員の「事後指導報告書」に基づく大学の点数を総合して評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申合せに基づいて対応する。</p>

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意
<p>この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】</p> <p style="text-align: center;"> </p> <p>【後期】</p>
備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/22 14:13:59

科目コード	M8140	配当年次	1年	単位数	1
授業科目	インターンシップ実習Ⅰ				
(英語名称)					
担当教員	菅 裕				
開講日	その他 その他				

授業概要

オリエンテーションにて詳細を示す。
この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。

授業計画

- 第1回：スクールリーダーに必要な子ども理解や教科等の授業力についての講義
- 第2回：スクールリーダーに必要な子ども理解や教科等の授業力についての口頭指導
- 第3回：スクールリーダーに必要な子ども理解や教科等の授業力についての観察指導
- 第4回：実務への参加による作業指導、作業点検指導等（1）
- 第5回：スクールリーダーに必要な学級経営能力・資質についての講義
- 第6回：スクールリーダーに必要な学級経営能力・資質についての口頭指導
- 第7回：スクールリーダーに必要な学級経営能力・資質についての観察指導
- 第8回：実務への参加による作業指導、作業点検指導等（2）
- 第9回：実施施設及び学校のプログラムに沿った講義
- 第10回：実施施設及び学校のプログラムに沿った口頭指導
- 第11回：実施施設及び学校のプログラムに沿った観察指導
- 第12回：実務への参加による作業指導、作業点検指導等（3）
- 第13回：実務への参加による作業指導、作業点検指導等（4）
- 第14回：実務への参加による作業指導、作業点検指導等（5）
- 第15回：まとめ

達成目標

この科目は、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究それぞれの能力を養う。

成績評価基準

宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規に基づく。達成度チェックは達成度評価指標による。

成績評価方法

実習校・施設の点数並びに指導教員の「事後指導報告書」に基づく大学の点数を総合して評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について

教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申合せに基づいて対応する。

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意

この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。

オフィスアワー

【前期】	【後期】
-	

備考

参考URL

ファイル

更新日付

科目コード	M8150	配当年次	2年	単位数	1
授業科目	インターンシップ実習 II				
(英語名称)					
担当教員	菅 裕				
開講日	その他 その他				

授業概要	
<p>オリエンテーションにて詳細を示す。 この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。</p>	

授業計画	
<p>第1回：力量ある新人教員に必要な子ども理解や教科等の授業力について指導主事等による講義・講話 第2回：力量ある新人教員に必要な子ども理解や教科等の授業力について指導主事等による口頭指導 第3回：力量ある新人教員に必要な子ども理解や教科等の授業力について観察指導 第4回：実務への参与による作業指導、作業点検指導等（1） 第5回：力量ある新人教員に必要な学級経営能力・資質の修得について指導主事等による講義・講話 第6回：力量ある新人教員に必要な学級経営能力・資質の修得について指導主事等による口頭指導 第7回：力量ある新人教員に必要な学級経営能力・資質の修得について観察指導 第8回：実務への参与による作業指導、作業点検指導等（2） 第9回：教育研修施設のプログラムに沿った指導主事等による講義・講話 第10回：教育研修施設のプログラムに沿った指導主事等による口頭指導 第11回：教育研修施設のプログラムに沿った観察指導 第12回：実務への参与による作業指導、作業点検指導等（3） 第13回：実務への参与による作業指導、作業点検指導等（4） 第14回：実務への参与による作業指導、作業点検指導等（5） 第15回：まとめ</p>	

達成目標	
<p>基礎能力発展実習や学校教育実践研究実習において修得した力量ある新人教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解及び教科等の指導力を、連携協力校や宮崎県教育研修センターや宮崎市教育情報研修センター等で実施されている児童・生徒を対象とした教育活動や研修講座等に、体験参加したり参与したりすることを通して、学校づくりの有力な一員としての資質をより確かなものにする。この科目は、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究それぞれの能力を養う。</p>	

成績評価基準	
<p>宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規に基づく。達成度チェックは達成度評価指標による。</p>	

成績評価方法	
<p>実習校・施設の点数並びに指導教員の「事後指導報告書」に基づく大学の点数を総合して評価する。</p>	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
<p>教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申合せに基づいて対応する。</p>	

文献・教材	

関連する授業科目	

履修上の注意	
<p>この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。</p>	

オフィスアワー	
【前期】	【後期】

備考	

参考URL	

ファイル	

更新日付	
2017/03/02 10:26:40	

科目コード	M8160	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	教職総合研究 I				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、伊波 富久美、大平 明夫、兼重 幸弘、木根 主税、新地 辰朗、菅 裕、竹内 元、				
開講日	通年 金曜日 1・2時限				

授業概要
<p>この授業は、以下の3つの事柄から成っている。教職大学院での学習達成度評価にかかわる科目なので、これまでの授業、教育実習などのあらゆる学習を振り返るとともに、自ら設定した課題についての研究を行う。授業時間以外における各自の能動的な学習を求めるものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度チェック <ul style="list-style-type: none"> ・使命感・倫理観 ・学校・学級経営 ・子ども理解 ・授業力 2. 課題研究レポート 3. 課題研究発表会

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度チェック <ul style="list-style-type: none"> ・学習達成度評価専門委員会による実施計画にそって領域ごとに行われる。 2. 課題研究レポート <p>例として、以下のような構成が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究の背景 (2) 問題の所在、または、研究の目的 (3) 研究の方法 (4) 研究の結果(事実の提示) (5) 結論と考察 (6) 今後の課題 (7) 引用文献 3. 課題研究発表会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 2月上旬頃に、課題研究発表会を実施する。 (2) 発表形式は口頭発表とする。 (3) 課題研究の内容を発表する。 (4) 大学院での修学全般が、今後の教師生活(教師を目指す生活)に、どのように生かされるかについて言及する。 4. 課題研究レポート抄録 <p>教育学研究科として刊行する「課題研究レポート抄録」に、課題研究レポートの抄録(一人あたり4ページ)を掲載する。書式や提出締切日は、教務学生支援係から指定されるものに従う。</p> <p>毎回の授業の計画の概要は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 授業力(1) 授業力担当教員全員(学生に合わせて配置) 第2回 授業力(2) 授業力担当教員全員(学生に合わせて配置) 第3回 授業力(3) 授業力担当教員全員(学生に合わせて配置) 第4回 学校・学級経営(1) 押田・厨子・山本・中野 第5回 学校・学級経営(2) 押田・厨子・山本・中野 第6回 学校・学級経営(3) 押田・厨子・山本・中野 第7回 子ども理解(1) 立元・川口 第8回 子ども理解(2) 立元・川口 第9回 子ども理解(3) 立元・川口 第10回 使命感・倫理観(1) 厨子・山本・中野・中山 第11回 使命感・倫理観(2) 厨子・山本・中野・中山 第12回 使命感・倫理観(3) 厨子・山本・中野・中山 第13回 まとめ(1) 幸研究科長, 菅専攻長, 学習達成度評価専門委員会関係教員 第14回 まとめ(2) 幸研究科長, 菅専攻長, 学習達成度評価専門委員会関係教員 第15回 まとめ(3) 研究科長, 専攻長, 学習達成度評価専門委員会関係教員

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度チェック <p>達成度評価指標が示す観点と到達目標による。</p> 2. 課題研究レポート及び課題研究発表会 <p>教育実践にかかわる課題を定義し、研究して発表する。</p>

成績評価基準
<p>宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規に基づく。達成度チェックは達成度評価指標による。課題研究は課題研究の指導教員などによる判定による。</p>

成績評価方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度チェック <p>ポートフォリオの提出による。</p> 2. 課題研究 <p>課題研究レポートの提出と、課題研究発表会における発表による。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申合せに基づいて対応する。ポートフォリオは返却する。課題研究レポートは返却しない。</p>

文献・教材
<p>領域の担当教員や課題研究の指導教員が必要に応じて指定する。</p>

関連する授業科目
<p>本専攻のすべての講義・演習・実習が関連する。</p>

履修上の注意
<p>開講計画の詳細については、学習達成度評価専門委員会から提示されるので、それに基づいて受講すること。 ポートフォリオ作成や課題研究レポート作成の大半を自宅学習として課す。</p>

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日の昼休憩</td> <td>火曜日の昼休憩</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日の昼休憩	火曜日の昼休憩
【前期】	【後期】			
火曜日の昼休憩	火曜日の昼休憩			

備考
<p>「教職総合研究 I」は、1年間での修了を目指す現職院生向けの科目である。</p>

参考URL
<p></p>

ファイル
<p>130304_達成度評価様式(教総研究 I 学生用).doc</p>

更新日付
<p>2017/02/17 23:08:54</p>

科目コード	M8170	配当年次	2年	単位数	2
授業科目	教職総合研究 II				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、伊波 富久美、大平 明夫、兼重 幸弘、木根 主税、新地 辰朗、菅 裕、竹内 元、				
開講日	通年 金曜日 3・4時限				

授業概要
<p>この授業は、以下の3つの事柄から成っている。教職大学院での学習達成度評価にかかわる科目なので、これまでの授業、教育実習などのあらゆる学習を振り返るとともに、自ら設定した課題についての研究を行う。授業時間以外における各自の能動的な学習を求めめるものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度チェック <ul style="list-style-type: none"> ・使命感・倫理観 ・学校・学級経営 ・子ども理解 ・授業力 2. 課題研究レポート 3. 課題研究発表会

授業計画																																													
<ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度チェック <ul style="list-style-type: none"> ・学習達成度評価専門委員会による実施計画にそって領域ごとに行われる。 2. 課題研究レポート <p>例として、以下のような構成が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究の背景 (2) 問題の所在、または、研究の目的 (3) 研究の方法 (4) 研究の結果(事実の提示) (5) 結論と考察 (6) 今後の課題 (7) 引用文献 3. 課題研究発表会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 2月上旬頃に、課題研究発表会を実施する。 (2) 発表形式はポスター発表とする。 (3) 課題研究の内容を発表する。 (4) 大学院での修学全般が、今後の教師生活(教師を目指す生活)に、どのように生かされるかについて言及する。 4. 課題研究レポート抄録 <p>教育学研究科として刊行する「課題研究レポート抄録」に、課題研究レポートの抄録(一人あたり4ページ)を掲載する。書式や提出締切日は、教務学生支援係から指定されるものに従う。</p> <p>毎回の授業の計画の概要は以下の通り。</p> <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>使命感・倫理観(1)</td><td>厨子・山本・中野・中山</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>使命感・倫理観(2)</td><td>厨子・山本・中野・中山</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>使命感・倫理観(3)</td><td>厨子・山本・中野・中山</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>学校・学級経営(1)</td><td>押田・厨子・山本・中野</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>学校・学級経営(2)</td><td>押田・厨子・山本・中野</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>学校・学級経営(3)</td><td>押田・厨子・山本・中野</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>子ども理解(1)</td><td>立元・川口</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>子ども理解(2)</td><td>立元・川口</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>子ども理解(3)</td><td>立元・川口</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>授業力(1)</td><td>授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>授業力(2)</td><td>授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>授業力(3)</td><td>授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>まとめ(1)</td><td>研究科長、専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>まとめ(2)</td><td>幸研究科長、菅専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ(3)</td><td>幸研究科長、菅専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員</td></tr> </table> 	第1回	使命感・倫理観(1)	厨子・山本・中野・中山	第2回	使命感・倫理観(2)	厨子・山本・中野・中山	第3回	使命感・倫理観(3)	厨子・山本・中野・中山	第4回	学校・学級経営(1)	押田・厨子・山本・中野	第5回	学校・学級経営(2)	押田・厨子・山本・中野	第6回	学校・学級経営(3)	押田・厨子・山本・中野	第7回	子ども理解(1)	立元・川口	第8回	子ども理解(2)	立元・川口	第9回	子ども理解(3)	立元・川口	第10回	授業力(1)	授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)	第11回	授業力(2)	授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)	第12回	授業力(3)	授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)	第13回	まとめ(1)	研究科長、専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員	第14回	まとめ(2)	幸研究科長、菅専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員	第15回	まとめ(3)	幸研究科長、菅専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員
第1回	使命感・倫理観(1)	厨子・山本・中野・中山																																											
第2回	使命感・倫理観(2)	厨子・山本・中野・中山																																											
第3回	使命感・倫理観(3)	厨子・山本・中野・中山																																											
第4回	学校・学級経営(1)	押田・厨子・山本・中野																																											
第5回	学校・学級経営(2)	押田・厨子・山本・中野																																											
第6回	学校・学級経営(3)	押田・厨子・山本・中野																																											
第7回	子ども理解(1)	立元・川口																																											
第8回	子ども理解(2)	立元・川口																																											
第9回	子ども理解(3)	立元・川口																																											
第10回	授業力(1)	授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)																																											
第11回	授業力(2)	授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)																																											
第12回	授業力(3)	授業力担当教員全員(学生に合わせて配置)																																											
第13回	まとめ(1)	研究科長、専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員																																											
第14回	まとめ(2)	幸研究科長、菅専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員																																											
第15回	まとめ(3)	幸研究科長、菅専攻長、学習達成度評価専門委員会関係教員																																											

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度チェック <p>達成度評価指標が示す観点と到達目標による。</p> 2. 課題研究レポート及び課題研究発表会 <p>教育実践にかかわる課題を定義し、研究して発表する。</p>

成績評価基準
<p>宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規に基づく。達成度チェックは達成度評価指標による。課題研究は課題研究の指導教員などによる判定による。</p>

成績評価方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度チェック <p>ポートフォリオの提出による。</p> 2. 課題研究 <p>課題研究レポートの提出と、課題研究発表会における発表による。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申合せに基づいて対応する。ポートフォリオは返却する。課題研究レポートは返却しない。</p>

文献・教材
<p>領域の担当教員や課題研究の指導教員が必要に応じて指定する。</p>

関連する授業科目
<p>本専攻のすべての講義・演習・実習が関連する。</p>

履修上の注意
<p>開講計画の詳細については、学習達成度評価専門委員会から提示されるので、それに基づいて受講すること。 ポートフォリオ作成や課題研究レポート作成の大半を自宅学習として課す。</p>

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日の昼休憩</td> <td>火曜日の昼休憩</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日の昼休憩	火曜日の昼休憩
【前期】	【後期】			
火曜日の昼休憩	火曜日の昼休憩			

備考
<p>「教職総合研究 II」は、2年間以上での修了を目指すストレート院生向けの科目である。</p>

参考URL						
<table border="1"> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>						

ファイル
<p>130304_達成度評価様式(教総研究 II 学生用).doc</p>

更新日付
<p>2017/02/17 23:09:25</p>

科目コード	M8180	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学校組織マネジメントと評価				
(英語名称)					
担当教員	山本 真司、湯田 拓史				
開講日	前期 火曜日 9・10時限				

授業概要
<p>まず、教育改革における学校評価の導入によって組織マネジメント（学校経営の組織開発）が要請されていることを理解する。次いで、組織マネジメントと学校評価を結びつけることの重要性を指摘し、学校評価に基づく組織マネジメントの課題と解決策の工夫について理解する。最後に、学校・教育委員会・地域社会間の協動的な学校評価システムづくりと組織マネジメントの課題及び課題解決の工夫について理解し、組織マネジメントの推進のためには研修の組織化が不可欠であることを理解する。</p>

授業計画
<p>授業は、前半に講義、後半に演習の構成で実施する。</p> <p>第1回 学校組織マネジメントと評価に関する課題の明確化とオリエンテーション 第2回 学校改善の課題 第3回 学校改善の方法 第4回 学校改善のリーダーシップ 第5回 学校評価の制作 第6回 学校ビジョンの設計 第7回 学校経営計画の立案1 第8回 学校経営計画の立案2 第9回 学校の内部評価1 第10回 学校の内部評価2 第11回 学校の組織開発 第12回 学校の外部評価1 第13回 学校の外部評価2 第14回 学区との連携・協働 第15回 まとめ</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。</p> <p>1 組織マネジメント（学校経営の組織開発）を促す学校評価の意義と役割を理解し、学校評価の観点からの組織マネジメントを担うことができる。</p> <p>2 学校評価を促す組織マネジメントづくりの課題を具体的に理解し、その効果的な解決策を工夫することができる。</p> <p>3 組織マネジメントを促進する協動的な学校評価システムづくりの課題を具体的に理解し、その効果的な解決策を工夫することができる。</p> <p>4 1～3について、校内の他の教職員を指導・助言することができ、また地域の諸学校の教職員を指導・助言することができる。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行う。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>・到達目標の観点に即して、レポート等の方法により、総合的に判定・評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
<p>テキスト：篠原清昭編著『学校改善マネジメント』ミネルヴァ書房、2012年 必要な資料等は、授業中に適宜配布する。</p>

関連する授業科目
学校経営の実践と課題

履修上の注意
毎回、テキスト並びに関連文献・資料等をもとに予習・復習をしておくこと。

オフィスアワー								
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>湯田：木曜日 11：45～12：45</td> <td>湯田：木曜日 11：45～12：45</td> </tr> <tr> <td>山本：木曜日 11：45～12：45</td> <td>山本：木曜日 11：45～12：45</td> </tr> <tr> <td>中野：火曜日 11：45～12：45</td> <td>中野：火曜日 11：45～12：45</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	湯田：木曜日 11：45～12：45	湯田：木曜日 11：45～12：45	山本：木曜日 11：45～12：45	山本：木曜日 11：45～12：45	中野：火曜日 11：45～12：45	中野：火曜日 11：45～12：45
【前期】	【後期】							
湯田：木曜日 11：45～12：45	湯田：木曜日 11：45～12：45							
山本：木曜日 11：45～12：45	山本：木曜日 11：45～12：45							
中野：火曜日 11：45～12：45	中野：火曜日 11：45～12：45							

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/09 15:51:03

科目コード	M8190	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	教職員の職能開発とプログラム開発				
(英語名称)					
担当教員	山本 真司、湯田 拓史				
開講日	後期 火曜日 9・10時限				

授業概要	
<p>近年の教育改革の観点から教職員の職能開発が要請される背景を指摘し、職能開発には組織マネジメントが必要であることを理解する。 その上で、教職員のライフステージ及び職務内容に応じた研修プログラム開発の工夫について理解し、ケースメソッド方式の研修プログラムの開発を行う。</p>	

授業計画	
第1回	教職員の職能開発とプログラム開発上の課題の明確化とオリエンテーション
第2回	教職員の職能開発の在り方1 - 教職員の資質・力量と職能開発 - (事例研究)
第3回	教職員の職能開発の在り方2 - 教職員評価と職能開発 - (事例研究)
第4回	教職員の職能開発の在り方3 - 職能開発と組織マネジメントづくり - (事例研究)
第5回	教職員のライフステージに即した研修プログラム1 (事例研究・ワークショップ)
第6回	教職員のライフステージに即した研修プログラム2 (事例研究・ワークショップ)
第7回	教職員のライフステージに即した研修プログラム3 (事例研究・ワークショップ)
第8回	職務内容別の研修プログラム1 (事例研究・ワークショップ)
第9回	職務内容別の研修プログラム2 (事例研究・ワークショップ)
第10回	職務内容別の研修プログラム3 (事例研究・ワークショップ)
第11回	研修プログラムの開発1 (ワークショップ)
第12回	研修プログラムの開発2 (ワークショップ)
第13回	研修プログラムの開発3 (演習)
第14回	研修プログラムの開発4 (演習)
第15回	まとめ

達成目標	
<p>ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。 1 教職員としての自らの職能開発を促す研修プログラム開発の在り方について理解し、自らの職能課題に即したプログラムを開発することができる。 2 教職員のライフステージに即した研修プログラム開発について理解し、対象者別のプログラムを作成することができる。 3 職務内容に応じた研修プログラム開発について理解し、職務内容別のプログラムを開発することができる。 4 1～3について校内の他の旧職員を指導・助言することができ、また、地域の諸学校の教職員を指導・助言することができる。</p>	

成績評価基準	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。	

成績評価方法	
<p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・到達目標の観点に即して、レポート等の方法により、総合的に判定・評価する。</p>	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。	

文献・教材	
<p>テキストについては、別途指示する。必要な資料等は、授業中適宜配布する。 参考書：木岡一明編『教職員の職能発達と組織開発』（教育開発研究所）</p>	

関連する授業科目	

履修上の注意	
授業時間が変則的になることがある。	

オフィスアワー	
【前期】	【後期】
湯田：木曜日11時45分～12時45分	湯田：木曜日11時45分～12時45分
山本：木曜日11時45分～12時45分	山本：木曜日11時45分～12時45分
中野：火曜日11時45分～12時45分	中野：火曜日11時45分～12時45分

備考	

参考URL	

ファイル	

更新日付	
2017/03/09 13:21:14	

科目コード	M8200	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学校の危機管理の理論と事例演習				
(英語名称)					
担当教員	山本 真司、湯田 拓史				
開講日	前期 木曜日 1・2時限				

授業概要	
<p>まず、学校の危機管理・安全管理の基本事項について講義を行い、次に学校危機管理・安全管理のための学校組織マネジメントの具体的事例について演習を行う。そして学校危機管理・安全管理のための計画づくりに取り組む(ワークショップ)。最後に、学校危機管理のアカウントビリティーについて、保護者、子ども、マスコミへの説明の方法と改善の工夫について検討・検証する(ロールプレイング、ワークショップ)。</p>	

授業計画	
第1回	学校の危機管理・安全管理上の課題の明確化とオリエンテーション
第2回	学校危機管理・安全管理の基本事項1 - 子どもを取り巻く危険と事件・事故1 - (講義・事例研究)
第3回	学校危機管理・安全管理の基本事項2 - 子どもを取り巻く危険と事件・事故2 - (講義・事例研究)
第4回	学校危機管理・安全管理の基本事項3 - 子どもを取り巻く危険と事件・事故3 - (講義・事例研究)
第5回	学校危機管理・安全管理の基本事項4 - 学校安全・危機管理のまとめ - (講義・事例研究)
第6回	学校安全・危機管理のすすめ方1 (講義・事例研究)
第7回	学校安全・危機管理のすすめ方2 (講義・事例研究)
第8回	学校安全・危機管理における教職員の役割 (講義・事例研究)
第9回	学校危機管理・安全管理のための計画づくり1 - 学校での危機発生に対応する緊急対応システム計画づくり - (ワークショップ)
第10回	学校危機管理・安全管理のための計画づくり2 - 地域での危機発生に対応する緊急対応システム計画づくり -
第11回	学校危機管理・安全管理のための計画づくり3 - 保護者等の苦情に対応するシステム計画づくり -
第12回	学校危機管理・安全管理とアカウントビリティー1 - 保護者等への説明戦略と方法 - (ワークショップ、ロールプレイング)
第13回	学校危機管理・安全管理とアカウントビリティー2 - 子どもたちへの説明戦略と方法 - (ワークショップ、ロールプレイング)
第14回	学校危機管理・安全管理とアカウントビリティー3 - メディアへの説明戦略と方法 - (ワークショップ、ロールプレイング)
第15回	まとめ

達成目標	
<p>ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校危機管理・安全管理の基本事項について理論的に理解し、学校危機管理・安全管理のための組織マネジメントの実際を分析することができるとともに学校危機管理・安全管理のための具体的な計画づくりを行い、その効果を検討・検証することができる。 2 上記の事項について、校内の他の教職員を指導・助言することができる。 3 同様に、地域内の諸学校の教職員を指導・助言することができる。 	

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行う。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>・到達目標の観点に即して、レポート等の方法により、総合的に判定・評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
テキストについては、授業において別途指示する。必要な資料等は、授業中に適宜配布する。

関連する授業科目

履修上の注意
毎回、関連文献・資料等をもとに予習・復習をしておくこと。

オフィスアワー								
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>湯田：木曜日 11：45～12：45</td> <td>湯田：木曜日 11：45～12：45</td> </tr> <tr> <td>山本：木曜日 11：45～12：45</td> <td>山本：木曜日 11：45～12：45</td> </tr> <tr> <td>中野：火曜日 11：45～12：45</td> <td>中野：火曜日 11：45～12：45</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	湯田：木曜日 11：45～12：45	湯田：木曜日 11：45～12：45	山本：木曜日 11：45～12：45	山本：木曜日 11：45～12：45	中野：火曜日 11：45～12：45	中野：火曜日 11：45～12：45
【前期】	【後期】							
湯田：木曜日 11：45～12：45	湯田：木曜日 11：45～12：45							
山本：木曜日 11：45～12：45	山本：木曜日 11：45～12：45							
中野：火曜日 11：45～12：45	中野：火曜日 11：45～12：45							

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/09 16:19:02

科目コード	M8210	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学校法規の理論と実務演習				
(英語名称)					
担当教員	山本 真司、湯田 拓史				
開講日	前期 水曜日 1・2時限				

授業概要	
<p>教育法規の体系と種類、教育委員会と学校の関係、学校運営と教育法規、教育課程の編成と評価、教職員の身分・人事・勤務条件、そして教育改革と学校法規の関連など、学校の運営や教育実践をめぐる法規的基礎について講義と事例研究を研究者教員と実務家教員とが分担しながら実施すると共に、現職教員とストレート院生とに分かれてグループ討議と実務演習を行う。</p>	

授業計画	
第1回	現職教員学生の法規に関する課題の明確化とオリエンテーション
第2回	学校教育の法化現象と教育訴訟の構造転換
第3回	教育権論争と学習指導要領の法的拘束力
第4回	学校教育における平等と法
第5回	学校教育における信教の自由・政教分離と法
第6回	学校事故と法
第7回	学校事故と法
第8回	学校における体罰と法
第9回	児童生徒の懲戒と法
第10回	学校と児童虐待防止法
第11回	学校教育と情報法制
第12回	教員の非遵行為と法
第13回	教員の非遵行為と法
第14回	教員の非遵行為と法
第15回	まとめ

達成目標	
<p>ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公の性質をもつ公的機関としての学校の教育活動と学校運営の諸事項が、どのような法規的根拠に基づいているかについて基礎的な理論をりかひすることができる。また、この理解に基づいて学校教育活動と学校運営の諸問題りかひすることができる。 2 学校の教育活動と学校運営の円滑で適正な遂行を図るために、学校法規の観点から諸問題を解決する方策を工夫することができる。 3 学校法規に関する法的な理解とそれに基づく具体的な問題解決の工夫にあたって他の教職員を指導するとともに、所属する学校を越えて地域の諸学校の教職員に対しても指導することができる。 	

成績評価基準	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。	

成績評価方法	
<p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行う。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>・到達目標の観点に即して、レポート等の方法により、総合的に判定・評価する。</p>	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。	

文献・教材	
<p>テキスト：坂田仰『学校と法 - 「権利」と「公共性」の衝突 - 』放送大学教育振興会『教育小六法』最新版、若しくは『宮崎県教育関係者必携』を各自必携とする。</p>	

関連する授業科目	

履修上の注意	
<p>毎回、テキスト並びに関連文献・資料・判例等をもとに予習・復習をしておくこと。</p>	

オフィスアワー	
【前期】	【後期】
湯田：木曜日 11：45～12：45	湯田：木曜日 11：45～12：45
山本：木曜日 11：45～12：45	山本：木曜日 11：45～12：45
中野：火曜日 11：45～12：45	中野：火曜日 11：45～12：45

備考	

参考URL	

ファイル	

更新日付	
2017/03/09 16:43:27	

科目コード	M8220	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	児童生徒を生かす学級の教育環境づくり				
(英語名称)					
担当教員	東迫 健一、安影 亜紀、湯田 拓史				
開講日	前期 火曜日 1・2時限				

授業概要	
児童生徒を生かす学級の教育環境づくりの意義と内容、方法について理論的、実践的に理解し実践できる力量の形成を図るため、事例演習を中心に、次の学習を行う。	
<ol style="list-style-type: none"> 1 教育環境づくりと学級担任の役割に関する事例演習 2 児童生徒を生かす校内の教育環境づくりに関する事例演習 3 保護者・地域と連携した教育環境づくりに関する事例演習 4 児童生徒理解のための教育環境づくりと学級担任の工夫に関する事例演習 	

授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	児童生徒を生かす学級経営
第3回	児童生徒を生かす学級経営
第4回	児童生徒を生かす学級経営
第5回	児童生徒を生かす学級経営
第6回	校内で連携した教育環境づくり
第7回	校内で連携した教育環境づくり
第8回	校内で連携した教育環境づくり
第9回	保護者・地域と連携した教育環境づくり
第10回	保護者・地域と連携した教育環境づくり
第11回	保護者・地域と連携した教育環境づくり
第12回	保護者・地域と連携した教育環境づくり
第13回	行政と連携した教育環境づくり
第14回	行政と連携した教育環境づくり
第15回	まとめ

達成目標	
ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。	
<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒を生かす学級の教育環境づくりの意義と内容、方法について理論的、実践的に理解することができる。 2 1の理解に基づいて、具体的な場面において実践することができる。 3 1と2について、校内の他の教員に指導・助言することができる。 4 1と2について、地域内の諸学校の教員に指導・助言することができる。 	

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・到達目標の観点に即して、レポート等の方法により、総合的に判定・評価する。 ・第15回に院生による発表を課す。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
必要な資料等は、授業中に適宜配布する。

関連する授業科目
【共通必修】学級経営の実践と課題

履修上の注意
毎回、関連文献・資料等をもとに予習・復習をしておくこと。

オフィスアワー	
【前期】	【後期】
湯田：木曜日 11:45-12:45 東迫：金曜日 14:00~15:00	湯田：木曜日 11:45-12:45 東迫：金曜日 14:00~15:00

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/10 13:47:46

科目コード	M8230	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	特別活動の指導と児童生徒を生かす学級づくり				
(英語名称)					
担当教員	東迫 健一、湯田 拓史				
開講日	後期 火曜日 1・2時限				

授業概要
<p>まず、特別活動の指導の在り方と児童生徒を生かす学級づくりに関する理論的理解と実践の力量を形成するため、講義、事例研究、演習等を通して次の学習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動の人間形成的意義と指導の内容・方法の理解 2 特別活動の指導計画案と指導方法の工夫 3 学級づくりの今日的課題と特別活動指導の工夫

授業計画
<p>第1回：特別活動の指導と児童生徒を生かす学級づくりの課題の明確化とオリエンテーション 第2回：特別活動の人間形成的意義と指導の内容・方法の理解 1-学校・学級経営ビジョンと特別活動指導の目標-（講義、事例研究） 第3回：特別活動の人間形成的意義と指導の内容・方法の理解 2-学校・学級経営ビジョンと特別活動指導の方法-（講義、事例研究） 第4回：特別活動の人間形成的意義と指導の内容・方法の理解 3-学校・学級経営ビジョンと特別活動指導の内容-（講義、事例研究） 第5回：特別活動の指導計画案と指導方法の工夫 1-学級活動計画案と指導方法の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第6回：特別活動の指導計画案と指導方法の工夫 2-児童会・生徒会活動計画案と指導方法の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第7回：特別活動の指導計画案と指導方法の工夫 3-クラブ活動（部活動）計画案と指導方法の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第8回：特別活動の指導計画案と指導方法の工夫 4-学校行事計画案と指導方法の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第9回：学級づくりの今日的課題と特別活動指導の工夫 1-学校・地域・児童生徒の実態を重視した特別活動指導の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第10回：学級づくりの今日的課題と特別活動指導の工夫 2-家庭・地域と連携した特別活動指導の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第11回：学級づくりの今日的課題と特別活動指導の工夫 3-社会教育施設等を活用した特別活動指導の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第12回：学級づくりの今日的課題と特別活動指導の工夫 4-生徒指導機能充実のための特別活動指導の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第13回：学級づくりの今日的課題と特別活動指導の工夫 5-ガイダンス機能充実のための特別活動指導の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第14回：学級づくりの今日的課題と特別活動指導の工夫 6-ボランティア活動促進のための特別活動指導の工夫-（事例研究、ワークショップ） 第15回：まとめ</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる、使命感・倫理観、学校・学級経営、課題研究の力を総合的に育成する。具体的には以下の通り。</p> <p>【共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動の人間形成的意義と指導の内容・方法を理解することができる。 2 特別活動の内容別の指導計画案を立案・実施し指導方法の改善を工夫することができる。 3 学級づくりの今日的課題に対応して特別活動指導を工夫・改善することができる。 <p>【現職】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 1～3について、校内の他の教員を指導・助言し、また、地域内の諸学校の教員を指導・助言することができる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>・到達目標の観点に即して、レポート等の方法により、総合的に判定・評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
テキストについては、別途授業で指示する。必要な資料等は、授業中に適宜配布する。

関連する授業科目

履修上の注意

オフィスアワー						
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>湯田：木曜日 11:45～12:45</td> <td>湯田：木曜日 11:45～12:45</td> </tr> <tr> <td>東迫：金曜日 14:00～15:00</td> <td>東迫：金曜日 14:00～15:00</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	湯田：木曜日 11:45～12:45	湯田：木曜日 11:45～12:45	東迫：金曜日 14:00～15:00	東迫：金曜日 14:00～15:00
【前期】	【後期】					
湯田：木曜日 11:45～12:45	湯田：木曜日 11:45～12:45					
東迫：金曜日 14:00～15:00	東迫：金曜日 14:00～15:00					

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/10 14:21:35

科目コード	M8240	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学校教育環境研究				
(英語名称)					
担当教員	盛満 弥生				
開講日	前期 月曜日 7・8時限				

授業概要
<p>今日、学校を舞台として様々な問題が生じている。これらは、個々の子どもや教師、個別の教室や学校の問題であるとともに、学校文化や組織・制度総体が生み出している問題でもある。本講義では、なぜこのような現象が社会的に生み出されるのかを主に教育社会学の立場から明らかにした上で、個々の問題を診断し、介入する手立てを探求する。授業では、毎回指定する課題図書をもとに、講義と議論を行う。</p>

授業計画
<p>第1回：オリエンテーション 第2回：教育政策・教育改革に関する文献講読(1) 第3回：教育政策・教育改革に関する文献講読(2) 第4回：教育政策・教育改革に関する文献講読(3) 第5回：教育政策・教育改革に関する文献講読(4) 第6回：教育政策・教育改革に関する文献講読(5) 第7回：学校文化に関する文献講読(1) 第8回：学校文化に関する文献講読(2) 第9回：学校文化に関する文献講読(3) 第10回：学校文化に関する文献講読(4) 第11回：教育と不平等に関する文献講読(1) 第12回：教育と不平等に関する文献講読(2) 第13回：教育と不平等に関する文献講読(3) 第14回：教育と不平等に関する文献講読(4) 第15回：まとめ</p>

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の学校教育環境の現状と課題を理解することができる。 ・学校教育の実践において教育社会学の視点を活用することができる。 ・学校教育環境を改善するための取り組みを検討することができる。 <p>この科目は、ディプロマポリシーに掲げる、学校・学級経営、子ども理解、課題研究の力を総合的に育成する。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
出席率および、資料の収集や発表など授業への参加の度合い、レポートをもとに総合的に判定・評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
必要に応じて資料を配付する。参考文献は授業の中で適宜紹介する。

関連する授業科目

履修上の注意
<p>毎回、発表担当者が担当の文献や論文を簡単にまとめ、コメント(質問や自分の考え)を付したレジュメを準備し、それを基にして議論を行う。各自が事前に資料を読んできていることを前提に議論を進めます。発表者以外の人にも質問や感想を求めますので、積極的に議論に参加すること。</p>

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>金曜7・8時限</td> <td>月曜5・6時限</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	金曜7・8時限	月曜5・6時限
【前期】	【後期】			
金曜7・8時限	月曜5・6時限			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/12 09:08:29

科目コード	M8250	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学社融合の理論と実践				
(英語名称)					
担当教員	高橋 利行				
開講日	後期 火曜日 7・8時限				

授業概要
<p>地域の教育資源を学校教育で活用するために、また、学校が地域へ貢献するために、学社連携・融合をどのように進めていけばよいのかについて検討する。そのため、まずはじめに、受講者それぞれの経験に基づいた課題の共有（ディスカッション）を行った上で、学社連携・融合の理論について解説する（講義）。次に、先進的な実践事例等の分析・検討を行う（事例研究、ディスカッション）。そして、そこで得た知識を活用し、受講者それぞれが学社連携・融合の実践者となるために、実践計画の立案を行う（グループワーク、ディスカッション）。</p>

授業計画
<p>第1回：学社融合に関する現職教員の体験に基づいた学社融合の現状と課題の共有（ディスカッション） 第2回：生涯学習の理論と生涯学習社会における学校教育（主に講義） 第3回：学社融合の理論（主に講義） 第4回：日本の学社連携・融合に関する先進的な事例の報告（事例研究・受講者からの報告） 第5回：第4回の報告事例における課題の析出と改善点の検討（事例研究、ディスカッション） 第6回：宮崎の学社連携・融合に関する先進的な事例の報告（事例研究・受講者からの報告） 第7回：第6回の報告事例における課題の析出と改善点の検討（事例研究、ディスカッション） 第8回：学社連携・融合の実践計画を立案する際の視点の設定（講義、ディスカッション） 第9回：地域の教育資源を活用するための学社連携・融合の実践計画立案（グループワーク、ディスカッション） 第10回：地域に貢献するための学社連携・融合の実践計画立案（グループワーク、ディスカッション） 第11回：立案した実践計画の中間発表と改善点の共有（プレゼンテーション、ディスカッション） 第12回：総合的な学社連携・融合の実践計画の修正（グループワーク、ディスカッション） 第13回：立案した実践計画の最終発表（プレゼンテーション） 第14回：立案した実践計画の相互検討（ディスカッション） 第15回：学習成果の確認と課題の確認（ディスカッション）</p> <p>なお、取り上げる内容・順番等については、受講者のニーズにできるだけ応じられるように、随時、変更・修正しながら進められるようにしたい。</p>

達成目標
<p>学社連携・融合の理論と実践を学ぶことにより、より高度な教育実践力を身につけることを目指す。具体的には、以下の3点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例研究などを通して、地域の教育資源を学校教育で活用する方法を理解することができる。 2. 事例研究などを通して、学校が地域に貢献する方法を理解することができる。 3. 1.と2.の両面から、学社連携・融合の実践計画を立案することができるようになる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<p>レポートと平常点で総合的に評価する。レポートは、各自が立案した実践計画に関するものとなる。評価の観点は、計画の独自性と実現可能性（到達目標3.に関連）に加えて、地域の教育資源の活用度（到達目標1.に関連）および地域への貢献度（到達目標2.に関連）である。平常点は、授業における報告とディスカッションでの発言による授業への貢献などを評価する。大まかな配分は、レポート30%、平常点70%である。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
<p>テキストは特に指定せず、必要に応じて、講義の中で資料等を配付する。 参考書：山本恒夫ほか『生涯学習論』文憲堂、2007年 山本恒夫、浅井経子『総合的な学習の時間』のための学社連携・融合のハンドブック（新訂版）[問題解決・メディア活用・自己評価へのアプローチ]』文憲堂、2002年 その他、講義の中で適宜紹介する。</p>

関連する授業科目

履修上の注意
<p>受講生からの発表により展開される時間が多くなる。各時間の発表およびディスカッションの準備等のために、授業外での学習時間をそれぞれ確保することが求められる。</p>

オフィスアワー						
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>水曜日12:00～13:00</td> <td>水曜日12:00～13:00</td> </tr> <tr> <td>その他、メール等でも随時対応。</td> <td>その他、メール等でも随時対応。</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	水曜日12:00～13:00	水曜日12:00～13:00	その他、メール等でも随時対応。	その他、メール等でも随時対応。
【前期】	【後期】					
水曜日12:00～13:00	水曜日12:00～13:00					
その他、メール等でも随時対応。	その他、メール等でも随時対応。					

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/08 12:20:20

科目コード	M8260	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	カウンセリングの理論とスキル開発Ⅰ(いじめ等への対応法)				
(英語名称)					
担当教員	高橋 高人、立元 真、東迫 健一				
開講日	前期 月曜日 1・2時限				

授業概要	成績評価基準		
<p>カウンセリングの基礎的な理論を整理し、具体的な学校での対応に結びつけて学習する。そして、学校現場で起こりうるメンタルヘルスの問題、さらにはいじめなどを中心とした攻撃性の問題、対人関係の問題について、その対応と予防について学習する。学校における児童生徒のいじめ、攻撃性、対人関係の問題に関する諸外国を含めた取り組みを現状を知り、そこから導き出されるアセスメント、対応策、授業を活用した予防的介入について学習する。</p>	<p>プレゼンテーション資料・授業態度・出席率75%以上により総合的に評価する。</p>		
授業計画	成績評価方法		
<p>第1回：カウンセリングに活用する基礎的な諸理論について：行動理論・学習理論。(高橋・立元・東迫) 第2回：カウンセリングに活用する基礎的な諸理論について：認知行動理論。(高橋・立元・東迫) 第3回：カウンセリングに関連する対人関係・対人コミュニケーションの理論について学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第4回：カウンセリングに関連する攻撃性の理論について学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第5回：カウンセリングに関連するクラスルームマネジメントの理論について学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第6回：カウンセリング理論から実践方法：いじめ、対人関係の問題に関する基礎知識を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第7回：カウンセリング理論から実践方法：いじめ、対人関係の問題に関する対応方法を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第8回：カウンセリング理論から実践方法：いじめ、対人関係の問題に関する予防方法を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第9回：カウンセリングを活用する諸問題：メンタルヘルスの問題に関する基礎知識を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第10回：カウンセリングを活用する諸問題：メンタルヘルスの問題に関する対応方法を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第11回：カウンセリングを活用する諸問題：メンタルヘルスの問題に関する予防方法を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第12回：学校で活用するコンサルテーションに関する基礎知識を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第13回：学校で活用するコンサルテーションに関する対応方法を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第14回：学校で活用するコンサルテーションに関する予防方法を学ぶ。(高橋・立元・東迫) 第15回：まとめ(高橋・立元・東迫)</p>	<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議により以下の評価の観点・方法により行う。</p>		
達成目標	成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について		
<p>カウンセリングの基礎理論を学習し、それを学校において実践できるようになることを目標とする。国内外におけるいじめ、対人関係の問題に関する先行研究を学び、学校で起きる問題に活用できるようになることを目指す。</p>	<p>宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき実施する。</p>		
	文献・教材		
	関連する授業科目		
	<p>学校カウンセリングの実践と課題(共通必修)</p>		
	履修上の注意		
	オフィスアワー		
	<table border="0"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【前期】 隨時 但しメール等によるアポイントがあること s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【後期】 隨時 但しメール等によるアポイントがあること ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</p> </td> </tr> </table>	<p>【前期】 隨時 但しメール等によるアポイントがあること s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</p>	<p>【後期】 隨時 但しメール等によるアポイントがあること ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</p>
<p>【前期】 隨時 但しメール等によるアポイントがあること s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</p>	<p>【後期】 隨時 但しメール等によるアポイントがあること ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</p>		
	備考		
	参考URL		
	<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>		
	ファイル		
	<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>		
	更新日付		
	2017/03/10 16:24:40		

科目コード	M8270	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	カウンセリングの理論とスキル開発 II (問題行動への対応)				
(英語名称)					
担当教員	高橋 高人、立元 真、東迫 健一				
開講日	後期 月曜日 1・2時限				

授業概要
<p>本科目は、必修科目「学校カウンセリングの実践と課題」に引き続くアドバンスコースとして位置づけられる。学校現場で起こりうる問題を教育相談という視点から捉え、必須の基本技法としてカウンセリング上のスキルを習得する。さらに、教員間の連携のあり方(実務家教員)、保護者との連携のあり方(研究者教員)、地域や他機関との連携(研究者教員・実務家教員)など連携システムの中で、教育相談の技法を生かしていく事例検討を通して、より有効な具体的な連携の在り方を検討していく。</p>

授業計画
<p>第1回：教育相談とはなにか？ 学校カウンセリングとは何か(講義, グループ討議)(立元・東迫・高橋) 第2回：保護者カウンセリングの実態(講義, グループ討議:立元・東迫・高橋) 第3回：学校カウンセリングの実態(講義, グループ討議:立元・東迫・高橋) 第4回：学校カウンセリングの基本技法 自己一致と共感的理解(講義, 演習:立元・東迫・高橋) 第5回：学校カウンセリングの基本技法 おうむ返し, 反射,(講義, 演習:立元・東迫・高橋) 第6回：学校カウンセリングの基本技法 言い換え, 感情の明確化(講義, 演習:立元・東迫・高橋) 第7回：学校カウンセリングの基本技法 傾聴(講義, 演習:立元・東迫・高橋) 第8回：教育相談の実態(講義, グループ討議:立元・東迫・高橋) 第9回：就学・進路相談の実態(講義, グループ討議:立元・東迫・高橋) 第10回：児童・生徒の問題行動の個別要因の理解と指導(講義, 演習:立元・東迫・高橋) 第11回：集団の中での児童・生徒の問題行動の理解と指導(講義, 演習:立元・東迫・高橋) 第12回：児童・生徒の問題行動の社会的背景の理解と指導(講義, 演習:立元・東迫・高橋) 第13回：地域や他機関との連携の問題点を明確にする。(事例研究 東迫・立元・高橋) 第14回：地域や他機関との連携の成功事例の提示対応法の修得(事例研究 東迫・立元・高橋) 第15回：ディスカッションとまとめ(事例研究・グループ討議: カウンセリング専門教員の立場と実務教員の立場から助言する。(立元・東迫・高橋)</p>

達成目標
<p>必修科目「学校カウンセリングの実践と課題」に関連するアドバンスコースとして学校現場で起こりうる問題、教育相談という視点から捉え、「連携システム」の構築による問題の改善できる論理的思考力、問題解決能力を高め、対応法をスキルアップすることができる。</p>

成績評価基準
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議により以下の評価の観点・方法により行う。</p>

成績評価方法
<p>プレゼンテーション資料・授業態度・レポート提出、出席率(75%以上)により総合的に評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき実施する。</p>

文献・教材

関連する授業科目
<p>学校カウンセリングの実践と課題</p>

履修上の注意

オフィスアワー
<p>【前期】 随時 但しメール等によるアポイントがあること s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</p> <p>【後期】 随時 但しメール等によるアポイントがあること ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/10 16:27:36

科目コード	M8280	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	発達障害児への教育的支援とコンサルテーション				
(英語名称)					
担当教員	立元 真、戸ヶ崎 泰子				
開講日	前期 月曜日 7・8時限				

授業概要

この科目は、SLD(限局性学習症)、ADHD(注意欠如多動症)、自閉スペクトラム症(ASD)等の児童生徒への教育的支援のあり方、特別支援教育の体制整備という2つのテーマから構成される。「SLD、ADHD、ASD等の理解」、「SLD、ADHD、ASD等の児童生徒への教育的支援」、「学校内の特別支援教育体制の構築」をキーワードとして、個別の指導計画の作成、学習指導案および教材の作成、模擬授業や実際の指導、校内の特別支援教育体制整備に向けた検討も交えながら体験的に発達障害児への支援技術、および特別支援教育体制整備に向けた各教員の役割について学習する。

- 授業計画**
- 第1回 特別支援教育の制度と考え方(講義・グループ討議)
 - 第2回 インクルーシブ教育と特別支援教育(講義・グループ討議)
 - 第3回 限局性学習症(SLD)の特徴(講義・グループ討議)
 - 第4回 注意欠如多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)の特徴(講義・グループ討議)
 - 第5回 発達障害と二次障害(講義・グループ討議)
 - 第6回 発達障害の児童生徒のアセスメントに関する基本理論(講義)
 - 第7回 発達障害の児童生徒の知的・認知的側面のアセスメント(演習)
 - 第8回 発達障害の児童生徒の行動アセスメントの理論(講義)
 - 第9回 発達障害の児童生徒の行動アセスメントの演習(演習)
 - 第10回 発達障害の児童生徒の個別の指導計画の作成(演習)
 - 第11回 発達障害のある児童生徒への学習面のつまずきに対する指導・支援(事例検討)
 - 第12回 発達障害の児童生徒の個別の指導計画のプレゼンテーションと検討・・・課題
 - 第13回 発達障害のある児童生徒への行動面のつまずきに対する指導・支援(事例検討)
 - 第14回 模擬授業と模擬授業の検討(発表・グループ討議)・・・課題
 - 第15回 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の就学相談と進路指導(講義・グループ討議)

達成目標

SLD、ADHD、ASD等の児童生徒への有効な教育的支援を実践していくために、SLD、ADHD、ASD等を正しく理解し、彼らが抱えているさまざまなつまずきや課題への教育的支援方法を考えることができる。
 発達障害の児童生徒への教育的支援の理論と支援方法の修得、及び特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。

成績評価基準

宮崎大学大学院教育学研究科受講科目の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法

この授業は、複数の教員による協働方式により行われ、評価は、担当時間数の多少にかかわらず担当教員の合議によって行う。
 成績は、授業時に実施する演習課題への取組、課題と課題の取組を総合評価する。
 所定の時間数の75%以上出席しなければ、定期試験の受験資格を得られない。出席不足の場合は改めて受講しなければならない。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について

宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の成績評価に対する申し立てに関する申し合わせによる。

文献・教材

適宜紹介する。

関連する授業科目

特別支援教育の理論と実際

履修上の注意

この科目の内容は、将来教員になる者にとって、忘れてはならない事項である。したがって、日頃から計画的に学習時間を確保し、授業内容の復習しておくこと。また、単位修得後もしっかりと復習をし、基本事項の定着を図り、教育実践力の向上に努めること。

オフィスアワー

【前期】 各教員に確認すること。	【後期】 各教員に確認すること。
---------------------	---------------------

備考

参考URL

ファイル

更新日付

2017/03/10 12:12:10

科目コード	M8320	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	家庭教育支援・連携プログラムの理論とスキル開発				
(英語名称)					
担当教員	立元 真、東迫 健一				
開講日	後期 月曜日 9・10時限				

授業概要
<p>家庭と学校の連携による日常の発達支援や家庭教育学級、幼小中の連携場面における教育活動を前提とする。中心的な学習内容として養育スキルを扱う。そのために、ペアレントトレーニングのトレーナーレベルの技量を養成する。実践力を高めるために、般化を企図した多様なロールプレイ場面の設定と、過剰学習を意図して授業を展開する。本授業は、教育現場でもこれから普及していく内容が大部分を占めるので、現職教員・ストレートマスターを区別せず授業を行う。</p>

授業計画
<p>第1回 家庭教育支援の現状と課題（予防的集団施行と個別施行、年齢段階ごとのプログラム）（講義：立元・東迫） 第2回 行動論、認知行動論と発達段階（講義：立元・東迫） 第3回 基本プログラム演習 -1 「子どもの行動に注目した心の教育」プレゼン（講義：立元・東迫） 第4回 基本プログラム演習 -2 「子どもの行動に注目した心の教育」演習と討論（演習と討論：立元・東迫） 第5回 基本プログラム演習 -1 「望ましい行動を強め学習させていくこと」プレゼン（講義：立元・東迫） 第6回 基本プログラム演習 -2 「望ましい行動を強め学習させていくこと」演習と討論（演習と討論：立元・東迫） 第8回 基本プログラム演習 -1 「子どもの問題行動への対処」プレゼン（講義：立元・東迫） 第9回 基本プログラム演習 -2 「子どもの問題行動への対処」演習と討論（演習と討論：立元・東迫） 第10回 基本プログラム演習 -1 「家庭でのSST」プレゼン（講義：立元・東迫） 第11回 基本プログラム演習 -2 「家庭でのSST」演習と討論（演習と討論：立元・東迫） 第12回 基本プログラム演習 -1 「家庭学習指導等」プレゼン（講義：立元・東迫） 第13回 基本プログラム演習 -2 「家庭学習指導等」演習と討論（演習と討論：立元・東迫） 第14回 オリジナルプログラムの提案（演習：立元・東迫） 第15回 まとめ（講義：立元・東迫）</p>

達成目標
<p>生徒指導における学校と家庭・地域・関係機関との連携について理解し、保護者との連携においてペアレントトレーニングの基本プログラムを設定し、トレーナーレベルの指導が出来ることを目標とする。</p>

成績評価基準
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議により以下の評価の観点・方法により行う。</p>

成績評価方法
<p>授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・レポート等で総合的に評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき実施する。</p>

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意

オフィスアワー						
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>随時 但しメール等によるアポイントがあること</td> <td>随時 但しメール等によるアポイントがあること</td> </tr> <tr> <td>s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</td> <td>ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	随時 但しメール等によるアポイントがあること	随時 但しメール等によるアポイントがあること	s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]	ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]
【前期】	【後期】					
随時 但しメール等によるアポイントがあること	随時 但しメール等によるアポイントがあること					
s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]	ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]					

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/10 16:07:35

科目コード	M8330	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	特別支援教育の理論と実際				
(英語名称)					
担当教員	中井 靖、未定				
開講日	後期 木曜日 7・8時限				

授業概要	
<p>特別支援教育の専門性とは、特別な支援の必要な子どものアセスメント、実際の指導、卒業後の自立を展望した計画作成のスキルの獲得はもちろん、通常の学級の教師、保護者、関連機関等、子どもを取り巻く関係者に特別な教育的支援の理解を促し、彼らの支援・関係調整を行う総合的なスキルから構成される。この授業では、特別支援教育の理念と制度の理解と、関係者の支援に役立つ方法論と指導技術の理解を目指す。</p>	

授業計画	
1	オリエンテーション(担当:中井)
2	特別支援教育の理念(担当:中井)
3	特別支援教育の制度(担当:中井)
4	特別支援教育の動向(中井)
5	インクルーシブ教育(担当:中井)
6	障害者差別解消法(担当:中井)
7	特別支援教育の課題(担当:中井)
8	前半のまとめ(担当:中井)
9	アセスメントの意義と方法(担当:半田)
10	学習上のつまずきに対する指導(担当:半田)
11	社会的スキルの問題に対する指導(担当:半田)
12	行動上の問題に対する指導(担当:半田)
13	社会的自立・就労に向けた指導(担当:半田)
14	校内支援体制の構築と専門機関との連携(担当:半田)
15	後半のまとめ(担当:半田)

達成目標	
1	特別支援教育とそれを取り巻く理念や動向を理解する。
2	特別支援教育に関連するアセスメント、実際の指導のあり方を理解する。

成績評価基準	
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規による。	

成績評価方法	
<p>定期試験あるいはレポートの成績、受講状況等から総合的に評価する。所定の時間数の75%以上出席しなければ、定期試験の受験資格は得られない。出席不足の場合は改めて受講しなければならない。</p>	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規による。	

文献・教材	
<p>一般社団法人特別支援教育士資格認定協会(2012)S.E.N.S養成セミナー特別支援教育の理論と実践(第2版) . . . 金剛出版(担当:半田)</p>	

関連する授業科目	

履修上の注意	
<p>教員から課される事前学習に取り組むこと。また、各回の受講後に授業内容を振り返り、疑問が生じた場合は適宜質問あるいは自主学習をして理解を深めること。</p>	

オフィスアワー	
【前期】 各教員に確認すること。	【後期】 各教員に確認すること。

備考	

参考URL	

ファイル	

更新日付	
2017/03/09 10:27:09	

科目コード	M8340	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	教育課程編成の理論と方法				
(英語名称)					
担当教員	遠藤 宏美、安影 亜紀				
開講日	前期 木曜日 7・8時限				

授業概要	成績評価基準		
<p>本講義は、教育課程を編成するための理論について理解を深めるとともに、その方法について、学校現場で教育課程を編成していく手順を追いながら学修していく。「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」に示された学習指導要領等改訂の基本的な方向性をもとに、院生が分担制で準備したプレゼンテーション発表を通しての協議を行い、改善及び必要な方策等を採る。また、特色ある教育課程を編成している学校現場のフィールドワークを通して、今後の学校教育の方向性について見通す力を育成していく。</p>	<p>成績評価基準の規程に基づき評価する</p>		
授業計画	成績評価方法		
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（安影、遠藤） 2. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第1、2章」（安影、遠藤） 3. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第3章」（安影、遠藤） 4. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第4章」（安影、遠藤） 5. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第5章」（安影、遠藤） 6. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第5章」（安影、遠藤） 7. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第6章」（安影、遠藤） 8. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第7章」（安影、遠藤） 9. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第8章」（安影、遠藤） 10. 講義・演習「学習指導要領等改訂の基本的な方向性 第9、10章」（安影、遠藤） 11. フィールドワーク「特色ある教育課程」（遠藤、安影） 12. フィールドワーク「特色ある教育課程」（遠藤、安影） 13. フィールドワーク「特色ある教育課程」（遠藤、安影） 14. 演習「フィールドワークの整理」（遠藤、安影） 15. 発表・協議「フィールドワークを通しての学び」（遠藤、安影） 	<p>プレゼンテーション レポート</p>		
	成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について		
	<p>成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等についての規定に基づき対応する</p>		
	文献・教材		
	<p>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成28年12月</p>		
	関連する授業科目		
	<p>教育課程編成実務演習</p>		
	履修上の注意		
	<p>分担制で割り振られた回のプレゼンテーション発表の準備を確実にすること 発表の際にはレジュメを準備すること</p>		
	オフィスアワー		
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【前期】 事前にアポイントメントをとることが望ましい</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>【後期】 事前にアポイントメントをとることが望ましい</p> </td> </tr> </table>	<p>【前期】 事前にアポイントメントをとることが望ましい</p>	<p>【後期】 事前にアポイントメントをとることが望ましい</p>
<p>【前期】 事前にアポイントメントをとることが望ましい</p>	<p>【後期】 事前にアポイントメントをとることが望ましい</p>		
	備考		
	参考URL		
	ファイル		
	更新日付		
	2017/03/31 16:38:54		

達成目標
<p>ストレート大学院生 (1) 教育課程編成における基本理論を理解し、整理する。 (2) 教育課程編成の手順について、実際の学校現場を調査したり、イメージしたりしながら理解する。</p> <p>現職大学院生 (1) 教育課程編成における基本理論を理解し、整理する。 (2) 実際の学校現場における教育課程を評価し、学習指導要領改訂の基本的な方向性と関連付けて、教育課程の改善に向けた取組を計画できる。</p>

科目コード	M8360	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	授業実践研究				
(英語名称)					
担当教員	竹内 元、安影 亜紀				
開講日	前期 月曜日 5・6時限				

授業概要
<p>本科目は、事例検討を通して、発問や導入、学習形態の交互転換、学習規律づくり、指導的評価活動といった教授行為の在り方を検討し、授業実践をつくりだしたり、分析したりするキーワードを理解します。また、現代的な教育課題を総括的に把握することを通して、授業改革の特色と課題を理解します。なお、本科目は、ふりがえりレポートを作成するとともに、関連文献を読むことを課します。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳の教科化と授業改善 2. 情報教育の現在と授業改善 3. カリキュラムマネジメントと授業改善 4. 生活科の授業づくりの現在 5. アクティビティを基盤としたキャリア教育 6. 芸術家の知を活かした授業づくり 7. 「弁当の日」と授業実践 8. 「弁当の日」と教師の学び 9. これからの教師教育と教育方法 10. 校内研修の活性化と授業づくり 11. 子どものニーズに応じた全員参加の授業づくり 12. 学習規律づくりと指導的評価活動 13. 学習形態の交互転換と授業づくり 14. 教材解釈と発問づくり 15. 授業研究の現在 <p>現職院生は、教職総合研究と運動して、本講義における学習内容を指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取組として位置付けたり、同僚職員に授業改善のためのアドバイスをを行う在り方を探究したりします。 ストリート院生は、本講義における学習内容を指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取組として行い、教職総合研究と運動して、本講義を位置付けることを期待します。</p>

達成目標
<p>本科目は、本専攻の達成度評価指標に示された以下の能力を養います。</p> <p>【現職・ストリート共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教材解釈や発問の在り方、学習規律づくり、指導的評価活動が具体的事例を通して理解できる (2) 授業分析や指導案づくりを通して、教授行為の特性が理解できる (3) 授業実践をつくりだすキーワードが理解できる <p>【現職】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取組を行うことができる (2) ストリート院生に授業改善のためのアドバイスをすることができる <p>【ストリート】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取組を行うことができる (2) 学習形態の交互転換にある指導性を理解できる

成績評価基準
成績評価の基準に関する規程により評価する

成績評価方法
レポート

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等についての規程により対応する

文献・教材
湯浅恭正ほか編『新しい時代の教育の方法』ミネルバ書房、2010年、広島大学教育方法学研究室編著『いま求められる授業づくりの転換』淡水社、2016年ほか。また、講義のなかで参考文献等は提示します。

関連する授業科目
学習環境研究 教職総合研究

履修上の注意

オフィスアワー
【前期】月1・2 【後期】

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/14 15:31:43

科目コード	M8370	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	学習環境研究				
(英語名称)					
担当教員	竹内 元、安影 亜紀				
開講日	後期 月曜日 5・6時限				

授業概要
本年度は、学習形態・授業の機能など学習環境の構成にかかわる授業研究の在り方を検討します。また、子ども読書推進活動やキャリア教育実践を通して、ワークショップやアクティビティを視点とした学習環境の構成を扱います。

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 子ども読書推進活動の現在 3. 子ども読書推進活動の実践 読みきかせ 4. 子ども読書推進活動の実践 アニメーション 5. 物語の授業づくりと学習環境 6. 説明文の授業づくりと学習環境 7. 算数的活動と学習環境 8. 全員参加を保障する授業づくりと学習環境 9. 学習形態の転換と授業構成 10. ICT活用と学習環境 11. キャリア教育実践の分析 12. キャリア教育実践の分析 13. キャリア教育の実践課題 14. キャリア教育の現在 15. 読書サークルの実践 <p>図書館教育実践及びキャリア教育実践の模擬体験や読書サークル実践の体験学習を行います。また、積極的に県内外の公開研究会に参加することを提起します。</p> <p>現職院生は、教職総合研究と連動して、本講義における学習を指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取組として位置付けたり、同僚職員に授業改善のためのアドバイスをを行う在り方を探究したりいたします。 ストレート院生は、本講義における学習内容を指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取組として行い、教職総合研究と連動して、本講義を位置付けることを期待します。</p>

達成目標
<p>本科目は、本専攻の達成度評価指標に示された以下の能力を養います。</p> <p>【現職・ストレート共通】 学習環境の構成の在り方を多角的に理解し、教師の言語環境を構成する実践的な力量を形成する</p> <p>【現職】 (1) 指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取組を行うことができる (2) ストレート院生に授業改善のためのアドバイスをを行うことができる</p> <p>【ストレート】 (1) 指導方法の問題を調査・分析し、解決に向けた取組を行う</p>

成績評価基準
成績評価基準に関する規程に基づき評価します。

成績評価方法
レポート

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等についての規程により対応します。

文献・教材
参考文献は、講義のなかで紹介します。なお、専門書以外にも、児童書を読むことも要求します。

関連する授業科目
授業実践研究 教職総合研究

履修上の注意

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>月1・2</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】		月1・2
【前期】	【後期】			
	月1・2			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/16 12:35:58

科目コード	M8380	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	情報メディア教育開発研究				
(英語名称)					
担当教員	新地 辰朗、安影 亜紀				
開講日	後期 月曜日 3・4時限				

授業概要
<p>多様化の進む情報メディアの特性を整理し、単元や授業のねらいの達成に資する情報メディア活用について解説する。また、「21世紀型学力」の習得を目指すICT活用についても検討する。</p> <p>学習内容の確実な定着に資するICT活用という視点で、情報メディアを効果的に活用した授業（一単位時間）や単元を実際にデザインし、グループディスカッション等を通して具体的に検討する。なお、この科目では、単元の終了後にその内容についてミニレポートを課します。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・課題確認(新地・安影) 2. 情報メディアの進展、種類と特性について(新地・安影) 3. 教育の情報化について(新地・安影) 4. 「21世紀型学力」の習得を目指すICT活用について (新地・安影) 5. 「21世紀型学力」の習得を目指すICT活用について (新地・安影) 6. 情報メディアを活用した具体的授業実践(新地・安影) 7. デジタルコンテンツを活用した授業実践(新地・安影) 8. 情報メディアを活用した授業デザイン (新地・安影) 9. 情報メディアを活用した授業デザイン (新地・安影) 10. デジタル教科書について(新地・安影) 11. 情報メディアを活用した授業デザイン (新地・安影) 12. 情報メディアを活用した授業デザイン (新地・安影) 13. 協同学習システムについて(新地・安影) 14. ビデオ編集と活用方法について(新地・安影) 15. まとめ(新地・安影)

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・多様化の進む情報メディアの特性を、教育への活用の可能性という視点で理解できる。 ・教育の情報化の本質を理解した上で、授業改善や学級経営等に情報メディアを有効に活用できる。 ・ICT活用により高度な「授業力」を發揮できる。 <p>この科目は、ディプロマポリシーに掲げる使命感・倫理観、授業力に関する能力を養います。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規によるものとする

成績評価方法
授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・レポート・試験等で総合的に評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規によるものとする

文献・教材
<p>R. リチャード, M. チャーチ, K. モリソン著, 黒上晴夫, 小島亜華里 訳, 子どもの思考が見える21のルーチン. アクティブな学びをつくる. 北大路書房</p> <p>松尾豊, 『人工知能は人間を超えるのか』, KADOKAWA, 2015</p> <p>清水亮, 『よくわかる人工知能 最先端の人だけが知っているディープラーニングのひみつ』, KADOKAWA, 2016年</p> <p>五木田和也, 『コンピューターで「脳」がつかれるか』, 技術評論社, 2016年</p> <p>など</p>

関連する授業科目
情報メディアによる実践的指導方法と課題

履修上の注意

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日 7・8</td> <td>火曜日 7・8</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日 7・8	火曜日 7・8
【前期】	【後期】			
火曜日 7・8	火曜日 7・8			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/10 16:55:17

科目コード	M8390	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	道徳教育学習開発研究				
(英語名称)					
担当教員	椋木 香子、安影 亜紀				
開講日	後期 火曜日 7・8時限				

授業概要
道徳授業の分析の方法と視点を学び、実際の授業分析を通して、資料分析や発問構成などの在り方、授業づくりについて検討し、理解を深める。

授業計画
1. オリエンテーション・講義「道徳の授業分析と授業づくり」(椋木・安影) 2. 講義・演習「授業分析(1)小学校低学年の場合」(椋木・安影) 3. 講義・演習「授業分析(2)小学校低学年の場合」(椋木・安影) 4. 講義・演習「授業分析(3)小学校中学年の場合」(椋木・安影) 5. 講義・演習「授業分析(4)小学校中学年の場合」(椋木・安影) 6. 講義・演習「授業分析(5)小学校高学年の場合」(椋木・安影) 7. 講義・演習「授業分析(6)小学校高学年の場合」(椋木・安影) 8. 講義・演習「授業分析(7)中学校の場合」(椋木・安影) 9. 講義・演習「授業分析(8)中学校の場合」(椋木・安影) 10. 講義・演習「授業づくり(1)小学校低学年の場合」(安影・椋木) 11. 講義・演習「授業づくり(2)小学校中学年の場合」(安影・椋木) 12. 講義・演習「授業づくり(3)小学校高学年の場合」(安影・椋木) 13. 講義・演習「授業づくり(4)中学校の場合」(安影・椋木) 14. 講義・演習「模擬授業」(安影・椋木) 15. まとめ(安影・椋木)

達成目標
【現職】 道徳授業の分析を踏まえて、ストレート大学院生に対して、授業改善のための助言を行うことができる。 【ストレート】 道徳授業の分析を踏まえて、授業改善を行うことができる。

成績評価基準
成績評価基準に関する規定に基づき評価する。

成績評価方法
討論の参加度、及び作成した指導案の総合評価

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
成績に対する異議申し立て及び答案の返却・開示等の規定についての規定により対応する。

文献・教材
小学校学習指導要領解説道徳編 中学校学習指導要領解説道徳編 その他、適宜紹介する。

関連する授業科目
教科外活動の構成と展開・評価と課題 教職総合研究

履修上の注意
1. ストレート大学院生は実習で行った道徳授業の授業記録を作成すること。 2. 授業づくりでは実際に指導案を作成していくので、教材研究等を適宜、各自で進めること。 3. 授業は議論を中心に行う。積極的に参加すること。

オフィスアワー
【前期】 【後期】

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/22 14:47:02

科目コード	M8400	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	特別活動学習開発研究				
(英語名称)					
担当教員	盛満 弥生				
開講日	前期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の理論と実践および指導方法のあり方について検討する。 ・特別活動の実践をめぐる現状と課題について検討する。 ・特別活動の優れた実践事例を通して特別活動のカリキュラム開発に取り組む能力を向上させる。 ・授業では、毎回指定する課題図書をもとに、講義と議論を行う。

授業計画
第1回：オリエンテーション 第2回：特別活動の現状と課題（1） 第3回：特別活動の現状と課題（2） 第4回：特別活動の理論的基礎の検討（1） 第5回：特別活動の理論的基礎の検討（2） 第6回：特別活動の理論的基礎の検討（3） 第7回：学級活動の理論と実践（1） 第8回：学級活動の理論と実践（2） 第9回：学校行事の理論と実践（1） 第10回：学校行事の理論と実践（2） 第11回：児童会・生徒会の理論と実践（1） 第12回：児童会・生徒会の理論と実践（2） 第13回：クラブ活動・部活動の理論と実践（1） 第14回：クラブ活動・部活動の理論と実践（2） 第15回：まとめ

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の理論的基礎を学習し、実践の意味を理解することができる。 ・特別活動の実践の現状と課題を理解することができる。 ・特別活動のカリキュラム開発に取り組む能力を向上させる。 <p>この科目は、ディプロマポリシーに掲げる、学校・学級経営、授業力、課題研究の力を総合的に育成する。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
出席率および、資料の収集や発表など授業への参加の度合い、レポートをもとに総合的に判定・評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
必要に応じて資料を配付する。参考文献は授業の中で適宜紹介する。

関連する授業科目
教科外活動の構成と展開・評価と課題、道徳教育学習開発研究

履修上の注意
<p>毎回、発表担当者が担当の文献や論文を簡単にまとめ、コメント（質問や自分の考え）を付したレジュメを準備し、それを基にして議論を行う。</p> <p>各自が事前に資料を読んできていることを前提に議論を進めます。発表者以外の人にも質問や感想を求めますので、積極的に議論に参加すること。</p>

オフィスアワー	
【前期】 金曜7・8時限	【後期】 月曜5・6時限

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/12 09:09:03

科目コード	M8410	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	総合・生活系学習開発研究				
(英語名称)					
担当教員	兼重 幸弘、中山 迅、安影 亜紀				
開講日	後期 木曜日 3・4時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・総合・生活系領域・教科に関するカリキュラム論及び授業構成論と授業分析論の演習を行う。 ・現職教員と学部新卒学生グループに分かれて、代表的な授業実践事例の分析を行う。 ・分析結果のプレゼンテーションとそれに関する相互評価を通して、優れた授業実践の主要な要因を明らかにする。 ・優れた授業実践の要因分析に基づいて、学習指導案の改善の作成と模擬授業を行う。 <p>以上に取り組むため、各自で学習指導要領解説や具体的な実践例について調査、学習しておくことが求められる。</p>

授業計画
<p>第1回：総合・生活系領域・教科の授業実践が抱える課題の把握（演習・グループ討議）（中山・安影・兼重）</p> <p>第2回：総合系領域・教科のカリキュラム論と目標論（講義・演習）（中山）</p> <p>第3回：総合系領域・教科の授業実践事例の分析方法（講義・演習）（中山）</p> <p>第4回：グループ分かれて総合系領域・教科の授業実践事例の分析（事例研究、グループ討議）（安影・兼重）</p> <p>第5回：総合系領域・教科の授業実践事例の分析結果の報告（プレゼンテーション、全体討議）（中山・安影・兼重）</p> <p>第6回：生活系領域・教科のカリキュラム論と目標論（演習）（中山）</p> <p>第7回：生活系領域・教科の授業実践事例の分析方法（演習・グループ討議）（安影・兼重）</p> <p>第8回：グループ分かれて生活系領域・教科の授業実践事例の分析（事例研究・グループ討議）（安影・兼重）</p> <p>第9回：生活系領域・教科の授業実践事例の分析結果の報告（プレゼンテーション、全体討議）（中山・安影・兼重）</p> <p>第10回：グループ分かれて自己の学習指導案の改善案の作成（作業学習）（安影・兼重）</p> <p>第11回：自己の学習指導案の改善案の提示（プレゼンテーション、全体討議）（中山・安影・兼重）</p> <p>第12回：グループ分かれて学習指導案についての相互分析・評価（演習、グループ討議）（安影・兼重）</p> <p>第13回：模擬授業の実施・検討（1）（模擬授業、グループ討議）（中山・安影・兼重）</p> <p>第14回：模擬授業の実施・検討（2）（模擬授業、グループ討議）（中山・安影・兼重）</p> <p>第15回：学習の成果・課題についての全体報告（プレゼンテーション、全体討議）（中山・安影・兼重）</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、総合・生活系領域・教科（総合的な学習の時間、生活科）に関するカリキュラム論及び授業構成論の演習を通して、総合的、教科横断的なカリキュラム論及び授業構成理論の特性を認識することができる。総合・生活系領域・教科における優れた授業実践の要因を分析できると同時に、自らが作成した学習指導案や授業実践の改善を図ることができる。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づく。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・発表（問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等）、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

文献・教材
<p>文部科学省 小学校学習指導要領解説・生活編、文部科学省 小学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領・総合的な学習の時間編</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領・総合的な学習の時間編</p>

関連する授業科目
教職総合研究I，またはII

履修上の注意
<p>関連文献についての調査を自宅学習として課す。</p> <p>学習指導要領及びその解説で、毎回のテーマに関係する部分についての予習と復習を行うこと。</p>

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日の昼休憩</td> <td>火曜日の昼休憩</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日の昼休憩	火曜日の昼休憩
【前期】	【後期】			
火曜日の昼休憩	火曜日の昼休憩			

備考
特になし。

参考URL
<p>新学習指導要領（本） http://www.mext.go.jp</p>

ファイル

更新日付
2017/02/17 23:10:04

科目コード	M8420	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系学習開発研究				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、東條 弘子、中村 佳文、榎原 義顕				
開講日	前期 金曜日 7・8時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・言語教育系教科に関する授業実践が抱えている課題の明確化。 ・言語教育系教科に関する授業構成論と授業分析論の演習。 ・現職教員とストレートマスターグループに分かれて、代表的な授業実践事例の分析を行う。 ・分析結果のプレゼンテーションとそれに関する相互評価を通して、優れた授業実践の要因を明らかにする。 ・優れた授業実践の要因分析に基づいて、課題に対応した学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

授業計画
<p>第1回：言語教育系教科(国語科・英語科)の授業実践が抱える問題点を把握し、授業の現代的な課題を明らかにする。(グループ討議)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第2回：言語教育系教科の典型的な授業構成論・授業分析論について討議し、授業を臨床的に把握・考察する視点を獲得する。(グループ討議)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第3回：言語教育系教科の授業実践事例を分析するための視点と方法について検討し、授業現象にアプローチするための研究システムを習得する。(講義・演習)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第4回：言語教育系教科の授業実践事例の構造を分析し、授業現象を成立・生成させる基本的要因を抽出する。(事例研究、グループ討議)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第5回：言語教育系教科の授業実践事例を要因ごとに分析し、相互関係や上位・下位の関係をとらえながら、授業の有効性を検討する。(事例研究、グループ討議)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第6回：言語教育系教科の授業実践事例の分析結果を報告し、成果を共有する。(プレゼンテーション、全体討議)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第7回：言語教育系教科(国語科・英語科)の教育内容を検討し、現代的な課題に対応した学習指導案を構想する。(演習、グループ討議)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第8回：言語教育系教科の教材・学習材に即して構想を具体化し、目標・内容・方法・評価の各問題を定めて指導過程を立案する。(事例研究)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第9回：課題に対応した言語教育系教科の学習指導案を作成する。(事例研究)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第10回：課題に対応した言語教育系教科の学習指導案を修正し、シミュレーションを繰り返しながら練成する。(事例研究)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第11回：学習指導案をマクロ・ミクロの両面から精錬し、授業を典型化(モデル化)するための要因を明確にする。(事例研究)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第12回：学習指導案について相互に分析・批判し、課題を達成するための学習指導案を確定する。(事例研究)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第13回：確定した学習指導案に基づいて模擬授業を実施・参観し、相互に記録・分析・検討する。(模擬授業)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第14回：模擬授業を実践的に検討し、授業実践を臨床的に改善するための見通しを得る。(模擬授業)(アダチ・東條・中村・榎原)</p> <p>第15回：本授業における学習の成果・課題について整理し、学習全体のまとめを行う。(プレゼンテーション、全体討議)(アダチ・東條・中村・榎原)</p>

達成目標
<p>言語教育系教科(国語科・英語科)に関する授業構成論の演習を通して、言語教育系教科教育の課題を明確に認識する。言語教育系教科における優れた授業実践の要因を分析することができる。同時に、自らが作成した学習指導案や授業実践の改善を図ることができる。またディプロマポリシーにあるように、教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新任教員としての資質、また、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な不可欠な教育理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーとしての資質を形成することを目標とする。</p>

成績評価基準
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績評価方法
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、模擬授業、レポート等を総合して判断する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

文献・教材
<p>テキスト：各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。</p>

関連する授業科目

履修上の注意
<p>受講者は全員学期の後半に模擬授業を行うので、準備をしておくこと。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】 各教員に問い合わせ</p> <p>【後期】 各教員に問い合わせ</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/07 13:21:45

科目コード	M8430	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系学習開発研究				
(英語名称)					
担当教員	木根 主税、添田 佳伸、野添 生				
開講日	後期 月曜日 7・8時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> 理数教育系教科(算数・数学科、理科)に関する授業論と授業分析論の演習 現職教員と学部新卒生グループに分かれて、代表的な実践例の分析を行う。 分析結果のプレゼンテーションと相互批評を通して、優れた授業の要因を解明する。 それぞれが過去に作成した(または既成の)学習指導案の改善を行い、それに基づき模擬授業を行う。 本科目では受講生による発表が中心的な学習活動となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。

授業計画
<p>第1回：受講学生のこれまでの授業実施経験を踏まえ、現在の理数教育系教科(算数・数学科、理科)の授業の問題点や課題を探り、明らかにする。(グループ討議)(木根・添田・野添)</p> <p>第2回：理数教育系教科(算数・数学科、理科)に関する現在到達している授業構成の視点や方法論を理解する。(講義・演習)(木根・野添)</p> <p>第3回：理数教育系教科(算数・数学科、理科)に別れて、理数教育系教科(算数・数学科、理科)に関する現在到達している授業構成論の視点や方法論を、具体例に即して習得する。(事例研究)(木根・野添)</p> <p>第4回：理数教育系教科(算数・数学科、理科)に関する現在到達している授業分析の視点や方法論を理解する。(講義・演習)(添田・野添)</p> <p>第5回：理数教育系教科(算数・数学科、理科)に別れて、理数教育系教科(算数・数学科、理科)に関する現在到達している授業分析の視点や方法論を、具体例に即して習得する。(事例研究)(添田・野添)</p> <p>第6回：理数教育系教科(算数・数学科、理科)に別れて、現職教員学生と学部新卒生がグループを作り、優れた授業として評価を受けている理数教育系教科の授業事例(算数・数学科「代数学分野」、理科「物理学分野」)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。(事例研究)(木根・添田・野添)</p> <p>第7回：理数教育系教科(算数・数学科、理科)に別れて、優れた授業として評価を受けている理数教育系教科の授業事例(算数・数学科「幾何学分野」、理科「化学分野」)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。(事例研究)(木根・添田・野添)</p> <p>第8回：理数教育系教科(算数・数学科、理科)に別れて、優れた授業として評価を受けている理数教育系教科の授業事例(算数・数学科「解析学・応用数学分野」、理科「生物学・地学分野」)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。(事例研究)(木根・添田・野添)</p> <p>第9回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(プレゼンテーション)(木根・添田・野添)</p> <p>第10回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(プレゼンテーション)(木根・添田・野添)</p> <p>第11回：発表をもとに、優れた授業の構成の要因を明らかにする。(グループ討議)(木根・添田・野添)</p> <p>第12回：受講者がこれまでに作成した学習指導案の改善を行う。(ワークショップ)(木根・添田・野添)</p> <p>第13回：改善前と改善後の学習指導案の発表を行う。(発表活動)(木根・添田・野添)</p> <p>第14回：改善後の学習指導案による模擬授業を行い、相互に批評、評価する。(模擬授業)(木根・添田・野添)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(木根・添田・野添)</p>

達成目標
<p>この科目は、ディプロマポリシーに掲げる「授業力」に関する能力を養うものである。具体的には、教科(算数・数学科、理科)に関する授業論と授業分析論の演習を通して、理数教育系教科教育には立場の異なる授業論と授業分析論が存在することを認識することができる。それを手掛かりとして、理数教育系教科における優れた授業の要因を把握することができる。自らで作成した学習指導案の改善及び模擬授業を具体的にを行うことができる。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
<p>テキスト：</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 理科編』</p> <p>参考書：</p> <p>・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』</p>

関連する授業科目

履修上の注意
関連文献についての予習や調査を自宅学習として課す。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日昼休み</td> <td>火曜日昼休み</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日昼休み	火曜日昼休み
【前期】	【後期】			
火曜日昼休み	火曜日昼休み			

備考
特になし。

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/21 09:36:10

科目コード	M8440	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系学習開発研究				
(英語名称)					
担当教員	藤本 将人、吉村 功太郎				
開講日	前期 月曜日 1・2時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科(社会科・地歴科・公民科)に関する授業論と授業分析論の演習 ・現職教員とストレートマスターグループに分かれて、代表的な実践例の分析を行う。 ・分析結果のプレゼンテーションと相互批評を通して、優れた授業の要因を解明する。 ・それぞれが過去に作成した(または既成の)学習指導案の改善を行う。

授業計画
<p>第1回：受講学生のこれまでの授業実施経験を踏まえ、現在の社会認識教育系教科(社会科、地歴科、公民科)の授業の問題点や課題を探り、明らかにする。(グループ討議)</p> <p>第2回：社会認識教育系教科(社会科、地歴科、公民科)に関する現在到達している授業研究視点や方法論を理解する。(講義・演習)</p> <p>第3回：社会認識教育系教科(社会科、地歴科、公民科)に関する現在到達している授業研究論を、具体例に即して習得する。(事例研究)</p> <p>第4回：社会認識教育系教科(社会科、地歴科、公民科)に関する現在到達している授業分析の視点や方法を理解する。(講義・演習)</p> <p>第5回：社会認識教育系教科(社会科、地歴科、公民科)に関する現在到達している授業分析の視点や方法を、具体例に即して習得する。(事例研究)</p> <p>第6回：現職教員学生と学部新卒学生がグループを作り、優れた授業として評価を受けている社会認識教育系教科の授業事例(地理的分野・領域)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。(事例研究)</p> <p>第7回：優れた授業として評価を受けている社会認識教育系教科の授業事例(歴史的分野・領域)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。</p> <p>第8回：優れた授業として評価を受けている社会認識教育系教科の授業事例(公民的分野・領域)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。(7、8、9は、いずれも事例研究)</p> <p>第9回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。</p> <p>第10回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(9、10はプレゼンテーション)</p> <p>第11回：発表をもとに、優れた授業の構成の要因を明らかにする。(グループ討議)</p> <p>第12回：受講者がこれまでに作成した学習指導案の改善を行う。(ワークショップ)</p> <p>第13回：受講者がこれまでに作成した学習指導案の改善を行う。(ワークショップ)</p> <p>第14回：改善前と改善後の学習指導案の発表を行う。(発表活動)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。</p>

達成目標
<p>社会認識教育系教科教育(社会科・地歴科・公民科)に関する授業論と授業分析論の演習を通して、社会認識教育系教科教育には立場の異なる授業論と授業分析論が存在することを認識することができる。それを手掛かりとして、社会認識教育系教科における優れた授業の要因を把握できるとともに、自らが作成した学習指導案の改善を具体的にを行うことができる。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>水曜日12:10-12:50</td> <td></td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	水曜日12:10-12:50	
【前期】	【後期】			
水曜日12:10-12:50				

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/11 15:33:05

科目コード	M8450	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	芸術教育系学習開発研究				
(英語名称)					
担当教員	菅 裕、未定、幸 秀樹				
開講日	後期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術教育系教科（音楽科・美術科）に関する授業論と授業分析論の演習 ・ 現職教員と学部新卒者グループに分かれて、代表的な実践例の分析を行う。 ・ 分析結果のプレゼンテーションと相互批評を通して、優れた授業の要因を解明する。 ・ それぞれが過去に作成した（または既成の）学習指導案の改善を行い、それに基づく模擬授業を行う。

成績評価基準

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表（問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等）、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・ この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。 ・ 成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

授業計画
<p>第1回：受講学生のこれまでの授業実施経験を踏まえ、現在の芸術教育系教科（音楽科・美術科）の授業の問題点や課題を探り、明らかにする。（菅：演習・グループ討議）</p> <p>第2回：芸術教育系教科（音楽科・美術科）に関する現在到達している授業構成の視点や方法論を理解する。（菅：講義・演習）</p> <p>第3回：芸術教育系教科（音楽科・美術科）に関する現在到達している授業構成論の視点や方法論を、具体例に即して習得する。（菅・幸：事例研究）</p> <p>第4回：芸術教育系教科（音楽科・美術科）に関する現在到達している授業分析の視点や方法を理解する。（菅・幸：講義・演習）</p> <p>第5回：芸術教育系教科（音楽科・美術科）に関する現在到達している授業分析の視点や方法論を、具体例に即して習得する。（菅・幸：事例研究）</p> <p>第6回：現職教員学生と学部新卒学生がグループを作り、優れた授業として評価を受けている芸術教育系教科の授業事例（表現領域）を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。（菅・幸：事例研究）</p> <p>第7回：優れた授業として評価を受けている芸術教育系教科の授業事例（鑑賞・観賞領域）を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。（菅・幸：事例研究）</p> <p>第8回：優れた授業として評価を受けている芸術教育系教科の授業事例（創作・制作領域）を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。（菅・幸：事例研究）</p> <p>第9回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。（菅・幸：プレゼンテーション）</p> <p>第10回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。（菅・未定・幸：プレゼンテーション）</p> <p>第11回：発表をもとに、優れた授業の構成の要因を明らかにする。（菅・幸：グループ討議）</p> <p>第12回：受講者がこれまでに作成した学習指導案の改善を行う。（菅・幸：ワークショップ）</p> <p>第13回：改善前と改善後の学習指導案の発表を行う。（菅・幸：発表活動）</p> <p>第14回：改善後の学習指導案による模擬授業を行い、相互に批評、評価する。（菅・幸：模擬授業）</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。（菅：演習）</p>
達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科（音楽科・美術科）に関する授業論と授業分析論の演習を通して、芸術教育系教科教育には立場の異なる授業論と授業分析論が存在することを認識することができるとともに、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な確かな教育理論と優れた実践力・応用力を身につける。 ・ それを手掛かりとして、芸術教育系教科における優れた授業の要因を把握することができるとともに、自らが作成した学習指導案の改善及び模擬授業を具体的にを行うことができる。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意
この授業では、授業分析・プレゼンテーション・模擬授業の準備となる予習課題、および相互批評に基づく事後レポートを課す。

オフィスアワー						
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日12:10-12:50（幸）</td> <td>火曜日12:10-12:50（幸）</td> </tr> <tr> <td>木曜日14:50-16:20（菅）</td> <td>木曜日14:50-16:20（菅）</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日12:10-12:50（幸）	火曜日12:10-12:50（幸）	木曜日14:50-16:20（菅）	木曜日14:50-16:20（菅）
【前期】	【後期】					
火曜日12:10-12:50（幸）	火曜日12:10-12:50（幸）					
木曜日14:50-16:20（菅）	木曜日14:50-16:20（菅）					

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/02 10:20:18

科目コード	M8460	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系学習開発研究				
(英語名称)					
担当教員	伊波 富久美、日高 正博、未定、三輪 佳見				
開講日	前期 月曜日 9・10時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・生活科学教育系教科に関する教育課程論及び単元論の演習を行う。 ・現職教員とストレートマスターグループに分かれて、典型的な単元事例を、目標・内容・方法の一貫性の視点から分析し、結果の発表及び討論を行う。 ・学習指導案を作成し、模擬授業を実施するとともに、その分析・評価を行う。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・討議への参加状況、課題レポートに基づき総合的に評価する。 ・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

授業計画
<p>第1回：受講学生のこれまでの授業実施経験を踏まえ、現在のスポーツ・生活科学教育系教科(体育科・家庭科)の授業の問題点や課題を探り、明らかにする。(グループ討議)(日高・三輪・未定・伊波)</p> <p>第2回：スポーツ・生活科学教育系の各教科で教育課程の考え方を理解する。(講義・演習)(日高・未定)</p> <p>第3回：スポーツ・生活科学系教科の教育課程を具体例に即して分析し、自ら設計してみる。(演習)(日高・未定)</p> <p>第4回：スポーツ・生活科学系教科の単元の考え方を理解する。(講義・演習)(日高・未定)</p> <p>第5回：スポーツ・生活科学系教科の単元を具体例に即して分析し、自ら設計してみる。(演習)(日高・未定)</p> <p>第6回：各グループの年間計画案をプレゼンテーションし、相互批評を行う。(プレゼンテーション)(日高・未定)</p> <p>第7回：各グループの単元計画案をプレゼンテーションし、相互批評を行う。(プレゼンテーション)(日高・未定)</p> <p>第8回：発表をもとに、作成した年間計画案・単元計画案の改善を行う。(ワークショップ)(日高・未定)</p> <p>第9回：スポーツ・生活科学教育系教科に関する授業研究視点や方法論を理解する。(講義・演習)(三輪・伊波)</p> <p>第10回：優れた授業として評価を受けているスポーツ・生活科学教育系教科の授業事例を取り上げて分析を行う。(事例研究)(三輪・伊波)</p> <p>第11回：学習指導案を作成する。(ワークショップ)(三輪・伊波)</p> <p>第12回：模擬授業を行い相互に批評する。(プレゼンテーション)(三輪・伊波)</p> <p>第13回：模擬授業を行い相互に批評する。(プレゼンテーション)(三輪・伊波)</p> <p>第14回：発表をもとに、作成した学習指導案の改善を行う。(ワークショップ)(三輪・伊波)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(日高・三輪・未定・伊波)</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> 『小学校学習指導要領』 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 体育編』 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 文部科学省

関連する授業科目

履修上の注意
・事前・事後における関連文献についての予習および復習を課す。

オフィスアワー								
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>木12:00~13:00(伊波)</td> <td>木12:00~13:00(伊波)</td> </tr> <tr> <td>火10:30~11:30(三輪)</td> <td>木13:30~14:30(三輪)</td> </tr> <tr> <td>木10:30~12:00(日高)</td> <td>金10:30~12:00(日高)</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	木12:00~13:00(伊波)	木12:00~13:00(伊波)	火10:30~11:30(三輪)	木13:30~14:30(三輪)	木10:30~12:00(日高)	金10:30~12:00(日高)
【前期】	【後期】							
木12:00~13:00(伊波)	木12:00~13:00(伊波)							
火10:30~11:30(三輪)	木13:30~14:30(三輪)							
木10:30~12:00(日高)	金10:30~12:00(日高)							

達成目標
<p>スポーツ・生活科学教育系教科教育(体育科・家庭科)に関する教育課程論(年間計画の設計等)及び単元論(授業論、授業分析論等)の演習により、優れた授業の要因を把握し、教育課程(経営計画)及び単元学習指導案の作成と改善、さらに、それに基づいた模擬授業を行うことによって、実際の授業で活用できる能力を養成する。</p> <p>この科目は、デュプロマポリシーに掲げる授業力および課題研究能力を養う。</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/22 14:15:26

科目コード	M8470	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	教科領域授業研究				
(英語名称)					
担当教員	伊波 富久美、兼重 幸弘、中山 迅、榎原 義顕、幸 秀樹、吉村 功太郎				
開講日	前期 火曜日 7・8時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科領域・教科群（言語教育系、理数教育系等）各教科に関する授業論と授業分析論の演習を通して授業研究・授業分析の視点や方法を修得する。 ・ 教科群（言語教育系、理数教育系等）ごとに、現職教員学生と学部新卒学生分かれて、代表的な過去の実践例の分析を行う。 ・ 分析結果のプレゼンテーションと相互批評を通して、優れた授業の要因を解明する。 ・ それぞれが過去に作成した学習指導案の改善を行う。

授業計画
<p>第1回：受講学生のこれまでの授業実施経験を踏まえ、各教科における優れた授業とはどのような授業かについて討議し、課題意識を明確にする。（グループ討議）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第2回：教科教育に共通する授業研究視点や方法論を理解する。（講義・演習）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第3回：教科群及び各教科固有の授業研究視点や方法論を理解する。（講義・演習）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第4回：教科教育に共通する授業分析視点や方法を理解する。（講義・演習）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第5回：教科教育・教科群及び各教科固有の現在到達している授業分析の視点や方法を、具体例に即して習得する。（事例研究）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第6回：教科群ごとに現職教員学生と学部新卒学生がグループを作り、優れた授業として評価を受けている各教科群及び各教科の授業事例を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。（事例研究）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第7回：それぞれのグループにおいて、優れた授業として評価を受けている教科群の授業事例を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。（事例研究）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第8回：それぞれのグループにおいて、優れた授業として評価を受けている教科の授業事例を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。（事例研究）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第9回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第10回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第11回：発表をもとに、優れた授業の構成の要因を明らかにする。（ワークショップ）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第12回：受講者がこれまでに作成した学習指導案の改善を行う。（ワークショップ）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第13回：受講者がこれまでに作成した学習指導案の改善を行う。（ワークショップ）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第14回：改善前と改善後の学習指導案の発表を行う。（発表活動）（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。（吉村・幸・榎原・中山・伊波・兼重）</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、以下の通り。</p> <p>教科領域・教科群（言語教育系、理数教育系等）に共通する、また各教科固有の授業論と授業分析論の演習を通して、教科領域に共通、また教科によっては異なる授業論と授業分析論が存在することを認識することができる。それを手掛かりとして、教科・教科群（言語教育系、理数教育系等）に共通するまた各教科の優れた授業の要因を把握することができるとともに、自らが作成した学習指導案の改善を具体的にを行うことができる。</p>

成績評価基準
<p>評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績評価方法
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。発表（問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等）、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づく。</p>

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学習指導要領解説書（各科編）、中学校学習指導要領解説書（各科編）、高等学校学習指導要領（各科編） ・ 各教科の教科書（各出版社発行） ・ 各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目

履修上の注意
<p>各時間ごとに予習・復習を義務づける。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】</p> <p>【後期】</p>

備考

参考URL
<p>新学習指導要領（本） http://www.mext.go.jp</p>

ファイル

更新日付
<p>2017/02/17 23:10:41</p>

科目コード	M8480	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	教科領域授業開発研究				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、兼重 幸弘、菅 裕、中山 迅、三輪 佳見、吉村 功太郎				
開講日	前期 月曜日 5・6時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> 教科領域・教科群(言語教育系、理数教育系等)及び各教科に関する授業構成論(授業づくり)の演習を通して授業設計・授業作りの方法を修得する。 教科群(言語教育系、理数教育系等)ごとに、現職教員学生と学部新卒学生分かれて、具体的な単元を取上げて授業設計を行う。 作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 それぞれが模擬授業を実施するとともに、分析、評価を行う。
授業計画

<p>第1回：現職教員学生の授業実施経験をもとに、現在の各教科における授業開発の問題点や課題について討議を行い、課題意識を明確する。(グループ討議)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第2回：教科教育に共通する授業構成論(授業づくり論、授業設計論)を理解する。(講義・演習)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第3回：教科群及び各教科固有の授業構成論(授業づくり論、授業設計論)を理解する。(講義・演習)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第4回：教科群ごとに現職教員学生と学部新卒学生がグループを作り、優れた授業として評価を受けている教科群の授業事例を取り上げて、授業構成・開発論の観点から、評価される要因の分析を行う。(事例研究)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第5回：優れた授業として評価を受けている各教科の授業事例を取り上げて、授業構成・開発論の観点から、評価される要因の分析を行う。(事例研究)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第6回：引き続き、優れた授業として評価を受けている各教科の授業事例を取り上げて、授業構成・開発論の観点から、評価される要因の分析を行う。(事例研究)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第7回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第8回：各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第9回：発表をもとに、教科に共通するまた教科ごとの優れた授業の授業構成・開発の要因を明らかにする。(グループ討議)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第10回：発表結果をもとに、受講者がこれまでに作成した授業事例の改善を行う。(ワークショップ)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第11回：引き続き、優れた授業の開発の観点から、学習指導案の改善を行う。(ワークショップ)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第12回：各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第13回：引き続き、模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第14回：現職教員による模擬授業を行い、学部新卒学生との違いを討議する。(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(吉村・中山・菅裕・アダチ・三輪・兼重)</p>
達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、以下の通り。</p> <p>教科・教科群(言語教育、理数教育等)また各教科固有の授業構成論の演習を通して、教科領域に共通、また教科によっては異なる授業構成論が存在することを認識することができる。</p> <p>その学習成果と内容開発研究及び各教育系内容開発基礎研究の学習成果をもとに、授業構成、教材研究、授業レベルの学習指導案の作成及び模擬授業を行うことにより、学部新卒学生は高度な授業開発能力を、現職教員は高度な授業開発能力とメンターシップの基礎的資質を修得することができる。</p>

成績評価基準
<p>評点は科目の到達目標に則して定める。</p>
成績評価方法

<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。
成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づく。</p>

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> 小学校学習指導要領解説書(各科編)、中学校学習指導要領解説書(各科編)、及び高等学校学習指導要領解説(各科編) 各教科の教科書(各出版社発行) 各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。
関連する授業科目

履修上の注意
<p>自宅学習として、毎回のテーマに関係する教材研究及び学習指導要領解説での予習・復習を課す。</p>
オフィスアワー
<p>【前期】</p> <p>【後期】</p>

備考
参考URL
<p>新学習指導要領(本) http://www.mext.go.jp</p>
ファイル

更新日付
<p>2017/02/17 23:11:12</p>

科目コード	M8490	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	教科領域内容開発研究				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、大平 明夫、木根 主税、中野 通彦、三輪 佳見、幸 秀樹				
開講日	前期 月曜日 3・4時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の分野・領域・科目の指導要領における内容の分析を行い、現状を把握する。各教科の分野・領域・科目に関する教科論及び教材論と各学問分野の方法や成果を結びつける方法を理解する。 ・学力向上の観点から各教科に関する教科書分析、教科論及び教材論の演習を行う。 ・各教科に関する素材研究及び演習を行う。 ・学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。 ・その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 ・本科目では受講生による発表が中心的な学習活動となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。

授業計画
<p>第1回：現職教員学生の授業実施経験をもとに、現在の各教科における内容開発に関する問題点や課題について討議を行い、課題意識を明確する。(グループ討議)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第2回：各教科の分野・領域・科目に関する教科論及び教材論観点から、自然科学、社会科学、人文科学等の研究の視点や方法をどう学ぶかについて理解する。(講義・演習)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第3回：教科ごとのグループに分かれて、学力向上の観点から各教科の学習指導要領と主たる教材の教科書の内容を比較して、その関係を理解する。(事例研究)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第4回：他の会社の教科書を取上げて、内容構成を分析し、同一学習指導要領から、異なる教材が取り上げられていることを理解する。(事例研究)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第5回：引き続き教科書の内容を分析する。(事例研究)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第6回：グループごとに、学力向上の観点から、主たる教材である教科書の分析結果を、プレゼンテーションし、相互に批評、討議する。(グループ討議)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第7回：指導教員より、分析結果に基づく、教材論の演習を行う。(講義・演習)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第8回：グループごとに、学力向上の観点から各教科の特定の単元に関する素材研究を行う。(ワークショップ)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第9回：引き続き、各教科の特定の単元に関する素材研究を行う。(ワークショップ)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第10回：素材研究をもとに、教材に転化する作業を行う。(ワークショップ)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第11回：引き続き素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。(ワークショップ)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第12回：その結果をもとに、各グループのプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第13回：批評をもとに、授業の目標と教材、教材と教育内容の関係を明確にする。(演習)(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第14回：その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(三輪・アダチ・大平・幸・中野・木根)</p>

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の分野・領域・科目に関する教科論及び教材論と自然科学、社会科学、人文科学及び芸術・体育学等の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。 ・現職教員学生および学部新卒学生は、各教科教育の分野・領域における高度な素材研究能力を修得する。 ・現職教員学生および学部新卒学生は、各教科において、より高度な素材を教材に転化する能力、教材開発技術を修得する。 ・現職教員学生は、メンターシップの基礎的資質を修得する。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・レポート等で総合的に評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科の受講及び試験に関する内規による。

文献・教材
テキスト：各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目

履修上の注意

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>各教員に問い合わせ</td> <td>各教員に問い合わせ</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	各教員に問い合わせ	各教員に問い合わせ
【前期】	【後期】			
各教員に問い合わせ	各教員に問い合わせ			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/13 18:59:06

科目コード	M8500	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系授業研究				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、東條 弘子、中村 佳文、榎原 義顕				
開講日	後期 月曜日 5・6時限				

授業概要
<p>教科領域授業研究の学習成果をもとに、「確かな学力の形成」を目指す授業の構成・展開の要因を、実践的に把握することをねらいとして、以下の学習を行う。</p> <p>教科領域授業研究の学習に基づき、言語教育系教科ごとに、現職教員と学部新卒者がペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。</p> <p>分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。(発表活動、グループ討議)</p> <p>学部新卒者が代替案の模擬授業を実施し、現職教員及び指導教員が評価を行う。(模擬授業)</p> <p>いずれも自宅でしっかりと準備をして授業に臨むこと。</p>

授業計画
<p>第1回：現職教員学生等の経験をもとに、言語教育系教科(国語科・英語科)の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第2回：「教科領域授業研究」で学習した国語科・英語科の授業論及び授業分析の視点及び方法を確認する。(演習)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第3回：言語教育系教科の国語科・英語科に分かれて、また現職教員学生と学部新卒生が組になって、「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。(事例研究)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第4回：引き続き「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。(事例研究)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第5回：各グループで、分析結果を元に「確かな学力形成の授業の要因」についてまとめる。(事例研究)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第6回：各グループの分析結果、評価結果等をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(プレゼンテーション)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第7回：引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、確かな学力形成に必要な要因を明確にする。(プレゼンテーション)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第8回：「確かな学力形成に必要な条件・要因」を手がかりに、取り上げた授業の同じ単元の代替案やオリジナル案を作成する。(ワークショップ)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第9回：引き続き、代替案やオリジナル案を作成する。(ワークショップ)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第10回：代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。(ワークショップ)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第11回：引き続き、代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。(プレゼンテーション)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第12回：各グループで代替案やオリジナル案の修正を行い、学習指導案を確定する。(プレゼンテーション)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第13回：各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員、実務家教員が助言指導する。(模擬授業)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第14回：引き続き、模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員、実務家教員が助言指導する。(模擬授業)(アダチ・中村・榎原・東條)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(アダチ・中村・榎原・東條)</p>

達成目標
<p>教科領域授業研究の演習を通して修得した教科教育及び言語教育系教科(国語科・英語科)の授業分析の方法を用いて、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことを通じて、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構造を把握するとともに、授業分析方法を確実に修得することができる。また、分析結果をもとに、授業改善案を作成することによって、授業分析能力の質的向上を図る。</p>

成績評価基準
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績評価方法
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

文献・教材
<p>授業中に適宜紹介する。</p>

関連する授業科目

履修上の注意

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>各担当教員に問い合わせ</td> <td>各担当教員に問い合わせ</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	各担当教員に問い合わせ	各担当教員に問い合わせ
【前期】	【後期】			
各担当教員に問い合わせ	各担当教員に問い合わせ			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/07 17:04:03

科目コード	M8510	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系授業研究				
(英語名称)					
担当教員	木根 主税、添田 佳伸、中山 迅、野添 生				
開講日	後期 金曜日 7・8時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> 教科教育授業研究の演習を手掛かりに、理数教育系教科(算数・数学科、理科)ごとに、現職教員と学部新卒学生がペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。 分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。 学部新卒学生が代替案の模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。 これらに取り組むため、授業で取り上げる関連図書については、授業までに各自で読み込んで問題意識を明確にして臨むことが求められる。

授業計画
第1回 現職教員学生等の経験をもとに、理数教育系各教科・科目の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議：木根・中山) 第2回 「教科教育授業研究」で学習した理数教育系教科の授業論及び授業分析の視点及び方法を確認する。(演習：木根・添田・中山・野添) 第3回 理数教育系教科(算数・数学科、理科)に別れて、また現職教員学生と学部新卒学生が一組になって、「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。(事例研究)(木根・添田 中山・野添) 第4回 引き続き「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。(事例研究)(木根・添田 中山・野添) 第5回 各グループで、分析結果を元に「確かな学力形成の授業の要因」についてまとめる。(グループ討議)(木根・添田 中山・野添) 第6回 各グループの分析結果、評価結果等をプレゼンテーションする。全体で相互批評を行う。(プレゼンテーション)(木根・添田 中山・野添) 第7回 引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、確かな学力形成に必要な要因を明確にする。(プレゼンテーション)(木根・添田 中山・野添) 第8回 「確かな学力形成に必要な条件・要因」を手がかりに、取り上げた授業の同じ単元の代替案やオリジナル案を作成する。(ワークショップ)(木根・添田 中山・野添) 第9回 引き続き、代替案やオリジナル案を作成する。(ワークショップ)(木根・添田 中山・野添) 第10回 代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。(木根・添田 中山・野添) 第11回 引き続き、代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。(プレゼンテーション)(木根・添田 中山・野添) 第12回 各グループで代替案やオリジナル案の修正を行う。(木根・添田 中山・野添) 第13回 各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(木根・添田 中山・野添) 第14回 引き続き、模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(木根・添田 中山・野添) 第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(木根・添田 中山・野添)

達成目標
ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、教科教育授業研究の演習を通して修得した理数教育系教科(算数・数学科、理科)の授業分析の方法を用いて、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことができる。 「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構造を把握するとともに、授業分析方法を確実に修得する。また、分析結果をもとに、授業改善案を作成することによって、授業分析能力の質的向上を図る。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 理科編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 理科編』 その他については、別途、授業で指定する。

関連する授業科目
理数教育系の各科目

履修上の注意
関連文献についての予習や調査を自宅学習として課す。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日の昼休憩</td> <td>火曜日の昼休憩</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日の昼休憩	火曜日の昼休憩
【前期】	【後期】			
火曜日の昼休憩	火曜日の昼休憩			

備考
特になし。

参考URL
高等学校学習指導要領 http://www.mext.go.jp

ファイル

更新日付
2017/02/17 23:11:44

科目コード	M8520	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系授業研究				
(英語名称)					
担当教員	藤本 将人、吉村 功太郎				
開講日	後期 水曜日 1・2時限				

授業概要
<p>・教科教育授業研究の演習を手掛かりに、社会認識教育系教科(社会科・地理歴史科・公民科)ごとに、現職教員とストレートマスターがペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。</p> <p>・分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。</p> <p>・ストレートマスターが代替案の模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。</p> <p>・協働方式(公民系と地歴系を二人でカバー)で行う。</p>
授業計画

<p>第1回 現職教員学生等の経験をもとに、社会認識教育系各教科・科目の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議:吉村・藤本)</p> <p>第2回 「教科教育授業研究」で学習した社会認識教育系教科の授業論及び授業分析の視点及び方法を確認する。(演習:吉村)</p> <p>第3回 社会認識教育系教科の分野・領域(地理・歴史的分野・領域と政治・経済・社会等の公民的分野・領域)に別れて、また現職教員学生と学部新卒学生が一組になって、「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。(事例研究)(吉村・藤本)</p> <p>第4回 引き続き「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。(事例研究)(吉村・藤本)</p> <p>第5回 各グループで、分析結果を元に「確かな学力形成の授業の要因」についてまとめる。(グループ討議)(吉村・藤本)</p> <p>第6回 各グループの分析結果、評価結果等をプレゼンテーションする。全体で相互批評を行う。(プレゼンテーション)(吉村・藤本)</p> <p>第7回 引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、確かな学力形成に必要な要因を明確にする。(プレゼンテーション)(吉村・藤本)</p> <p>第8回 「確かな学力」形成に必要な条件・要因を手がかりに、取り上げた授業の同じ単元の代替案やオリジナル案を作成する。(ワークショップ)(吉村・藤本)</p> <p>第9回 引き続き、代替案やオリジナル案を作成する。(ワークショップ)(吉村・藤本)</p> <p>第10回 代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。(プレゼンテーション)(吉村・藤本)</p> <p>第11回 引き続き、代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。(プレゼンテーション)(吉村・藤本)</p> <p>第12回 各グループで代替案やオリジナル案の修正を行う。(吉村・藤本)</p> <p>第13回 各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(吉村・藤本)</p> <p>第14回 引き続き、模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(吉村・藤本)</p> <p>第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(吉村・藤本)</p>
達成目標
<p>教科教育授業研究の演習を通して習得した社会認識教育系教科(社会科・地歴科・公民科)の授業分析の方法を用いて、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことができる。</p> <p>「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構造を把握するとともに、授業分析方法を確実に修得する。また、分析結果をもとに、授業改善案を作成することによって、授業分析能力の質的向上を図る。</p> <p>*この科目は、教職実践開発コースのディプロマポリシー「授業力」を中心とした能力を養います。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による
成績評価方法
<p>・発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p> <p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。</p> <p>・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>
成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による
文献・教材
<p>・小学校学習指導要領解説書(社会編)及び中学校学習指導要領解説書(社会編) 文部科学省 平成20年</p> <p>・各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。</p>
関連する授業科目
社会認識教育系学習開発研究
履修上の注意
<p>・事前に関係する校種・教科の学習指導要領解説を購入して読んで内容の理解をはかっておくこと。</p> <p>・次週までの課題や読んでくるものを適宜指示するので、本日の復習もふまえた上で各自できちんと行うこと。</p>
オフィスアワー
<p>【前期】</p> <p>【後期】</p> <p>水曜日(12:10~12:50)これ以外の時間帯でもこちらの状況次第で随時対応は可能です</p>
備考
参考URL
ファイル
更新日付
2017/03/01 12:15:36

科目コード	M8530	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	芸術教育系授業研究				
(英語名称)					
担当教員	菅 裕、未定、幸 秀樹				
開講日	後期 月曜日 5・6時限				

授業概要
<p>教科領域授業研究の演習を手掛かりに、芸術教育系教科(美術科・音楽科)ごとに、現職教員と学部新卒者がペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。 ・ 学部新卒者が代替案の模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。 ・ 菅・幸の協働方式で行う。

授業計画
<p>第1回 現職教員学生等の経験をもとに、芸術教育系各教科・科目の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題等を明確に把握する。</p> <p>第2回 「教科領域授業研究」で学習した芸術教育系教科の授業論及び授業分析の視点及び方法を確認する。</p> <p>第3回 グループ別に分かれて、芸術教育系教科の分野・領域(表現領域と鑑賞領域)に別れて、また現職教員学生と学部新卒生が一組になって、「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。</p> <p>第4回 引き続き「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。</p> <p>第5回 その分析結果を元に「確かな学力形成の授業の要因」についてまとめる。</p> <p>第6回 全体で、各グループの分析結果、評価結果等をプレゼンテーションし、相互批評を行う。</p> <p>第7回 引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、確かな学力形成に必要な要因を明確にする。</p> <p>第8回 グループ別に分かれ、「確かな学力形成に必要な条件・要因」を手がかりに、取り上げた授業の同じ単元の代替案やオリジナル案を作成する。</p> <p>第9回 引き続き、代替案やオリジナル案を作成する。</p> <p>第10回 代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。</p> <p>第11回 引き続き、代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。</p> <p>第12回 代替案やオリジナル案の修正を行う。</p> <p>第13回 全体で、各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。</p> <p>第14回 引き続き、模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。</p> <p>第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。</p>

達成目標
<p>教科領域授業研究の演習を通して修得した芸術教育系教科(美術科・音楽科)の授業分析の方法を用いて、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことができるとともに、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な不可欠な確かな教育理論と優れた実践力・応用力を身につける。</p> <p>「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構造を把握するとともに、授業分析方法を確実に修得することができる。</p> <p>分析結果をもとに、授業改善案を作成することによって、授業分析能力の質的向上を図ることができる。</p>

成績評価基準

成績評価方法
<p>発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p> <p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

文献・教材
<p>『小学校学習指導要領解説-音楽編-』 『小学校学習指導要領解説-図画工作編-』 『中学校学習指導要領解説-音楽編-』 『中学校学習指導要領解説-美術編-』</p> <p>各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。</p>

関連する授業科目

履修上の注意
<p>この授業ではプレゼンテーション・模擬授業の準備となる予習課題と相互批評に基づく事後レポートを課す。</p>

オフィスアワー						
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日12:10-12:50(幸)</td> <td>火曜日12:10-12:50(幸)</td> </tr> <tr> <td>木曜日14:50-16:20(菅)</td> <td>木曜日14:50-16:20(菅)</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日12:10-12:50(幸)	火曜日12:10-12:50(幸)	木曜日14:50-16:20(菅)	木曜日14:50-16:20(菅)
【前期】	【後期】					
火曜日12:10-12:50(幸)	火曜日12:10-12:50(幸)					
木曜日14:50-16:20(菅)	木曜日14:50-16:20(菅)					

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/02 10:21:13

科目コード	M8540	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系授業研究				
(英語名称)					
担当教員	伊波 富久美、日高 正博、藤元 嘉安				
開講日	後期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<p>スポーツ・生活科学系教科における「確かな学力の形成」を目指す授業の構成・展開の要因を、実践的に把握することをねらいに、以下の学習を「協働方式」で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科領域授業研究の学習に基づき、現職教員と学部新卒者がペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。 ・分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。 ・学部新卒者が代替案の模擬授業を実施し、現職教員及び指導教員が評価を行う。

授業計画
<p>第1回：現職教員学生等の経験をもとに、スポーツ・生活科学系各教科の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題などを明確に把握する。(グループ討議)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第2回：「教科教育授業研究」で学習したスポーツ・生活科学系教科の授業論及び授業分析の視点及び方法を確認する。(演習)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第3回：スポーツ・生活科学系の各教科に分かれて、また現職教員学生と学部新卒学生が一組になって、「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。(事例研究)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第4回：引き続き「確かな学力形成をねらいとする授業事例」の分析を行う。(事例研究)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第5回：各グループで、分析結果を基に「確かな学力形成の授業の要因」についてまとめる。(グループ討議)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第6回：各グループの分析結果、評価結果等をプレゼンテーションする。全体で相互評価を行う。(プレゼンテーション)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第7回：引き続き、プレゼンテーションと相互評価を行い、確かな学力形成に必要な要因を明確にする。(プレゼンテーション)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第8回「確かな学力形成に必要な条件・要因」を手がかりに、取り上げた授業の同じ単元の代替案やオリジナル案を作成する。(ワークショップ)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第9回：引き続き、代替案やオリジナル案を作成する。(ワークショップ)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第10回：代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。(プレゼンテーション)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第11回：引き続き、代替案やオリジナル案のプレゼンテーションを行い、相互に批評しあう。(プレゼンテーション)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第12回：各グループで、代替案やオリジナル案の修正を行う。(演習)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第13回：各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第14回：引き続き、模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(日高・伊波・藤元)</p> <p>第15回：学習の成果、課題などを出し合い、学習全体のまとめを行う。(日高・伊波・藤元)</p>

達成目標
<p>教科教育授業研究の演習を通して修得した教科教育及びスポーツ・生活科学系教科(保健体育・家庭科・技術科)の固有の授業分析の方法を用いて、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことを通じて、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構造を把握するとともに、授業分析方法を確実に修得することができる。</p> <p>分析結果をもとに、授業改善案を作成することによって、授業分析能力の質的向上を図る。</p> <p>この科目は、デュプロマポリシーに掲げる授業力および課題研究能力を養う。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版、平成20年6月、文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社、平成20年9月ほか、適宜</p>

関連する授業科目
教科領域授業研究

履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ・前期の「教科領域授業研究」で学習した内容を復習しておくこと。各々のテーマに沿って、レポート作成を行う。 ・事前・事後における関連文献についての予習および復習を課す。

オフィスアワー
<p>【前期】 水曜日12時00分から13時00分</p> <p>【後期】 水曜日12時00分から13時00分</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/03 15:49:52

科目コード	M8550	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系授業開発研究				
(英語名称)					
担当教員	楢原 義顕、未定、村端 五郎				
開講日	後期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科領域授業開発研究で修得した高度な授業開発力を、より実践的な能力に高めるとともに、現職教員のメンターシップの向上をねらいとする。以下の学習を「協働方式」「グループ別指導方式」で行う。(楢原義顕、村端五郎、他) ・ 言語教育系の教科に分かれて、現職教員と学部新卒者がペアを組み現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。(グループ討議、事例研究、文献調査、観察・実験) ・ 作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。(発表活動) ・ 学部新卒者が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。(模擬授業) <p>この科目では、毎回、関連文献についての予習を課す。</p>

授業計画
<p>第1回：現職教員学生等の経験をもとに、言語教育系教科(国語科・英語科)における授業づくり・授業開発をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(楢原義顕・村端五郎：グループ討議)</p> <p>第2回：「教科領域授業開発研究」で学習した言語教育系教科の授業構成論の分析の視点及び方法を、学校段階の観点から検討する。(楢原義顕・村端五郎：演習・グループ討議)</p> <p>第3回：言語教育系教科の授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点からの検討結果として、初等教育と中等教育段階の授業構成論の共通点の確認と相異点を明確にする。(楢原義顕・村端五郎：演習、グループ討議)</p> <p>第4回：クラス全体で、教材開発に取り組みたい単元の授業事例を選択し、学校あるいは学年段階でどのように行われてきたかを分析する。(楢原義顕・村端五郎・他：事例研究)</p> <p>第5回：各学校種別に現職教員学生と学部新卒生でグループを作り、さきに取り上げた単元の中から選択して、「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から分析・討議する。(楢原義顕・村端五郎・他：事例研究)</p> <p>第6回：「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から、学校や学年の違いを視野に、複数の教材開発及び授業方法の開発を行う。(楢原義顕・村端五郎・他：事例研究)</p> <p>第7回：引き続き教材開発及び授業方法の開発を行う。(楢原義顕・村端五郎・他：事例研究)</p> <p>第8回：各グループの授業開発案をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(楢原義顕・村端五郎：プレゼンテーション)</p> <p>第9回：引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、初等段階から中等段階へと確かな学力形成につながる授業構成や授業方法を明確にする。(楢原義顕・村端五郎：プレゼンテーション)</p> <p>第10回：相互批評や指導助言に視野に入れて、作成した授業構成案の修正を行う。(楢原義顕・村端五郎：ワークショップ)</p> <p>第11回：引き続き、作成した授業構成案の修正を行う。(楢原義顕・村端五郎：ワークショップ)</p> <p>第12回：各グループの学部新卒生による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(楢原義顕・村端五郎：模擬授業)</p> <p>第13回：各グループの現職教員学生による模擬授業を行い、学部新卒生は学ぶべき点を、明らかにし、大学教員が助言指導する。(楢原義顕・村端五郎：模擬授業)</p> <p>第14回：模擬授業を手がかりとして、新卒生及び現職教員学生ともに、授業作りの理論を実践に転化する技術を一般化する。(楢原義顕・村端五郎：模擬授業)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(楢原義顕・村端五郎)</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、以下の通りである。</p> <p>教科領域授業開発研究の演習を通して修得した教科教育及び言語教育系教科(国語科・英語科)特有の授業構成論を手掛かりに、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことを通じて、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構成方法を確実に修得することができる。また、模擬授業を行うことによって、高度な授業構成能力の修得ができ、現職教員のメンターシップが向上が図られる。</p>

成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準は宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。 ・ この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。
成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・ 発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

文献・教材
<p>テキスト：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学習指導要領解説書(国語編)、中学校学習指導要領解説書(国語編)及び中学校学習指導要領解説書(外国語編)文部省 平成11年 <p>各時間に必要資料は、配布または準備を指示する。</p>

関連する授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科領域授業開発研究(前期) ・ 言語教育系授業研究(後期) ・ 言語教育系内容開発研究(後期)

履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ・ 無断欠席をしないこと。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>各担当教員に確認すること。</td> <td>各担当教員に確認すること。</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	各担当教員に確認すること。	各担当教員に確認すること。
【前期】	【後期】			
各担当教員に確認すること。	各担当教員に確認すること。			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/07 11:58:03

科目コード	M8560	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系授業開発研究				
(英語名称)					
担当教員	下村 崇、添田 佳伸、谷本 洋、中山 迅				
開講日	後期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<p>・理数教育系各教科・科目における授業開発をめぐる現状の課題等を把握する。</p> <p>・教科(算数・数学科, 理科)ごとに、現職教員と学部新卒学生がグループを組み現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。</p> <p>・作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。</p> <p>・学部新卒学生が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が指導助言を行う。</p> <p>これらの事柄に取り組むため、各自で関連する内容について、あらかじめ文献学習をして授業に臨むことが求められる。</p>

授業計画
<p>第1回 現職教員学生等の経験をもとに、理数教育系各教科・科目における授業づくり・授業開発をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議)(中山・添田)</p> <p>第2回 「理数教育系教科授業開発」で学習した理数教育系教科の授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点から検討する。(演習)(中山・添田)</p> <p>第3回 理数教育系教科の授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点からの検討結果として、初等教育と中等教育段階の授業構成論の共通点の確認と相異点を明確にする。(演習・グループ討議)(中山・添田)</p> <p>第4回 クラス全体で、教材開発に取り組みたい単元の授業事例を選択し、学校あるいは学年段階でどのように行われてきたかを分析する。(事例研究)(添田・谷本 中山・下村)</p> <p>第5回 各学校種別に現職教員学生と学部新卒学生でグループを作り、さきに取り上げた単元の中から選択して、「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から、分析討議する。(事例研究)(添田・谷本 中山・下村)</p> <p>第6回 「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から、学校や学年の違いを視野に、複数の教材開発及び授業方法の開発を行う。(作業学習)(添田・谷本 中山・下村)</p> <p>第7回 引き続き教材開発及び授業方法の開発を行う。(作業学習)(添田・谷本 中山・下村)</p> <p>第8回 各グループの授業開発案をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(プレゼンテーション)(添田・谷本 中山・下村)</p> <p>第9回 引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、初等段階から中等段階へと確かな学力形成につながる授業構成や授業方法を明確にする。(プレゼンテーション)(添田・谷本 中山・下村)</p> <p>第10回 相互批評や指導助言に視野に入れて、作成した授業構成案の修正を行う。(ワークショップ)(中山・添田)</p> <p>第11回 引き続き、作成した授業構成案の修正を行う。(ワークショップ)(中山・添田)</p> <p>第12回 各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(中山・添田・谷本・下村)</p> <p>第13回 各グループの現職教員学生による模擬授業を行い、学部新卒学生は学ぶべき点を、明らかにし、大学教員は助言指導する。(模擬授業)(中山・添田・谷本・下村)</p> <p>第14回 模擬授業を手がかりとして、新卒学生及び現職教員学生ともに、授業作りの理論を実践に転化する技術を一般化する。(中山・添田)</p> <p>第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(中山・添田)</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、以下の通り。</p> <p>・教科教育授業開発研究の演習を通して修得した教科教育及び理数教育系教科(算数・数学科, 理科)固有の授業構成論を手掛かりに、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことを通じて、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構成方法を確実に修得することができる。</p> <p>・模擬授業を行うことによって、学部新卒学生は、高度な授業構成能力の修得を、現職教員学生は、メンターシップの基礎的資質を形成することができる。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<p>・発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p> <p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説・算数編』</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 理科編』</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説・数学編』</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説・理科編』</p> <p>その他については、別途、授業で指定する。</p>

関連する授業科目
理数教育系の各科目

履修上の注意
関連文献についての予習や調査を自宅学習として課す。

オフィスアワー
<p>【前期】</p> <p>火曜日の昼休憩</p> <p>【後期】</p> <p>火曜日の昼休憩</p>

備考
特になし。

参考URL
<p>新学習指導要領(本) http://www.mext.go.jp</p>

ファイル

更新日付
2017/02/17 23:13:46

科目コード	M8570	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系授業開発研究				
(英語名称)					
担当教員	根岸 裕孝、藤本 将人、吉村 功太郎				
開講日	後期 火曜日 9・10時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科における授業開発をめぐる現状の課題等を把握する。 ・現職教員と学部新卒学生がグループを組み現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。 ・作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 ・学部新卒学生が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が指導助言を行う。

授業計画
<p>第1回：現職教員学生等の経験をもとに、社会認識教育系教科における授業づくり・授業開発をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議)(吉村功太郎)</p> <p>第2回：「社会認識教育系教科授業開発」で学習した社会認識教育系教科の授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点から検討する。(演習)(吉村功太郎)</p> <p>第3回：社会認識教育系教科の授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点からの検討結果として、初等教育と中等教育段階の授業構成論の共通点の確認と相異点を明確にする。(演習・グループ討議)(吉村功太郎)</p> <p>第4回：クラス全体で、教材開発に取り組みたい単元の授業事例を選択し、学校あるいは学年段階でどのように行われてきたかを分析する。(事例研究)(吉村功太郎・根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第5回：各学校種別に現職教員学生と学部新卒学生でグループを作り、さきに取り上げた単元の中から選択して、「確かな学力形成」をねらいとする授業の観点から、分析、討議する。(事例研究)(吉村功太郎・根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第6回：「確かな学力形成」をねらいとする授業の観点から、学校や学年の違いを視野に、複数の教材開発及び授業方法の開発を行う。(作業学習)(吉村功太郎・根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第7回：引き続き教材開発及び授業方法の開発を行う。(作業学習)(吉村功太郎・根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第8回：各グループの授業開発案をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(プレゼンテーション)(吉村功太郎・根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第9回：引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、初等段階から中等段階へと確かな学力形成につながる授業構成や授業方法を明確にする。(プレゼンテーション)(吉村功太郎・根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第10回：相互批評や指導助言に視野に入れて、作成した授業構成案の修正を行う。(ワークショップ)(吉村功太郎)</p> <p>第11回：引き続き、作成した授業構成案の修正を行う。(ワークショップ)(吉村功太郎)</p> <p>第12回：各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(吉村功太郎・根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第13回：各グループの現職教員学生による模擬授業を行い、学部新卒学生は学ぶべき点を、明らかにし、大学教員は助言指導する。(模擬授業)(吉村功太郎・根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第14回：模擬授業を手がかりとして、新卒学生及び現職教員学生ともに、授業作りの理論を実践に転化する技術を一般化する。(吉村功太郎)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(吉村功太郎)</p>
達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・教科教育授業開発研究の演習を通して修得した教科教育及び社会認識教育系教科固有の授業構成論を手掛かりに、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことを通して、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構成方法を確実に修得する。 ・模擬授業を行うことによって、学部新卒学生は、高度な授業構成能力の修得を、現職教員学生は、メンターシップの基礎的資質を形成することができる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領解説書(社会編)及び中学校学習指導要領解説書(社会編) 文部科学省 平成20年 ・各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目
教科領域授業開発研究 社会認識教育系授業研究

履修上の注意

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>前学期 水曜日12:10-12:50</td> <td>後学期 水曜日12:10-12:50</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	前学期 水曜日12:10-12:50	後学期 水曜日12:10-12:50
【前期】	【後期】			
前学期 水曜日12:10-12:50	後学期 水曜日12:10-12:50			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/01 12:16:56

科目コード	M8580	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	芸術教育系授業開発研究				
(英語名称)					
担当教員	葛西 寛俊、菅 裕、未定、幸 秀樹				
開講日	後期 月曜日 1・2時限				

授業概要
<p>教科教育授業開発で修得した高度な授業開発力を、より実践的な能力に高めるとともに、現職教員のメンターシップの向上をねらいとする。 芸術教育系の教科に分かれて、現職教員と学部新卒者がペアを組み現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。 作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 学部新卒者が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。</p>

授業計画
<p>第1回 現職教員学生等の経験をもとに、芸術教育系各教科・科目における授業づくり・授業開発をめぐる現状の課題等を明確に把握する。 第2回 「教科領域授業開発研究」で学習した芸術教育系教科の授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点から検討する。 第3回 グループごとに分かれて、芸術教育系教科の授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点からの検討結果として、初等教育と中等教育段階の授業構成論の共通点の確認と相異点を明確にする。 第4回 教材開発に取り組みたい単元の授業事例を選択し、学校あるいは学年段階でどのように行われてきたかを分析する。 第5回 各学校種別に現職教員学生と学部新卒生でグループを作り、さきに取り上げた単元の中から選択して、「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から分析討議する。 第6回 「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から、学校や学年の違いを視野に、複数の教材開発及び授業方法の開発を行う。 第7回 引き続き教材開発及び授業方法の開発を行う。 第8回 各グループの授業開発案をプレゼンテーションする。相互批評を行う。 第9回 引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、初等段階から中等段階へと確かな学力形成につながる授業構成や授業方法を明確にする。 第10回 相互批評や指導助言に視野に入れて、作成した授業構成案の修正を行う。 第11回 引き続き、作成した授業構成案の修正を行う。 第12回 各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。 第13回 各グループの現職教員学生による模擬授業を行い、学部新卒生は学ぶべき点を、明らかにし、大学教員は助言指導する。 第14回 全体で模擬授業を手がかりとして、新卒生及び現職教員学生ともに、授業作りの理論を実践に転化する技術を一般化する。 第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。</p>

達成目標
<p>・教科教育授業開発研究の演習を通して修得した教科教育及び芸術教育系教科（音楽科・美術科）の授業構成論を手掛かりに、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことを通して、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構成方法を確実に修得することができることとともに、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な不可欠な確かな教育理論と優れた実践力・応用力を身につける。 ・模擬授業を行うことによって、高度な授業構成能力の修得や現職教員のメンターシップの向上を図ることができる。</p>

成績評価基準

成績評価方法
<p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・発表（問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等）、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

文献・教材
<p>『小学校学習指導要領解説-音楽編-』 『小学校学習指導要領解説-図画工作編-』 『中学校学習指導要領解説-音楽編-』 『中学校学習指導要領解説-美術編-』 ・各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。</p>

関連する授業科目

履修上の注意
<p>この授業では、教材開発・プレゼンテーション・模擬授業の準備となる予習課題と相互批評に基づく事後レポートを課す。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】 火曜日12:10-12:50(幸) 木曜日14:50-16:20(菅)</p> <p>【後期】 火曜日12:10-12:50(幸) 木曜日14:50-16:20(菅)</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/02 10:21:58

科目コード	M8590	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系授業開発研究				
(英語名称)					
担当教員	伊波 富久美、佐野 順一、三輪 佳見				
開講日	後期 月曜日 3・4時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職教員と学部新卒者がグループを組み、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。(グループ討議、事例研究) ・ 作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 ・ 学部新卒者が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。

授業計画
<p>第1回：現職教員学生の経験をもとに、スポーツ・生活科学教育系教科における授業開発をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第2回：「教科教育授業開発研究」で学習した授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点から検討する。(演習)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第3回：授業構成論の分析視点及び方法を、学校段階の観点からの検討結果として、初等教育と中等教育段階の共通点の確認と相異点を明確にする。(演習)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第4回：スポーツ・生活科学系の各教科に別れて、単元・教材の授業事例を選択し、学校あるいは学年段階でどのように行われてきたかを分析する。(事例研究)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第5回：各学校種別に現職教員学生と学部新卒生でグループを作り、さきに取り上げた単元・教材の中から選択して、「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から、分析討議する。(事例研究)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第6回：「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から、学校や学年の違いを視野に、複数の教材開発を行う。(演習)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第7回：「確かな学力形成をねらいとする授業」の観点から、学校や学年の違いを視野に、指導方法の開発を行う。(演習)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第8回：各グループの授業開発案をプレゼンテーションする。(プレゼンテーション)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第9回：引き続き、プレゼンテーションと相互批評を行い、初等段階から中等段階へと確かな学力形成につながる授業構成や授業方法を明確にする。(プレゼンテーション)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第10回：相互批評や指導助言に視野に入れて、作成した授業構成案の修正を行う。(ワークショップ)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第11回：引き続き、作成した授業構成案の修正を行う。(ワークショップ)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第12回：各グループの学部新卒者による模擬授業を行い、現職教員学生、大学教員が助言指導する。(模擬授業)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第13回：各グループの現職教員学生による模擬授業を行い、学部新卒生は学ぶべき点を、明らかにし、大学教員は助言指導する。(模擬授業)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第14回：模擬授業を手がかりとして、授業づくりの理論を実践に転化する技術を一般化する。(演習)(三輪・伊波・佐野)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(三輪・伊波・佐野)</p>

達成目標
<p>教科教育授業開発研究の演習を通して修得した教科教育及びスポーツ・生活科学教育系教科固有の授業構成論を手掛かりに、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする実践例の構造の分析と評価を行うことを通じて、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の構成方法を確実に修得することができる。模擬授業を行うことによって、高度な授業構成能力の修得や現職教員のメンターシップの向上が図られる。</p> <p>この科目は、デュプロマポリシーに掲げる授業力および課題研究能力を養う。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・ この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・ 成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領 ・ 小学校学習指導要領解説(体育編)、中学校学習指導要領解説(保健体育編)及び高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編) ・ 小学校学習指導要領解説(家庭編)、中学校学習指導要領解説(技術・家庭編)及び高等学校学習指導要領解説(家庭編) ・ 各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目

履修上の注意
・ 事前・事後における関連文献についての予習および復習を課す。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火10:30~11:30(三輪)</td> <td>木13:30~14:30(三輪)</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火10:30~11:30(三輪)	木13:30~14:30(三輪)
【前期】	【後期】			
火10:30~11:30(三輪)	木13:30~14:30(三輪)			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/22 14:16:25

科目コード	M8600	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系内容開発研究				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、東條 弘子、中村 佳文、村端 五郎				
開講日	後期 木曜日 7・8時限				

授業概要
<p>現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点及び方法を修得するために、協働方式及びグループ別指導により以下の学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語教育系各科・科目における教科書及び教材を巡る現状の課題を把握する。 ・現在の教育の潮流である確かな学力の形成の観点から、現在の教科書の分析を行う。 ・教科書分析をとおして、確かな学力形成と教材との媒体となる「教育内容」の関係性の理解とより妥当と考えられる内容の開発に取り組む。 ・素材研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。 <p>いずれも自宅ですっきりと準備をし、授業に臨むこと。</p>

授業計画
<p>第1回： 前期の教科領域内容開発研究の体験をもとに、学力を高めるための課題を明確にする。(グループ討議)(アダチ・東條・中村・村端)</p> <p>第2回： 学習指導要領と教科書の内容を分析して、その関係性を明らかにする。(演習、グループ討議)(中村・村端)</p> <p>第3回： 各学校段階の教科書における言語や文学的内容の分析を行う。(演習)(中村・村端)</p> <p>第4回： 教科書における分析を行い、目標 教材 教育内容の関係性を理解する。(学校・学年段階の目標が異なると教材・内容を扱う視点が異なる。)(演習)(中村・村端)</p> <p>第5回： 確かな学力の形成の観点から、教科書分析をもとに、深い教材研究が必要な単元、重要な単元を調査する。(演習)(中村・村端)</p> <p>第6回： 学問的な観点から、確かな学力の形成にとって重要な単元に関する内容の演習を行う。(演習)(中村・村端)</p> <p>第7回： 引き続き演習を行う。(演習)(中村・村端)</p> <p>第8回： 現職教員学生及び学部新卒学生で構成するグループに分かれて、演習の結果をもとに、単元の素材研究を行う。(ワークショップ)(中村・村端)</p> <p>第9回： 引き続き素材研究を行う。(ワークショップ)(中村・村端)</p> <p>第10回： 素材研究の成果にもとづいて、どのような学習内容に転化させるかについて、プレゼンテーションを行う。相互に批評を行う。(プレゼンテーション)(中村・村端)</p> <p>第11回： 批評をもとに、補充の研究を行う。(プレゼンテーション)(中村・村端)</p> <p>第12回： 確かな学力形成の目標 学習内容の観点から、素材研究の成果を、どのような学習内容に転化させるかについて、プレゼンテーションを行う。相互に批評を行う。(プレゼンテーション)(中村・村端)</p> <p>第13回： 確かな学力形成の観点から、単元を想定して、その内容構想案を各グループで討議し、グループ案をまとめる。(グループ討議)(中村・村端)</p> <p>第14回： 内容構想案を発表する。(プレゼンテーション)(中村・村端)</p> <p>第15回： 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体をまとめる。(アダチ・東條・中村・村端)</p>

達成目標
<p>教科領域内容開発研究の演習を通して修得した内容開発の方法を手掛かりに、言語教育系教科(国語科、英語科)に関する内容の分析、特に主たる教材である教科書の構造の分析、評価を行うことを通して、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点及び方法を修得することができる。</p> <p>内容開発の活動を通して、高度な内容開発能力の修得ができ、現職教員学生のメンターシップの向上が図られる。ディプロマポリシーにうたう、指導的役割を果たし得る教員に必要な不可欠な確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備えたスクーラーリーダーとしての資質を形成しているかを目標とする。</p>

成績評価基準
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める</p>

成績評価方法
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める</p>

文献・教材
<p>テキスト： <ul style="list-style-type: none"> ・各社小学校国語の教科書及び各社中学校・高等学校国語・英語の教科書 ・小中高の国語または外国語活動・外国語科の学習指導要領 ・各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。 </p>

関連する授業科目

履修上の注意
<p>授業計画を参考に、関連図書・配付資料を事前に確認して授業に臨むこと。毎回議論した内容等を整理・確認すること。レポート作成等の課題でこの状況を確認するものとする。</p>

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>各担当教員に問い合わせること</td> <td>各担当教員に問い合わせること</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	各担当教員に問い合わせること	各担当教員に問い合わせること
【前期】	【後期】			
各担当教員に問い合わせること	各担当教員に問い合わせること			

備考

参考URL

ファイル

更新日付

科目コード	M8610	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系内容開発研究				
(英語名称)					
担当教員	木根 主税、西田 伸、野添 生、未定				
開講日	後期 木曜日 7・8時限				

授業概要
現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点・方法をより確かなものにするとともに、具体的開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。 ・理数教育系各教科・科目における教科書及び教材などの教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、現在に至る学習指導要領の内容及び現在の教科書の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、素材研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。 ・本科目では受講生による発表が中心的な学習活動となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。

授業計画
第1回：前期の教科領域内容開発研究の体験をもとに、学力を高めるための内容開発の難しさや課題を明確にする。(グループ討議・演習)(木根・野添・未定・西田) 第2回：「確かな学力の形成」の観点から、小学校学習指導要領における理数教育系教科の内容の変遷を分析、理解する。(講義・演習)(木根・野添) 第3回：「確かな学力の形成」の観点から、中・高校学習指導要領における理数教育系教科の内容の変遷を分析、理解する。(講義・演習)(木根・野添) 第4回：理数教育系教科(算数・数学科、理科)に別れて、現職教員学生と学部新卒学生によるグループを構成して、特定の内容(例えば、算数・数学科「図形」、理科「生命」等)を取り上げて、「確かな学力の形成」の観点から、現行の小学校及び中・高等学校学習指導要領における内容の発展構造を分析する。(事例研究)(木根・未定・野添・西田) 第5回：引き続き現行の小学校及び中・高等学校学習指導要領における内容の発展構造を分析する。(事例研究)(木根・未定・野添・西田) 第6回：第4・5回で分析した学習指導要領の内容に対応する小・中・高校の教科書の内容、記述及び資料の分析を行う。(事例研究)(木根・未定・野添・西田) 第7回：引き続き、小・中・高校の教科書の内容、記述及び資料の分析を行う。(事例研究)(木根・未定・野添・西田) 第8回：確かな学力形成の観点からみた、学習指導要領及び教科書の構造分析の結果とそれに基づく修正案をまとめる。(演習)(木根・未定・野添・西田) 第9回：各グループの確かな学力形成の観点からみた、小・中・高校における内容(単元)構造の分析結果及び修正案のプレゼンテーションを行う。(プレゼンテーション)(木根・野添・未定・西田) 第10回：小学校及び中・高校のグループに別れて、確かな学力の形成の観点から、特定単元(例えば、先に取り上げた算数・数学科「図形」、理科「生命」)の発展・補充教材についての開発を検討する。(事例研究)(木根・野添・未定・西田) 第11回：引き続き、発展・補充教材の開発作業を行う。(事例研究)(木根・未定・野添・西田) 第12回：各グループが開発した発展・補充教材について発表を行い、相互に批評、評価を行う。(プレゼンテーション)(木根・野添・未定・西田) 第13回：各グループは、批評、評価結果に基づいて、修正作業を行う。(事例研究)(木根・未定・野添・西田) 第14回：修正した発展・補充教材について発表を行い、指導教員による批評、評価を行う。(プレゼンテーション)(木根・野添・未定・西田) 第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体をまとめる。(グループ討議)(木根・野添・未定・西田)

達成目標
この科目は、ディプロマポリシーに掲げる「授業力」に関する能力を養うものである。具体的には、以下のとおりである。 ・教科領域内容開発研究の演習を通して修得した内容分析の方法を用いて、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」の観点から、理数教育系教科(算数・数学科、理科)の小・中・高校の学習指導要領及び主たる教材である教科書の内容配列及び構造の分析、評価を行うことを通じて、より確かな内容分析の方法を修得することができる。 ・発展的学習の内容(教材開発)開発を通して、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点及び方法を修得することができる。 ・内容開発の活動を通して、学部新卒学生は高度な内容開発能力を、現職教員学生はメンターシップの基礎的資質を修得することができる。

成績評価基準
発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。

成績評価方法
この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

文献・教材
教科書： ・各社小学校算数・理科の教科書及び各社中学校・高等学校数学・理科の教科書 ・各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。 参考書： 文部科学省 小学校学習指導要領解説 算数編、理科編 文部科学省 中学校学習指導要領解説 数学編、理科編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編、理科編・理数編 別途、授業で指定する。

関連する授業科目

履修上の注意

オフィスアワー	
【前期】	【後期】

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/08 18:50:37

科目コード	M8620	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系内容開発研究				
(英語名称)					
担当教員	大平 明夫、中村 周作、藤本 将人				
開講日	後期 月曜日 3・4時限				

授業概要
<p>学習者の学力形成を保証するための授業の内容開発の観点・方法をより明確にする とともに、具体的な開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系各科・科目における教科書及び教材などの教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、現在に至る学習指導要領の内容及び現在の教科書の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、素材研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。

授業計画
<p>第1回：前期の教科領域内容開発研究の体験をもとに、学力を高めるための内容開発の難しさや課題を明確にする。(グループ討議・演習)(藤本・中村・大平) 第2回：学力形成の観点から、小学校学習指導要領における社会認識教育系教科の内容の変遷を分析、理解する。(講義・演習)(藤本) 第3回：学力形成の観点から、中・高校学習指導要領における社会認識教育系教科の内容の変遷を分析、理解する。(講義・演習)(藤本) 第4回：現職教員学生と学部新卒学生によるグループを構成して、特定の内容(例えば、「工業の発展」等)を取り上げて、「確かな学力の形成」の観点から、現行の小学校及び中・高等学校学習指導要領における内容の発展構造を分析する。(事例研究)(藤本) 第5回：引き続き現行の小学校及び中・高等学校学習指導要領における内容の発展構造を分析する。(事例研究)(藤本) 第6回：第4・5回で分析した学習指導要領の内容に対応する小・中・高校の教科書の内容、記述及び資料の分析を行う。(事例研究)(藤本) 第7回：引き続き、小・中・高校の教科書の内容、記述及び資料の分析を行う。(事例研究)(藤本) 第8回：学力形成の観点からみた、学習指導要領及び教科書の構造分析の結果とそれに基づく修正案をまとめる。(演習)(藤本) 第9回：各グループについて、学力形成の観点からみた、小・中・高校における内容(単元)構造の分析結果及び修正案のプレゼンテーションを行う。(プレゼンテーション)(藤本) 第10回：小学校及び中・高校のグループに別れて、確かな学力の形成の観点から、特定単元(例えば、先に取り上げた「工業の発展」)の発展・補充教材についての開発を検討する。(事例研究)(藤本) 第11回：引き続き、発展・補充教材の開発作業を行う。(事例研究)(未定) 第12回：各グループが開発した発展・補充教材について発表を行い、相互に批評、評価を行う。(プレゼンテーション)(藤本) 第13回：各グループは、批評、評価結果に基づいて、修正作業を行う。(事例研究)(藤本) 第14回：修正した発展・補充教材について発表を行い、指導教員による批評、評価を行う。(プレゼンテーション)(藤本・中村・大平) 第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体をまとめる。(グループ討議)(藤本・中村・大平)</p>

達成目標
<p>この科目では、ディプロマポリシーに掲げる「教職としての高度の実践力・応用力」に関する以下の能力を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科領域内容開発研究の演習を通して修得した内容分析の方法を用いて、学力形成の観点から、社会認識教育系教科(社会科、地歴科、公民科)の小・中・高校の学習指導要領及び主たる教材である教科書の内容配列及び構造の分析、評価を行うことを通じて、より確かな内容分析の方法を修得することができる。 ・発展的学習の内容(教材開発)開発を通して、学力形成をねらいとする授業の内容開発の観点及び方法を修得することができる。 ・内容開発の活動を通して、学部新卒学生は高度な内容開発能力を、現職教員学生はメンターシップの基礎的資質を修得することができる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。 ・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意
この科目では、毎回、関連文献についての予習を課す。

オフィスアワー	
【前期】	【後期】

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/13 18:58:02

科目コード	M8630	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	芸術教育系内容開発研究				
(英語名称)					
担当教員	石川 千佳子、菅 裕、幸 秀樹				
開講日	後期 火曜日 9・10時限				

授業概要
<p>現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点・方法をより確かなものにするともに、具体的開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術教育系各科における教科書及び教材などの教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、現在に至る学習指導要領の内容及び現在の教科書の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、作品研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。 <p>なお、一連の演習の中では、各自の予習・復習を義務づける。</p>

授業計画
<p>第1回：前期の教科領域内容開発研究の体験をもとに、学力を高めるための内容開発の難しさや課題を明確にする。(幸：グループ討議・演習)</p> <p>第2回：「確かな学力の形成」の観点から、小学校学習指導要領における芸術教育系教科の内容の変遷を分析、理解する。(幸・未定・菅：講義・演習)</p> <p>第3回：「確かな学力の形成」の観点から、中・高校学習指導要領における芸術教育系教科の内容の変遷を分析、理解する。(幸・未定・菅：講義・演習)</p> <p>第4回：現職教員学生と学部新卒学生によるグループを構成して、特定の内容(例えば、「近・現代の作品」等)を取り上げて、「確かな学力の形成」の観点から、現行の小学校及び中・高等学校学習指導要領における内容の発展構造を分析する。(幸・石川 未定・菅：事例研究)</p> <p>第5回：引き続き現行の小学校及び中・高等学校学習指導要領における内容の発展構造を分析する。(幸・石川 未定・菅：事例研究)</p> <p>第6回：第4・5回で分析した学習指導要領の内容に対応する小・中・高校の教科書の内容、記述及び作品の分析を行う。(幸・石川 未定・菅：事例研究)</p> <p>第7回：引き続き、小・中・高校の教科書の内容、記述及び作品の分析を行う。(幸・石川 未定・菅：事例研究)</p> <p>第8回：確かな学力形成の観点からみた、学習指導要領及び教科書の構造分析の結果とそれに基づく修正案をまとめる。(幸・石川 未定・菅：演習)</p> <p>第9回：各グループの確かな学力形成の観点からみた、小・中・高校における内容(単元)構造の分析結果及び修正案のプレゼンテーションを行う。(幸・石川 未定・菅：プレゼンテーション)</p> <p>第10回：小学校及び中・高校のグループに別れて、確かな学力の形成の観点から、特定単元(例えば、先に取り上げた「近・現代の作品」)の発展・補充教材についての開発を検討する。(幸・石川 未定・菅：事例研究)</p> <p>第11回：引き続き、発展・補充教材の開発作業を行う。(幸・石川 未定・菅：事例研究)</p> <p>第12回：各グループが開発した発展・補充教材について発表を行い、相互に批評、評価を行う。(幸・石川 未定・菅：プレゼンテーション)</p> <p>第13回：各グループは、批評、評価結果に基づいて、修正作業を行う。(幸・石川 未定・菅：事例研究)</p> <p>第14回：修正した発展・補充教材について発表を行い、指導教員による批評、評価を行う。(幸・石川 未定・菅：プレゼンテーション)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体をまとめる。(幸・石川 未定・菅：グループ討議)</p>

達成目標
<p>教科領域内容開発研究の演習を通して修得した内容分析の方法を用いて、現在の学校教育の潮流である確かな学力の形成の観点から、芸術教育系教科の音楽科・美術科の小中高校の学習指導要領及び主たる教材である教科書の内容配列及び構造の分析、評価を行うことを通して、より確かな内容分析の方法を修得することができる。</p> <p>発展的学習の内容開発を通して、確かな学力の形成をねらいとする授業の内容開発の観点及び方法を修得することができる。</p> <p>内容開発の活動を通して、学部新卒学生は高度な内容開発能力を、現職教員学生はメンタリングの基礎的資質を修得することができる。</p> <p>これらの演習をとおして、ディプロマポリシーに掲げる、論理的思考力や課題解決能力を養うことを目指す。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程に基づき行う。

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> ・各社小学校音楽・図画工作の教科書及び各社中学校・高等学校音楽・美術の教科書 ・各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目
<ul style="list-style-type: none"> 「芸術教育系内容開発基礎研究IA」 「芸術教育系内容開発基礎研究IIIA」

履修上の注意
各時間ごとに、予習・復習を義務づける。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>各教員により異なるので問い合わせること</td> <td>各教員により異なるので問い合わせること</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	各教員により異なるので問い合わせること	各教員により異なるので問い合わせること
【前期】	【後期】			
各教員により異なるので問い合わせること	各教員により異なるので問い合わせること			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/01 14:09:23

科目コード	M8640	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発研究				
(英語名称)					
担当教員	藤元 嘉安、未定、三輪 佳見				
開講日	後期 火曜日 1・2時限				

授業概要
<p>現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点・方法をより確かなものにするともに、具体的開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・生活科学教育系各科目における教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、学習指導要領の内容の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、素材研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。

授業計画
<p>第1回：前期の教科領域内容開発研究の体験をもとに、スポーツ・生活科学教育系教科における学力を高める、あるいは技能伝承のための内容開発の難しさや課題を明確にする。(グループ討議)(三輪)</p> <p>第2回：「確かな学力の形成」の観点から、スポーツ・生活科学教育系の教科ごとに、小学校学習指導要領における内容を分析、理解する。(講義・演習)(三輪 未定 藤元)</p> <p>第3回：現職教員学生と学部新卒学生によるグループを構成して、特定の内容を取り上げて、「確かな学力の形成」の観点から、現行の小学校学習指導要領における内容の発展構造を分析する。(事例研究)(三輪 未定 藤元)</p> <p>第4回：第2・3回で分析した学習指導要領の内容に対応する小学校の教科書等の内容、記述及び資料の分析を行う。(事例研究)(三輪 未定 藤元)</p> <p>第5回：各グループで学習指導要領及び教科書等の分析結果に基づいて小学校の内容を開発する。(演習)引き続き小学校の教科書の内容、記述及び資料の分析を行う。(事例研究)(三輪 未定 藤元)</p> <p>第6回：各グループで学習指導要領及び教科書等の分析結果に基づいて小学校の内容開発案をまとめる。(演習)(三輪 未定 藤元)</p> <p>第7回：各グループでまとめた小学校の内容開発案を発表し、相互に批評、評価を行う。(プレゼンテーション)(三輪・未定・未定)</p> <p>第8回：「確かな学力の形成」の観点から、スポーツ・生活科学教育系の教科ごとに、中・高等学校学習指導要領における内容を分析、理解する。(講義・演習)(未定 未定 藤元)</p> <p>第9回：現職教員学生と学部新卒学生によるグループを構成して、特定の内容を取り上げて、「確かな学力の形成」の観点から、現行の中・高等学校学習指導要領における内容の発展構造を分析する。(事例研究)(未定 未定 藤元)</p> <p>第10回：第8・9回で分析した学習指導要領の内容に対応する中・高校の教科書等の内容、記述及び資料の分析を行う。(事例研究)(未定 未定 藤元)</p> <p>第11回：各グループで学習指導要領及び教科書等の分析結果に基づいて中・高校の内容を開発する。(演習)(未定 未定 藤元)</p> <p>第12回：各グループで学習指導要領及び教科書等の分析結果に基づいて中・高校の内容開発案をまとめる。(演習)(未定 未定 藤元)</p> <p>第13回：各グループでまとめた中・高校の内容開発案を発表し、相互に批評、評価を行う。(プレゼンテーション)(未定・未定・藤元)</p> <p>第14回：作成した内容開発案を各グループで修正する。(未定 未定 藤元)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体をまとめる。(グループ討議)(三輪・未定・未定・藤元)</p>

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・教科領域内容開発研究の演習を通して修得した内容分析の方法を用いて、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」の観点から、スポーツ・生活科学教育系教科(保健体育科、家庭科、技術科)の小・中・高校の学習指導要領の内容配列及び構造の分析、評価を行うことを通して、より確かな内容分析の方法を修得することができる。 ・教材開発を通して、「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点及び方法を修得することができる。 ・内容開発の活動を通して、学部新卒学生は高度な内容開発能力を、現職教員学生はメンターシップの基礎的資質を修得することができる。 ・この科目は、デュプロマポリシーに掲げる授業力および課題研究能力を養う。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p> <p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領 ・小学校学習指導要領解説(体育編)、中学校学習指導要領解説(保健体育編)及び高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編) ・小学校学習指導要領解説(家庭編)、中学校学習指導要領解説(技術・家庭編)及び高等学校学習指導要領解説(家庭編) ・各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目

履修上の注意
・事前・事後における関連文献についての予習および復習を課す。

オフィスアワー						
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火10:30-11:30(三輪)</td> <td>木13:30-14:30(三輪)</td> </tr> <tr> <td>月11:00~12:00(藤元)</td> <td>月11:00~12:00(藤元)</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火10:30-11:30(三輪)	木13:30-14:30(三輪)	月11:00~12:00(藤元)	月11:00~12:00(藤元)
【前期】	【後期】					
火10:30-11:30(三輪)	木13:30-14:30(三輪)					
月11:00~12:00(藤元)	月11:00~12:00(藤元)					

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/22 14:20:13

科目コード	M8650	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系内容開発基礎研究 IA (国語学)				
(英語名称)					
担当教員	塚本 泰造、中村 佳文				
開講日	前期 月曜日 9・10時限				

授業概要
<p>言語教育の柱の一つに、教師がさまざまな教材をその素材である「ことば」から見つめ直すことがあげられます。言語教育に密接に関わる、国語学さらに言語学の体系的な知見を学び、教材をことばの観点からどう解きほぐすか、その理論的な根拠と実践を結びつける鍛錬の場をめざします。</p> <p>また単なる「語彙・文法学習」とは違う視点で、国語学・言語学の知見をどのように国語教育に活かすことができるのかを考えます。教材となる文学作品を知的に批評・分析する方法こそが授業実践に複層的な視点を与え、「何でもあり」にならない着地点を学習者に提供する術となります。本講義が受講者にとって知的鍛錬の契機となることを期待しています。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス&ことばの単位論：二重分節性と生産性を中心に(塚本)(中村) テキスト論1：文の連なりが意味をなす条件(塚本) テキスト論2：いわゆる文章論とその分析(塚本) 記号・比喩と詩的言語(中村) 精神分析・テーマ批評と構造主義(中村) 物語の文法・構造(中村) 文体練習1：対義・態と視点(塚本) 文体練習2：品詞・パラディグマティックとパロディ(塚本) 文体練習3：活用・シンタグマティックと間テキスト性(塚本) 認知と行為の物語論・相互テキスト性(中村) 受容システムの理論と脱構築(中村) 新歴史主義とフェミニズム・ジェンダー批評(中村) 言語教材研究1 上記のトピックをふまえて、共通教材の選定と分析を行います。(塚本)(中村) 言語教材研究2 上記のトピックをふまえて、発表(第一班)と相互批評を行います。(塚本)(中村) 言語教材研究3 上記のトピックをふまえて、発表(第二班)と相互批評を行います。(塚本)(中村)

達成目標
<ol style="list-style-type: none"> 現在の国語学・言語学の知見を理解できる。 国語学・言語学の知見を生かした教材を作成できる。 国語学・言語学上の知見を生かした授業案を作成できる。 教師として必要な言語観・母語観を持つことができる。 教材に対して知的な理論的批評・分析を施し授業実践に活かすことができる。

成績評価基準
宮崎大学教育文化学部教育学研究科の教科領域教育実践開発科目の受講及び内規によります。

成績評価方法
授業での課題提出と発表(1-12回)40%、授業案とその発表(13-15回)50%、授業での積極的な参加10%で成績を評価し、60%以上のポイントを獲得すれば合格です。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学教育文化学部教育学研究科の教科領域教育実践開発科目の受講及び内規によります。

文献・教材
適宜、資料を配布しますが、参考となる主な文献として、池上嘉彦『英語の感覚・日本語の感覚』(日本放送出版協会)、齋藤兆文『英語の作法』、西田谷洋『学びのエクササイズ 文学理論』(ひつじ書房2014)、石原千秋・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋修・高橋世織『読むための理論』(世織書房)、永野賢『文章論総説』(朝倉書店)、石原千秋『読者はどこにいるのか 書物の中の私たち』(河出ブックス)

関連する授業科目
言語教育系内容開発基礎研究 A・A、言語教育系内容開発研究、言語教育系授業研究

履修上の注意
授業で積極的に参加するためには、毎回出される国語学・国語教育に関する文献・課題をあらかじめ消化していただくことが求められます。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>随時：空いている時間を研究室前に掲示しています。</td> <td></td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	随時：空いている時間を研究室前に掲示しています。	
【前期】	【後期】			
随時：空いている時間を研究室前に掲示しています。				

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/02 12:46:21

科目コード	M8660	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系内容開発基礎研究 IB (米文学)				
(英語名称)					
担当教員	井崎 浩、東條 弘子				
開講日	前期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<p>言語教育系教科の英語科に関する教科論や教材論と、英米文学の専門知識を総合的に結びつけ、高度な素材研究能力や教材開発能力の習得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」を含んで行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語教育系教科に関する教科論および教材論の演習(東條) 米文学に関する素材研究講義および演習(井崎) <p>米文学短篇小説を精読することによって、テキストの確実な分析法を学び、高度な読解力に基づいた解釈が行えるようになることを目指す。このことによって、どのようなレベルのものであれ、英文テキストを教材として扱う際に必須となる能力を育成し、高い教材開発能力の獲得につなげたい。</p> <p>現職教員とストリートマスターの混成協働グループで教材作成し、プレゼンテーションまたは模擬授業を行い、省察的観察に基づく相互批評と改善策の検討を実施する。(協働学習グループ、事例研究、現地調査、プレゼンテーション)</p> <p>なお、この授業では毎回事前に指示された文学作品を読む、分析する、プレゼンテーションの準備をするなどの課題を課す。</p>

授業計画
<p>第1回：言語教育系教科(英語)の教育目標を再認識し、教授内容としての言語第1回：言語教育系教科(英語)の教育目標を再認識し、教授内容としての言語・コミュニケーション・文学等の特質を分析し、理解を深める。(東條 井崎)(グループ討議)</p> <p>第2回：教材研究の方法及びオーセンティックな言語素材の教材化のあり方について討議し、取り扱い方を理解する。(東條 井崎)(グループ討議)</p> <p>第3回：短篇小説1：精読およびテキスト理論に基づく分析法(井崎 東條)(講義・演習)</p> <p>第4回：短篇小説1：グループ作業による具体的分析作業(井崎 東條)(作業・演習)</p> <p>第5回：短篇小説1：解釈と方法論(井崎 東條)(講義・演習)</p> <p>第6回：短篇小説1：グループ作業による解釈構築(井崎 東條)(作業・演習)</p> <p>第7回：短篇小説1：グループ単位での解釈のプレゼンテーションと合評(井崎・東條)(プレゼンテーション)</p> <p>第8回：短篇小説2：精読およびテキスト理論に基づく分析法(井崎 東條)(講義・演習)</p> <p>第9回：短篇小説2：グループ作業による具体的分析作業(井崎 東條)(作業・演習)</p> <p>第10回：短篇小説2：解釈と方法論(井崎 東條)(講義・演習)</p> <p>第11回：短篇小説2：個人単位での解釈構築に向けての準備とディスカッション(井崎 東條)(作業・演習)</p> <p>第12回：短篇小説2：個人単位での解釈のプレゼンテーションと合評(井崎・東條)(プレゼンテーション)</p> <p>第13回：プレゼンテーションまたは模擬授業と相互批評と改善策の検討を行う。(東條、井崎)(発表活動)</p> <p>第14回：プレゼンテーションまたは模擬授業と相互批評と改善策の検討を行う。(東條、井崎)(発表活動)</p> <p>第15回：ふりかえり・まとめ(井崎・東條)</p>

達成目標
<p>言語教育系教科(国語科・英語科)に関する教科論および教材論と、言語学や文学論の知見を総合的に結びつけ、理論と実践の融合を図る。講義・演習を通して、現職教員および学部新卒学生は、素材研究能力と教材開発能力を修得することを目標とする。</p>

成績評価基準
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 文学鑑賞に必要な英語力がどの程度習得できたか、また生徒が楽しいと感じ、しかも英語力が身につく授業を実践できる授業開発能力がどの程度獲得できたかを基準に評価する。 この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

文献・教材
<p>テキスト 講義に資料等が必要な場合、適宜配布する。</p> <p>参考書 ：David Lodge, The Art of Fiction Penguin Books: New York, 1992. そのほか、授業中に適宜指示する。</p>

関連する授業科目

履修上の注意

オフィスアワー		
<table border="0"> <tr> <td>【前期】 各担当教員に問い合わせ</td> <td>【後期】 各担当教員に問い合わせ</td> </tr> </table>	【前期】 各担当教員に問い合わせ	【後期】 各担当教員に問い合わせ
【前期】 各担当教員に問い合わせ	【後期】 各担当教員に問い合わせ	

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/13 17:17:54

科目コード	M8670	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系内容開発基礎研究 IIA (国文学)				
(英語名称)					
担当教員	中村 佳文、未定				
開講日	後期 木曜日 3・4時限				

授業概要
<p>言語教育系教科の言語事項を中心とする教科論及び教材論と国文学(古典近現代詩歌)の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。</p> <p>1.言語教育系教科の文学事項(和歌・短歌)を中心とする現状の分析。 2.言語教育系教科の文学事項(和歌・短歌)を中心とする教科論及び教材論の演習。</p> <p>言語事項を中心とする素材研究及び演習。学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。</p>

授業計画
<p>第1回：言語教育系教科の文学研究(和歌・短歌)と教材論 第2回：『万葉集』における古代文学的研究方法(演習) 第3回：『万葉集』における素材とテーマ論(演習) 第4回：『古今和歌集』における和漢比較文学的研究方法(1)(演習) 第5回：『古今和歌集』における和漢比較文学的研究方法(2)(演習) 第6回：『新古今和歌集』に至る平安朝和歌史の変遷(演習) 第7回：『新古今和歌集』と中世歌学(演習) 第8回：明治期の短歌革新—正岡子規と時代—(演習) 第9回：若山牧水と明治という近代(1)(演習) 第10回：若山牧水と明治という近代(2)(演習) 第11回：石川啄木と短歌の主題(1)(演習) 第12回：石川啄木と短歌の主題(2)(演習) 第13回：現代短歌と教材研究(演習) 第14回：現代短歌と教材開発(演習) 第15回：まとめ：短歌教材で何を伝えるのか</p>

達成目標
<p>1.言語教育系教科の文学事項(和歌・短歌)を中心とする教科論及び教材論と国文学(和歌・短歌史)の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。</p> <p>2.言語教育系教科における現職教員学生および学部新卒学生の素材研究能力を向上させる。</p> <p>3.言語教育系教科における素材を教材に転化する能力、教材開発技術を向上させる。</p> <p>4.現職教員学生のメンターシップの能力を、より高度なレベルに向上させる。</p> <p>この科目はディプロマポリシーの、「授業力」と「課題研究力」を養う授業である。</p>

成績評価基準
宮崎大学教育文化学部専門科目の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法
発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学教育文化学部専門科目の受講及び試験に関する内規による。

文献・教材
適宜紹介する。

関連する授業科目

履修上の注意
毎回の授業で提示された文献を批判的に検討した上で演習形式に対応できる準備を整えて授業に出席すること。また授業後は自己の分析検討の変化を確認し次回以降への引き継ぎ事項とし、最終的にレポートや論文に反映できる資料整理を求める。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>木曜日12:00～13:00</td> <td>木曜日12:00～13:00</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	木曜日12:00～13:00	木曜日12:00～13:00
【前期】	【後期】			
木曜日12:00～13:00	木曜日12:00～13:00			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/01 16:34:35

科目コード	M8680	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系内容開発基礎研究 II B (英文学)				
(英語名称)					
担当教員	アダチ 徹子、新名 桂子				
開講日	後期 金曜日 7・8時限				

授業概要	
<p>言語教育系教科の英語科に関する教科論や教材論と、英米文学の専門知識を総合的に結びつけ、高度な素材研究能力や教材開発能力の習得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」を含んで行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語教育系教科に関する教科論および教材論の演習 ・ 英文学に関する素材研究講義および演習 ・ 現職教員とストレートマスターの混成協働グループによる教材作成、プレゼンテーションまたは模擬授業、省察的観察に基づく相互批評と改善策の検討。(協働学習グループ、事例研究、現地調査、プレゼンテーション) 	
授業計画	

第1回	教材論・教材開発演習(教材比較論) プレゼンテーションと討議(アダチ・新名)
第2回	教材論・教材開発演習(教材作成法) プレゼンテーションと討議(アダチ・新名)
第3回	英文学に関する素材研究講義: イギリス小説の紹介(新名)
第4回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第5回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第6回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第7回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第8回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第9回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第10回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第11回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第12回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第13回	英文学に関する素材研究演習: イギリス小説の読解と討議(新名)
第14回	プレゼンテーションまたは模擬授業と相互批評と改善策の検討(アダチ・新名)
第15回	プレゼンテーションまたは模擬授業と相互批評と改善策の検討(指導案の修正)(アダチ・新名)

達成目標	
<p>言語教育系教科の英語科に関する教科論や教材論と、英米文学の専門知識を総合的に結びつけ、高度な素材研究能力や教材開発能力の習得をねらいとする。現職教員や学部新卒学生は、英米文学の演習の成果を、素材研究に活かすとともに、素材研究能力・素材を教材に転化する能力・教材開発能力を修得することができる。</p>	

成績評価基準	
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>	

成績評価方法	
<p>文学鑑賞に必要な英語力がどの程度習得できたか、また生徒が楽しいと感じ、しかも英語力が身につく授業を実践できる授業開発能力がどの程度獲得できたかを基準に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。 	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>	

文献・教材	
<p>*テキスト: 講義に資料等が必要な場合、適宜配布する。 *参考書: 各時間に適宜、紹介する。 *小学校外国語活動、中学校外国語科、高等学校外国語科の学習指導要領を準備すること</p>	

関連する授業科目	

履修上の注意	
<p>毎回担当者による発表が課される。(予習範囲は、各自5ページ程度) 授業の2日前までに、内容をまとめたものを提出し、指導を受けること。</p>	

オフィスアワー	
【前期】 各担当教員に問い合わせること	【後期】 各担当教員に問い合わせること

備考	

参考URL	

ファイル	

更新日付	
2017/03/09 09:27:39	

科目コード	M8690	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	言語教育系内容開発基礎研究 IIIA (国文学)				
(英語名称)					
担当教員	中村 佳文、山田 利博、山元 宣宏				
開講日	前期 木曜日 7・8時限				

授業概要
言語教育系教科の言語事項を中心とする教科論及び教材論と国文学(古代文学)及び漢文学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」(中村、山田、山元)で行う。 1.言語教育系教科の文学事項(古文・漢文)を中心とする現状の分析。 2.言語教育系教科の文学事項(古文・漢文)を中心とする教科論及び教材論の演習 国文学(古代文学)及び漢文学担当教員による言語事項を中心とする素材研究及び演習。学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。

授業計画
(中村佳文) 第1回:言語教育系教科の文学事項(古文・漢文)を中心とする現状の問題点分析、教科及び教材論の理解。(グループ討議)
(山田利博) 第2回:日本における文学発生のメカニズムを理解する(演習) 第3回:大学の近くにある神話発生の地を巡る(フィールドワーク) 第4回:文学を理解するために必要な諸条件を考察する(ワークショップ) 第5回:地理的条件を調査する古代文学的方法を理解する(ワークショップ) 第6回:歴史的條件を調査する古代文学的方法を理解する(ワークショップ) 第7回:環境条件を調査する古代文学的方法を理解する(ワークショップ)
(山元宣宏) 第8回:漢字について 第9回:漢字について 第10回:漢詩教材研究 第11回:思想教材研究 第12回:歴史教材研究 第13回:漢文教材研究の転化
(中村佳文・山田利博・山元宣宏) 第14回:教材転化及び受講者プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 第15回:学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。

達成目標
1.言語教育系教科の文学事項(古文・漢文)を中心とする教科論及び教材論と国文学(古代文学)の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。 2.言語教育系教科における現職教員学生および学部新卒学生の素材研究能力を向上させる。 3.言語教育系教科における素材を教材に転化する能力、教材開発技術を向上させる。 4.現職教員学生のメンターシップの能力を、より高度なレベルに向上させる。 この科目はディプロマポリシーの、「授業力」と「課題研究力」を養う授業である。

成績評価基準
宮崎大学教育学研究科専門科目の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法
発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学教育学研究科専門科目の受講及び試験に関する内規による。成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

文献・教材
適宜紹介する。

関連する授業科目

履修上の注意
各回、事前に予習し、問題意識を持って講義に望みがある。事後はもちろん、反省する。

オフィスアワー	
【前期】 火曜13:00~14:00	【後期】 木曜15:00~16:00

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/28 15:06:35

科目コード	M8700	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系内容開発基礎研究 IA (代数学)				
(英語名称)					
担当教員	木根 主税、谷本 洋				
開講日	前期 月曜日 9・10時限				

授業概要
<p>・理数教育系教科の算数・数学科に関する内容開発論と代数学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。</p> <p>・現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、小学校、中学校、高等学校における代数学に関する演習、素材研究、教材に転化する活動を行う。</p> <p>・開発した教材のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。</p> <p>・本科目では受講生による発表が中心的な学習活動となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。</p>

授業計画
<p>第1回 現職教員学生等の経験をもとに、算数・数学科における代数学関連の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議)(木根)</p> <p>第2回 「理数教育系内容開発研究」で学習した算数・数学科の内容開発の分析視点及び方法を、素材の教材転化の観点から検討する。(演習)(木根)</p> <p>第3回 算数・数学科の内容開発の分析視点及び方法を、素材の教材転化の観点から検討結果として、小学校、中学校、高等学校の共通点を確認し、相異点を明確にする。(演習・グループ討議)(木根)</p> <p>第4回 小学校の算数に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する演習を行う。(事例研究)(谷本)</p> <p>第5回 小学校の算数に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する素材研究を行う。(事例研究)(谷本)</p> <p>第6回 小学校の算数に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(谷本)</p> <p>第7回 中学校の数学科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する演習を行う。(事例研究)(谷本)</p> <p>第8回 中学校の数学科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する素材研究を行う。(事例研究)(谷本)</p> <p>第9回 中学校の数学科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(谷本)</p> <p>第10回 高等学校の数学科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する演習を行う。(事例研究)(谷本)</p> <p>第11回 高等学校の数学科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する素材研究を行う。(事例研究)(谷本)</p> <p>第12回 高等学校の数学科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、代数学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(谷本)</p> <p>第13回 各グループが開発した教材をプレゼンテーションする。相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)(木根・谷本)</p> <p>第14回 ひき続き、各グループが開発した教材をプレゼンテーションする。相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)(木根・谷本)</p> <p>第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(木根・谷本)</p>

達成目標
<p>この科目は、ディプロマポリシーに掲げる「授業力」に関する能力を養うものである。具体的には、理数教育系教科(算数・数学科)に関する内容開発論と、代数学の方法や成果とを結びつける学習・演習を通して、現職教員及び学部新卒学生の素材研究能力や素材を教材に転化する能力、さらに教材開発技術を向上させる。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法
<p>・発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p> <p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科の受講及び試験に関する内規による。

文献・教材
<p>テキスト： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』 算数、数学関係の教科書、その他別途、授業で指定する。</p>

関連する授業科目
理数教育系の各科目

履修上の注意
関連文献についての予習や調査を自宅学習として課す。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日16:00から17:00</td> <td>火曜日16:00から17:00</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日16:00から17:00	火曜日16:00から17:00
【前期】	【後期】			
火曜日16:00から17:00	火曜日16:00から17:00			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/08 18:52:04

科目コード	M8710	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系内容開発基礎研究 IB (物理学)				
(英語名称)					
担当教員	秋山 博臣、下村 崇、中山 迅				
開講日	前期 火曜日 9・10時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> 理数教育系教科の理科に関する内容開発論と物理学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。 現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、小学校、中学校、高等学校における物理学に関する演習、素材研究、教材に転化する活動を行う。 開発した教材のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。

授業計画
<p>第1回 現職教員学生等の経験をもとに、理科における物理学関連の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議)(中山・秋山・下村)</p> <p>第2回 「理数教育系内容開発研究」で学習した理科の内容開発の分析視点及び方法を、素材の教材転化の観点から検討する。(演習)(中山・秋山・下村)</p> <p>第3回 理科の内容開発の分析視点及び方法を、素材の教材転化の観点から検討結果として、小学校、中学校、高等学校の共通点を確認し、相異点を明確にする。(演習・グループ討議)(中山・秋山・下村)</p> <p>第4回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する演習を行う。(事例研究)(秋山・下村)</p> <p>第5回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する素材研究を行う。(事例研究)(秋山・下村)</p> <p>第6回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(秋山・下村)</p> <p>第7回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する演習を行う。(事例研究)(秋山・下村)</p> <p>第8回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する素材研究を行う。(事例研究)(秋山・下村)</p> <p>第9回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(秋山・下村)</p> <p>第10回 高等学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する演習を行う。(事例研究)(秋山・下村)</p> <p>第11回 高等学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する素材研究を行う。(事例研究)(秋山・下村)</p> <p>第12回 高等学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、物理学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(秋山・下村)</p> <p>第13回 各グループが開発した教材をプレゼンテーションする。相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)(中山・下村・秋山)</p> <p>第14回 ひき続き、各グループが開発した教材をプレゼンテーションする。相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)(中山・下村・秋山)</p> <p>第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(中山・下村・秋山)</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、理数教育系教科(理科)に関する内容開発論と、物理学の方法や成果とを結びつける学習・演習を通して、現職教員及び学部新卒学生の素材研究能力や素材を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の向上させる。</p>

成績評価基準
<p>評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づく。</p>

文献・教材
<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 理科編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 理科編』</p>

関連する授業科目

履修上の注意
<p>自宅学習として、関連する内容についての教材研究、及び、学習指導要領解説での予習と復習を課す。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】 【後期】</p>

備考

参考URL
<p>新学習指導要領(本 http://www.mext.go.jp</p>

ファイル

更新日付
<p>2017/02/17 23:12:08</p>

科目コード	M8720	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系内容開発基礎研究 II A (幾何学)				
(英語名称)					
担当教員	添田 佳伸、未定				
開講日	後期 火曜日 7・8時限				

授業概要
<p>理数教育系教科の算数・数学科に関する教科論及び教材論と幾何学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数・数学科に関する教科論及び教材論の演習 幾何学に関する素材研究及び演習 現職教員とストレートマスターのグループに分かれて、幾何学に関する素材研究、教材に転化する作業、その結果のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。(グループ討議、事例研究、文献調査、発表活動)

授業計画
<p>(添田佳伸)</p> <p>第1回 算数・数学科に関する教科論(講義・演習)</p> <p>第2回 算数・数学科に関する教材論(講義・演習)</p> <p>第3回 幾何学に関する素材研究1(事例研究)</p> <p>第4回 幾何学に関する素材研究2(事例研究)</p> <p>第5回 幾何学に関する素材研究3(事例研究)</p> <p>第6回 幾何学に関する演習1(文献調査)</p> <p>第7回 幾何学に関する演習2(文献調査)</p> <p>第8回 幾何学に関する演習3(文献調査)</p> <p>第9回 幾何学に関する素材の教材転化1(ワークショップ)</p> <p>第10回 幾何学に関する素材の教材転化2(ワークショップ)</p> <p>第11回 幾何学に関する素材の教材転化3(ワークショップ)</p> <p>第12回 プレゼンテーション1(プレゼンテーション)</p> <p>第13回 プレゼンテーション2(プレゼンテーション)</p> <p>第14回 相互批評と評価1(グループ討議)</p> <p>第15回 相互批評と評価2(グループ討議)</p>

達成目標
<p>この授業科目は、ディプロマポリシーに掲げる「教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新入教員としての資質、また、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーとしての資質」を形成することを目標としている。具体的には、理数教育系教科(算数・数学科)に関する教科論及び教材論と、幾何学等の方法や成果とを結びつける学習・演習を通して、現職教員及びストレートマスターの素材研究能力や素材を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の向上を図ることが目標である。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
平常点及びプレゼンテーション(概ね40点)、発表資料(概ね30点)、レポート等(概ね30点)等を総合的に判断して評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
<p>小学校算数、中学校数学、高等学校数学に関する教科書</p> <p>文部科学省「小学校学習指導要領」</p> <p>文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」東洋館出版社</p> <p>文部科学省「中学校学習指導要領」</p> <p>文部科学省「中学校学習指導要領解説 数学編」実教出版</p> <p>文部科学省「高等学校学習指導要領」</p> <p>文部科学省「高等学校学習指導要領解説 数学編」ぎょうせい</p>

関連する授業科目

履修上の注意
<p>小学校・中学校及び高等学校の算数・数学に関する学習指導要領の中で、特に幾何領域(図形領域及び量と測定領域)に関する記述を精読しておくことを事前学習とする。</p> <p>また、開発した教材を授業レベルで実践できるように、具体化することを事後学習とする。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】 火曜日10:30-12:00</p> <p>【後期】 火曜日10:30-12:00</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/21 09:34:04

科目コード	M8730	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系内容開発基礎研究 II B (化学)				
(英語名称)					
担当教員	有井 秀和、中林 健一、野添 生				
開講日	後期 火曜日 9・10時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> 理数教育系教科の理科に関する内容開発論と化学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。 現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、小学校、中学校、高等学校における化学に関する演習、素材研究、教材に転化する活動を行う。 開発した教材のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。

授業計画
<p>第1回 現職教員学生等の経験をもとに、理科における化学関連の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議)</p> <p>第2回 「理数教育系内容開発研究」で学習した理科の内容開発の分析視点及び方法を、素材の教材転化の観点から検討する。(演習)</p> <p>第3回 理科の内容開発の分析視点及び方法を、素材の教材転化の観点から検討結果として、小学校、中学校、高等学校の共通点を確認し、相異点を明確にする。(演習・グループ討議)</p> <p>第4回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する演習を行う。(事例研究)</p> <p>第5回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する素材研究を行う。(事例研究)</p> <p>第6回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)</p> <p>第7回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する演習を行う。(事例研究)</p> <p>第8回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する素材研究を行う。(事例研究)</p> <p>第9回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)</p> <p>第10回 高等学校の化学に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する演習を行う。(事例研究)</p> <p>第11回 高等学校の化学に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する素材研究を行う。(事例研究)</p> <p>第12回 高等学校の化学に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、化学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)</p> <p>第13回 各グループが開発した教材をプレゼンテーションする。相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)</p> <p>第14回 ひき続き、各グループが開発した教材をプレゼンテーションする。相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)</p> <p>第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。</p>

達成目標
理数教育系教科(理科)に関する内容開発論と、化学の方法や成果とを結びつける学習・演習を通して、ディプロマポリシーに掲げる教員としての高難度の実践力・応用力を身に付け、現職教員及び学部新卒学生の素材研究能力や素材を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の向上させる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 この科目の授業は複数の教員による協働方式で行い、評価は担当教員の合議制により行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

文献・教材
文部省『小学校学習指導要領解説-理科編-』東洋館出版社 文部省『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説-理科編-』大日本図書 文部省『高等学校学習指導要領解説-理科編・理数編-』大日本図書

関連する授業科目

履修上の注意

オフィスアワー
【前期】 【後期】 中林 月曜日から金曜日の昼休み 有井 月曜日から金曜日の昼休み 野添 火曜日の昼休み

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/06 15:32:49

科目コード	M8740	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系内容開発基礎研究 IIIA (解析学・応用数学)				
(英語名称)					
担当教員	木根 主税、添田 佳伸、藤井 良宜、未定				
開講日	前期 金曜日 7・8時限				

授業概要
<p>理数教育系教科の算数・数学科に関する教科論及び教材論と解析学・応用数学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」で行う。(木根主税・添田佳伸・藤井良宜・未定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数・数学科に関する教科論及び教材論の演習 解析学・応用数学に関する素材研究及び演習 <p>現職教員とストレートマスターのグループに分かれて、解析学に関する素材研究、教材に転化する作業、その結果のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。(グループ討議、事例研究、文献調査、発表活動)</p> <p>そのため、本科目では受講生による発表が中心的な学習活動となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。</p>

授業計画
<p>第1回：算数・数学科に関する教科論(講義・演習)</p> <p>第2回：算数・数学科に関する教材論(講義・演習)</p> <p>第3回：解析学・応用数学に関する素材研究1(事例研究)</p> <p>第4回：解析学・応用数学に関する素材研究2(事例研究)</p> <p>第5回：解析学・応用数学に関する素材研究3(事例研究)</p> <p>第6回：解析学・応用数学に関する演習1(文献調査)</p> <p>第7回：解析学・応用数学に関する演習2(文献調査)</p> <p>第8回：解析学・応用数学に関する演習3(文献調査)</p> <p>第9回：解析学・応用数学に関する素材の教材転化1(ワークショップ)</p> <p>第10回：解析学・応用数学に関する素材の教材転化2(ワークショップ)</p> <p>第11回：解析学・応用数学に関する素材の教材転化3(ワークショップ)</p> <p>第12回：プレゼンテーション1(プレゼンテーション)</p> <p>第13回：プレゼンテーション2(プレゼンテーション)</p> <p>第14回：相互批評と評価1(グループ討議)</p> <p>第15回：相互批評と評価2(グループ討議)</p>

達成目標
<p>この科目は、ディプロマポリシーに掲げる「授業力」に関する能力を養うものである。具体的には、理数教育系教科(算数・数学科)に関する教科論及び教材論と、解析学・応用数学の方法や成果とを結びつける学習・演習を通して、現職教員及びストレートマスターの素材研究能力や素材を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の向上を図る。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法
平常点、レポート、プレゼンテーション等をもとに総合的に判断し、評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科授業科目の受講及び試験に関する内規による。

文献・教材
<p>テキスト： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』 算数、数学関係の教科書、その他別途、授業で指定する。</p>

関連する授業科目
理数教育系の各科目

履修上の注意
関連文献についての予習や調査を自宅学習として課す。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日16:00から17:00</td> <td>火曜日16:00から17:00</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日16:00から17:00	火曜日16:00から17:00
【前期】	【後期】			
火曜日16:00から17:00	火曜日16:00から17:00			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/21 09:36:51

科目コード	M8750	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	理数教育系内容開発基礎研究 III B (生物学・地学)				
(英語名称)					
担当教員	中山 迅、西田 伸、野添 生、八ツ橋 寛子、山北 聡				
開講日	後期 火曜日 7・8時限				

授業概要
<p>・理数教育系教科の理科に関する内容開発論と生物学・地学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。</p> <p>・現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、小学校、中学校、高等学校における生物学・地学に関する演習、素材研究、教材に転化する活動を行う。</p> <p>・開発した教材のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。</p> <p>これらの事柄に取り組むため、受講生は、各自で関連する内容についてあらかじめ参考図書で学習して授業に臨むことが求められる。また、設定したテーマについて教材化する学習では、授業時間以外における各自の取り組みも求められる。</p>
授業計画
<p>第1回 現職教員学生等の経験をもとに、理科における生物学・地学関連の「確かな学力形成」をめぐる現状の課題等を明確に把握する。(グループ討議)(中山・野添)</p> <p>第2回 「理数教育系内容開発研究」で学習した理科の内容開発の分析視点及び方法を、素材の教材転化の観点から検討する。(演習)(中山・野添)</p> <p>第3回 理科の内容開発の分析視点及び方法を、素材の教材転化の観点から検討結果として、小学校、中学校、高等学校の共通点を確認し、相異点を明確にする。(演習・グループ討議)(中山・野添)</p> <p>第4回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する演習を行う。(事例研究)(八ッ橋・山北)</p> <p>第5回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する素材研究を行う。(事例研究)(八ッ橋・山北)</p> <p>第6回 小学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(八ッ橋・山北)</p> <p>第7回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する演習を行う。(事例研究)(西田・山北)</p> <p>第8回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する素材研究を行う。(事例研究)(西田・山北)</p> <p>第9回 中学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(西田・山北)</p> <p>第10回 高等学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する演習を行う。(事例研究)(西田・八ッ橋)</p> <p>第11回 高等学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する素材研究を行う。(事例研究)(西田・八ッ橋)</p> <p>第12回 高等学校の理科に焦点を当て、現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、生物学・地学に関する素材の教材転化を行う。(ワークショップ)(西田・八ッ橋)</p> <p>第13回 各グループが開発した教材をプレゼンテーションする。相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)(中山・野添・八ッ橋・西田・山北)</p> <p>第14回 ひき続き、各グループが開発した教材をプレゼンテーションする。相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)(中山・野添・八ッ橋・西田・未定・山北)</p> <p>第15回 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(中山・野添・八ッ橋・西田・未定・山北)</p>

達成目標
<p>ディプロマポリシーに掲げる「授業力」や「課題研究」の基礎的な力を身につけることを目指す。具体的には、理数教育系教科(理科)に関する内容開発論と、生物学・地学の方法や成果とを結びつける学習・演習を通して、現職教員及び学部新卒学生の素材研究能力や素材を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の向上を図る。</p>

成績評価基準
<p>発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。</p>

成績評価方法
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

文献・教材
<p>教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編 平成20年8月』大日本図書 文部科学省『中学校学習指導要領解説 理科編 平成20年9月』大日本図書 文部省『高等学校学習指導要領解説 理科編・理数編』大日本図書</p> <p>参考書： 別途、授業で指定する。</p>

関連する授業科目
<p>理数教育系の各科目</p>

履修上の注意
<p>関連文献についての予習や調査を自宅学習として課す。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】 火曜日の昼休憩</p> <p>【後期】 火曜日の昼休憩</p>

備考
<p>分野によっては野外調査を含むことがある。</p>

参考URL
<p>新学習指導要領(本) http://www.mext.go.jp</p>

ファイル
<p></p>

更新日付
<p>2017/02/17 23:12:32</p>

科目コード	M8760	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系内容開発基礎研究 IA (人文地理学)				
(英語名称)					
担当教員	中村 周作、藤本 将人				
開講日	前期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<p>社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論と人文地理学・経済地理学の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。また、社会認識教育系教科の地理的分野・科目に関する教科論及び教材論と人文地理学・経済地理学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」(藤本、中村)で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する現状の分析。 社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論の演習 人文地理学・経済地理学担当教員による地理的分野・科目に関する素材研究及び演習 学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。 その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。

授業計画
<p>第1回：社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する現状の問題点を分析、把握及び解決の方向性の明確化を図る。(グループ討議)</p> <p>第2回：社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論を理解する(演習) (中村周作)</p> <p>第3回：社会認識教育系教科の経済地理学的課題(地域産業)の事例としての農業の現状と問題点の理解を図るとともに、その解決策を考察する(演習)</p> <p>第4回：社会認識教育系教科の経済地理学的課題(地域産業)の事例としての水産業の現状と問題点の理解を図るとともに、その解決策を考察する(演習)</p> <p>第5回：社会認識教育系教科の経済地理学的課題(地域産業)の事例としての観光業の現状と問題点の理解を図るとともに、その解決策を考察する(演習)</p> <p>第6回：社会認識教育系教科の文化地理学的課題の事例として食文化を取り上げ、その地理的分布の特徴と原因について考察、理解を図る(演習)</p> <p>第7回：社会認識教育系教科の文化地理学的課題の事例として地域的飲酒嗜好(文化)を取り上げ、その地理的分布の特徴と原因について考察、理解を図る(演習)</p> <p>第8回：社会認識教育系教科の文化地理学的課題の事例として地域的文化圏を取り上げ、その地理的分布の特徴と原因について考察、理解を図る(演習)</p> <p>第9回：社会認識教育系教科の人文地理学に関する理論上の課題(1.物産の地理学から人間の地理学へ、行動地理学序説)について考察、理解を図る(演習)</p> <p>第10回：社会認識教育系教科の人文地理学に関する理論上の課題(2.人間の地理学2.時間地理学)について考察、理解を図る(演習)</p> <p>第11回：第5回：社会認識教育系教科の人文地理学に関する理論上の課題(3.移動就業行動研究)について考察、理解を図る(演習) (中村周作・藤本将人)</p> <p>第12回：学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う</p> <p>第13回：引き続き素材研究をもとに教材に転化する作業を行う</p> <p>第14回：その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う</p>

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> 社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論と人文地理学・経済地理学の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。 地理的分野・領域における素材研究が地理学的な視点からできる。 地理的分野・領域における素材を教材に転化させることができ、教材開発の基礎的方法を理解することができる。 現職教員学生がメンターシップの能力をより高度なレベルで発揮することができる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<ol style="list-style-type: none"> 教材及び教材化過程の人文地理学・経済地理学的妥当性、及び、教科教育的有効性の観点を中心にして、発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 評価及び評点は、個人担当及び協働担当者の時間数に関係なく合議制で決定する。 成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
文献は授業のなかで適宜紹介する。

関連する授業科目

履修上の注意
本授業では毎回課題が課される。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>木曜日12時から13時まで</td> <td></td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	木曜日12時から13時まで	
【前期】	【後期】			
木曜日12時から13時まで				

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/01 16:07:04

科目コード	M8770	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系内容開発基礎研究ⅠB(自然地理学)				
(英語名称)					
担当教員	大平 明夫、藤本 将人				
開講日	後期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<p>社会認識教育系教科の地理的分野・科目に関する教科論及び教材論と地理学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」・「グループ別指導方式」(大平・藤本)で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する現状の分析 ・社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論の演習 ・地理学・自然地理学担当教員による地理的分野・科目に関する素材研究及び演習 ・学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。 ・その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。

授業計画
<p>第1回：社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する現状問題点を分析、把握及び解決の方向性の明確化を図る。(グループ討議)(大平・藤本)</p> <p>第2回：社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論を理解する。(演習)(大平)</p> <p>(第3回から第11回：社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する教科論について、自然地理学・地理情報科学の観点から、視覚的・客観的な地理情報(地形図、空中写真、アナグリフ、統計情報、地理情報システムなど)を教材とした地理的な見方・考え方や地理的技能の育成を中心に引き上げ、演習・実習を通して検討していく。)</p> <p>第3回：地理的な見方・考え方や地理的技能の育成を中心に引き上げ、演習・実習を通して検討していく。</p> <p>第4回：地理分野で使用される各種地図の活用能力をいかに育成するかについて検討する。(大平)</p> <p>第5回：身近な地域の地形図(国土地理院発行)を教材とした地域性の理解のための授業の方法について検討する。(大平)</p> <p>第6回：地形図の読図学習を効率的に行う方法について検討する。とくに、空中写真やアナグリフ画像などの視覚教材を地形図学習に導入する有効性や問題点について検討する。(大平)</p> <p>第7回：地域性理解のための読図技能の育成を目的とした授業案の作成を試みる。(大平)</p> <p>第8回：統計情報の活用能力をいかに育成するかについて検討する。(大平)</p> <p>第9回：学校教育向けの地理情報システム(GIS)ソフトの実習を行いながら、統計地図を地理授業に導入する有効性や問題点について検討する。(大平)</p> <p>第10回：授業に使える統計情報とその活用できる場面について、具体的な統計資料を使用した主題図作成を通して検討する。(大平)</p> <p>第11回：統計情報の活用能力の育成を目的とした授業案の作成を試みる。(大平)</p> <p>第12回：学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。(大平)</p> <p>第13回：引き続き素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。(大平)</p> <p>第14回：その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(大平・藤本)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(大平・藤本)</p>

達成目標
<p>この科目では、ディプロマポリシーに掲げる「教職としての高度の実践力・応用力」に関する以下の能力を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論と地理学・自然地理学の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。 ・地理的分野・領域における素材研究が自然地理学的・地理情報科学的な視点からできる。 ・地理的分野・領域における素材を教材に転化させることができ、教材開発の基礎的方法を理解することができる。 ・現職教員学生がメンターシップの能力をより高度なレベルで発揮することができる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・教材及び教材化過程の自然地理学的・地理情報科学的妥当性、及び、教科教育的有効性の観点を中心にして、発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・評価及び評点は、個人担当及び協働担当者の時間数に関係なく合議制で決定する。 ・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
<p>各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。</p> <p>参考書 村山祐司編『シリーズ人文地理学10 21世紀の地理 - 新しい地理教育』朝倉書店 後藤真太郎ほか著『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座』古今書院</p>

関連する授業科目

履修上の注意
この科目では、毎回、関連文献についての予習を課す。

オフィスアワー
<p>【前期】 木曜日16:30-17:30(大平)</p> <p>【後期】 木曜日15:00-16:00(大平)</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/13 18:30:59

科目コード	M8780	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系内容開発基礎研究 II A (経済学)				
(英語名称)					
担当教員	入谷 貴夫、金谷 義弘、吉村 功太郎				
開講日	前期 金曜日 9・10時限				

授業概要
<p>社会認識教育系教科の公的的分野・科目に関する教科論及び教材論と経済学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」・「グループ別指導方式」(吉村、入谷、金谷)で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会認識教育系教科の経済的分野・領域に関する現状の分析。 社会認識教育系教科の経済的分野・領域に関する教科論及び教材論の演習 経済学担当教員による公的的分野・科目(経済領域)に関する素材研究及び演習 学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。 その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。

授業計画
<p>第1回：社会認識教育系教科の経済的分野・領域に関する現状の問題点を分析、把握及び解決の方向性の明確化を図る。(グループ討議)(吉村功太郎)</p> <p>第2回：社会認識教育系教科の経済的分野・領域に関する教科論及び教材論を理解する(演習・グループ討議)(吉村功太郎)</p> <p>第3回：地域の「持続可能な発展 Sustainable Development」をめぐる現状と課題を考える。(講義・グループ討議)(入谷貴夫)</p> <p>第4回：宮崎県綾町の照葉樹林と産業観光による地域活性化の取組みを考える。(事例研究・演習)(入谷貴夫)</p> <p>第5回：宮崎県諸塚村の木材の川上・川中・川下が循環する地域活性化の取組みを考える。(事例研究・演習)(入谷貴夫)</p> <p>第6回：高知県梼原町の自然エネルギーによる地域活性化の取組みを考える。(事例研究・演習)(入谷貴夫)</p> <p>第7回：北海道帯広市の中小企業振興基本条例による地域活性化の取組みを考える。(事例研究・演習)(入谷貴夫)</p> <p>第8回：地域の社会事象と教材開発 その1 特定の事象への着眼と課題の設定(個別的にとらえる、普遍的にとらえる。科学的分析と教材化を区別する。)(演習)(金谷義弘)</p> <p>第9回：地域の社会事象と教材開発 その2 取材の申し入れと質問の体系化(取材申し入れ、質問と取材、見学と質疑応答、事後の質問による補正。)(演習)(金谷義弘)</p> <p>第10回：【事例研究】地元流通業とその競争* その1 清武、木花台の流通業とその再編を鳥瞰する。【課題は何か。】(金谷義弘)</p> <p>第11回：【事例研究】地元流通業とその競争 その2 調査の実施。(金谷義弘)</p> <p>第12回 地域事象に基づく教材開発とその展開・教材化と授業、児童・生徒による見学と取材、他の科目との連携(諸分野と時間軸)。(金谷義弘)</p> <p>第13回：学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。(作業学習)(吉村功太郎、入谷貴夫、金谷義弘)</p> <p>第14回：その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(プレゼンテーション)(吉村功太郎、入谷貴夫、金谷義弘)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(グループ討議)(吉村功太郎、入谷貴夫、金谷義弘)</p>

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> 社会認識教育系教科(社会科・公民科)の経済的分野・領域に関する教科論及び教材論と経済学・財政学の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。 経済的分野・領域における素材研究が経済学・財政学的な視点からできる。 経済的分野・領域における素材を教材に転化させることができ、教材開発の基礎的方法を理解することができる。 現職教員学生がメンターシップの能力をより高度なレベルで発揮することができる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ol style="list-style-type: none"> 教材及び教材化過程の経済学・財政学的妥当性、及び、教科教育の有効性の観点を中心にして、発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参画・貢献度、レポート等を総合して判断する。 評価及び評点は、個人担当及び協働担当者の時間数に関係なく合議制で決定する。 成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> 入谷貴夫『地域と雇用をつくる産業連関分析入門』(自治体研究社) 各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目

履修上の注意
*・・・事例研究は実施時点でより適切なものへ変更する場合がある。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>水曜日 12:10～12:50</td> <td>水曜日 12:10～12:50</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	水曜日 12:10～12:50	水曜日 12:10～12:50
【前期】	【後期】			
水曜日 12:10～12:50	水曜日 12:10～12:50			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/11 15:34:04

科目コード	M8790	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系内容開発基礎研究 II B (地域経済学)				
(英語名称)					
担当教員	根岸 裕孝、藤本 将人				
開講日	後期 木曜日 9・10時限				

授業概要
社会認識教育系教科の地理的分野・科目に関する教科論及び教材論と経済学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」・「グループ別指導方式」(根岸・藤本)で行う。

授業計画
<p>第1回：社会認識教育系教科(社会科・公民科)の経済的分野・領域に関する現状問題点を分析、把握及び解決の方向性の明確化を図る。(グループ討議)(藤本将人)</p> <p>第2回：社会認識教育系教科(社会科・公民科)の経済的分野・領域に関する教科論及び教材論を理解する。(演習)(藤本将人)</p> <p>(第3回から第11回：社会認識教育系教科(社会科・公民科)の経済的分野・領域に関する教材論について、経済学・地域経済学の観点から、統計資料・新聞雑誌情報・官庁作成白書や報告書・報道資料・官庁・経済関係機関・企業ヒアリングを教材とした経済的な見方・考え方を中心に取り上げ、演習・実習を通して検討していく。)</p> <p>第3回：経済学の見方・考え方とは何か、その能力の養成の方法について整理する。(根岸裕孝)</p> <p>第4回：経済学特に地域経済学分野で使用される各種統計・新聞・官庁白書・報告書の活用能力をいかに育成するかについて検討する。(根岸裕孝)</p> <p>第5回：経済に関する各種統計を用いた地域経済分析とそのための授業の方法について検討する。(根岸裕孝)</p> <p>第6回：行政機関や経済関係機関・企業を対象としたヒアリング調査の意義とその方法、ヒアリングのまとめ方について検討する。(根岸裕孝)</p> <p>第7回：地域経済の理解のための調査の準備を目的とした授業案の作成を試みる。(根岸裕孝)</p> <p>第8回：地域経済理解のための行政機関ヒアリング(企画・産業担当部局)を行い、ヒアリングの実施とまとめを検討検討する。(根岸裕孝)</p> <p>第9回：地域経済理解のための経済関係機関(JA・商会議所等)を行い、ヒアリングの実施とまとめ方について検討する。(根岸裕孝)</p> <p>第10回：地域経済理解のための企業ヒアリングを行い、ヒアリングの実施とまとめ方について検討する。(根岸裕孝)</p> <p>第11回：ヒアリングをふまえて地域経済の理解を深めることを目的とした授業案の作成の作成を試みる。(根岸裕孝)</p> <p>第12回：学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。(根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第13回：引き続き素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。(根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第14回：その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(根岸裕孝・藤本将人)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(根岸裕孝・藤本将人)</p>

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科(社会科・公民科)の経済的分野・領域に関する教科論及び教材論と経済学・地域経済学の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。 ・経済的分野・領域における素材研究が地域経済学的な視点からできる。 ・経済的分野・領域における素材を教材に転化させることができ、教材開発の基礎的方法を理解することができる。 ・現職教員学生がメンターシップの能力をより高度なレベルで発揮することができる。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
教材及び教材化過程の経済学的・地域経済学的妥当性、及び、教科教育の有効性の観点を中心にして、発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・評価及び評点は、個人担当及び協働担当者の時間数に関係なく合議制で決定する

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
授業のなかで適宜紹介する。

関連する授業科目

履修上の注意
本授業では毎回課題が出される。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>木曜日12時から13時まで</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】		木曜日12時から13時まで
【前期】	【後期】			
	木曜日12時から13時まで			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/01 16:16:06

科目コード	M8810	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系内容開発基礎研究 III B (倫理学)				
(英語名称)					
担当教員	柏葉 武秀、未定、吉村 功太郎				
開講日	後期 月曜日 7・8時限				

授業概要
社会認識教育系教科の公的的分野・科目に関する教科論及び教材論と哲学・倫理学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。

授業計画
以下の学習を協働方式・グループ別方式で行なう。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科の哲学・倫理学的領域に関する現状の分析。 ・社会認識教育系教科の哲学・倫理学的領域に関する教科論及び教材論の演習。 ・哲学・倫理学担当教員による公的的分野・科目に関する素材研究及び演習を行なう。過去のさまざまな道徳発想法について伊佐教が講義した上で受講者が討議を行ない理解を深めていく。「哲学・倫理学的領域の教育のためにはまず何よりも教師自身が哲学・倫理学を深く理解していることが必要である」ことを深く実感させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。 ・その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科(社会科・公民科)の哲学・倫理学的領域に関する教科論及び教材論と哲学・倫理学の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。 ・哲学・倫理学的領域における素材研究が社会的な視点からできる。 ・哲学・倫理学的領域における素材を教材に転化させることができ、教材開発の基礎的方法を理解することができる。 ・現職教員学生がメンターシップの能力をより高度なレベルで発揮することができる。

成績評価基準
成績評価基準は宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づく。

成績評価方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 教材及び教材化過程の哲学・倫理学的妥当性、及び、教科教育の有効性の観点を中心にして、発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 2 評価及び評点は、個人担当及び協働担当者の時間数に関係なく合議制で決定する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づく。

文献・教材
必要な資料は授業中に配布する。

関連する授業科目
社会認識教育系授業開発研究

履修上の注意
本授業は社会科、公民科の教育内容(哲学・倫理学)に関する知識理解を基盤とした社会科、公民科教員としての授業構成力・実践力という能力の育成を主眼としている。授業中の作業課題や次の時間へ向けての予習課題なども随時課すので、授業時間以外にも適切な学習時間を確保すること。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>水曜日の昼休み</td> <td>水曜日の昼休み</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	水曜日の昼休み	水曜日の昼休み
【前期】	【後期】			
水曜日の昼休み	水曜日の昼休み			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/04 11:55:38

科目コード	M8820	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	芸術教育系内容開発基礎研究ⅠA(声楽)				
(英語名称)					
担当教員	菅 裕、藤本 いく代、未定				
開講日	前期 木曜日 9・10時限				

授業概要
<p>・芸術教育系教科である音楽科の、特に声楽・合唱に関する作品研究及び演習を通して、高度な作品研究能力や作品を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。</p> <p>・作品を教材に転化する作業を行うとともに、その結果を基にプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(グループ討議、作品研究、発表活動)</p>

授業計画
<p>第1回：教材開発をめぐる現状の課題(菅・藤本：演習)</p> <p>第2回：芸術作品(独唱：歌曲)の研究及び演習1(藤本：演習)</p> <p>第3回：芸術作品(独唱：オペラ)の研究及び演習2(藤本：演習)</p> <p>第4回：芸術作品(重唱曲)の研究及び演習3(藤本：演習)</p> <p>第5回：芸術作品(日本の合唱曲)の研究及び演習4(藤本：演習)</p> <p>第6回：芸術作品(世界の合唱曲)の研究及び演習5(藤本：演習)</p> <p>第7回：教材化(独唱：歌曲)及びプレゼンテーション1(菅・藤本：プレゼンテーション)</p> <p>第8回：教材化(独唱：オペラ)及びプレゼンテーション2(菅・藤本：プレゼンテーション)</p> <p>第9回：教材化(重唱曲)及びプレゼンテーション3(菅・藤本：プレゼンテーション)</p> <p>第10回：教材化(合唱曲)及びプレゼンテーション4(菅・藤本：プレゼンテーション)</p> <p>第11回：教材(独唱：歌曲)の分析と評価1(菅・藤本：グループ討議)</p> <p>第12回：教材(独唱：オペラ)の分析と評価2(菅・藤本：グループ討議)</p> <p>第13回：教材(重唱)の分析と評価3(菅・藤本：グループ討議)</p> <p>第14回：教材(合唱)の分析と評価4(菅・藤本：グループ討議)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(菅・藤本：演習)</p>

達成目標
<p>芸術教育系教科(音楽科)に関する教科論及び教材論と、声楽実技とを結びつける学習・演習を通して、現職教員及び学部新卒者の作品研究能力や作品を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の向上を図る。</p> <p>これらの演習を通して、論理的思考力や課題解決能力を養い、ディプロマポリシーに掲げる、教師に必要な専門的知識と技能の習得を目指す。</p>

成績評価基準
<p>宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績評価方法
<p>この科目の授業の評価については、以下の観点・方法により行う。</p> <p>実習や演習等に主体的、積極的に参加し、設定された目標の到達に向けて努力している、実習、演習、課題発表の内容等が設定された目標に到達している等、実習や演習における主体性や積極性、内容に対する理解や工夫等を総合的に判断し評価する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>宮崎大学大学院教育学研究科規程に基づき行う。</p>

文献・教材
<p>各時間に、適宜紹介する。</p>

関連する授業科目
<p>「芸術教育系内容開発基礎研究ⅠⅠA」</p>

履修上の注意
<p>毎回、予習・復習を義務づける。</p>

オフィスアワー
<p>【前期】 12:00-13:00</p> <p>【後期】 12:00-13:00</p>

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/13 15:37:12

科目コード	M8830	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	芸術教育系内容開発基礎研究 IB (美術・平面表現)				
(英語名称)					
担当教員	石川 千佳子、大泉 佳広、幸 秀樹				
開講日	前期 木曜日 9・10時限				

授業概要
芸術教育科の美術科に関する教科論及び教材論と、平面表現とを結びつける学習・演習を通して、高度な作品研究能力や作品を教材に転嫁する能力、さらに教材開発技術の習得をねらいとする。授業は「協働方式」による演習形式で行う。なお一連の演習の中では各自の予習・復習を義務づける。

授業計画
1: 芸術教育系各教科・科目における教材開発をめぐる課題の把握(石川・大泉・幸) 2: 芸術科における教科・教材論(石川・大泉・幸) 3: 油彩画作品の研究及び演習(1)(石川・大泉・幸) 4: " (2)(石川・大泉・幸) 5: 版画作品の研究及び演習(1)(石川・大泉・幸) 6: " (2)(石川・大泉・幸) 7: 映像メディア作品の研究及び演習(石川・大泉・幸) 8: 油彩画作品の教材化及びプレゼンテーション(石川・大泉・幸) 9: 版画作品の教材化及びプレゼンテーション(石川・大泉・幸) 10: 映像メディア作品の教材化及びプレゼンテーション(石川・大泉・幸) 11: 教材の分析と評価(1・油彩画)(石川・大泉・幸) 12: 教材の分析と評価(2・版画)(石川・大泉・幸) 13: 教材の分析と評価(3・映像メディア)(石川・大泉・幸) 14: 学習の成果、課題等に関する討議(石川・大泉・幸) 15: 学習全体のまとめ(石川・大泉・幸)

達成目標
芸術教育科の美術科に関する教科論及び教材論と、平面表現とを結びつける学習・演習を通して、高度な作品研究能力や作品を教材に転嫁する能力、さらに教材開発技術の向上を図る。この科目は授業力、課題研究の能力を養う。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規定第14条に基づく。

成績評価方法
演習・課題発表・討議の態度や内容、まとめのレポート等を総合的に評価する。評価は合議制で行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規定第14条に基づく。

文献・教材
授業時に指示または配布。

関連する授業科目

履修上の注意
各時間ごとに予習・復習を義務づける。

オフィスアワー
【前期】 【後期】 火曜日 16:30~17:30(石川) 火曜日 16:30~17:30(石川) 火曜日 12:10~13:00(幸) 火曜日 12:10~13:00(幸) 大泉) 大泉)

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/13 17:12:42

科目コード	M8840	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	芸術教育系内容開発基礎研究ⅡA(器楽・合奏)				
(英語名称)					
担当教員	葛西 寛俊、阪本 幹子、菅 裕				
開講日	後期 金曜日 9・10時限				

授業概要
器楽・合奏に関する基礎的知識を習得し、児童・生徒の発達段階に応じた適切な指導計画を作成する能力を修得する。

授業計画
第1回：オリエンテーション 第2回：器楽教育の理論と現代的課題 第3回：器楽教育の内容と方法 第4回：優れた器楽指導実践の分析：小学校 第5回：優れた器楽指導実践の分析：中学校 第6回：優れた器楽指導実践の分析：個人レッスン 第7回：優れた器楽指導実践の分析：アンサンブル 第8回：教科書教材による模擬指導プランの開発：目標の設定 第9回：教科書教材による模擬指導プランの開発：指導方法の工夫 第10回：教科書教材による模擬指導 第11回：模擬指導の振り返りと課題の抽出 第12回：模擬指導プランの改善：教材の検討 第13回：模擬指導プランの改善：指導方法の検討 第14回：改善プランに模擬指導 第15回：まとめ

達成目標
器楽・合奏の目標・指導内容・指導方法について理解するとともに、実践から課題を発見して解決する授業改善能力を獲得する。

成績評価基準
宮崎大学教育文化学部専門科目の受講及び試験に関する内規による。

成績評価方法
プレゼンテーションや模擬授業の内容により評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学教育文化学部専門科目の受講及び試験に関する内規による。

文献・教材

関連する授業科目

履修上の注意
この授業では、器楽・合奏に関する教材開発の準備となる予習課題、および相互批評に基づく事後レポートを課す。

オフィスアワー	
【前期】 木曜日14:50-16:20(菅)	【後期】 木曜日14:50-16:20(菅)

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/02 10:23:38

科目コード	M8850	配当年次		単位数	2
授業科目	芸術教育系内容開発基礎研究 II B (美術・立体表現)				
(英語名称)					
担当教員	大野 匠、幸 秀樹				
開講日	後期 木曜日 7・8時限				

授業概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術教育系教科(美術科・立体表現)に関する教材開発と授業分析の演習 ・ 現職教員と学部新卒者グループに分かれて、代表的な実践例の分析を行う。 ・ 分析結果のプレゼンテーションと相互批評を通して、優れた授業の要因を解明する。 ・ それぞれが過去に作成した(または既成の)学習指導案の改善を行い、それに基づき模擬授業を行う。 ・ なお一連の演習の中では各自の予習・復習を義務づける。

授業計画
<p>第1回: 受講学生のこれまでの授業実施経験を踏まえ、現在の芸術教育系教科(美術科・立体表現)の授業の問題点や課題を探り、明らかにする。(幸・演習・グループ討議)</p> <p>第2回: 芸術教育系教科(美術科・立体表現)に関する現在到達している授業構成の視点や方法論を理解する。(幸・大野:講義・演習)</p> <p>第3回: 芸術教育系教科(美術科・立体表現)に関する現在到達している授業構成論の視点や方法論を、具体例に即して習得する。(幸・大野:事例研究)</p> <p>第4回: 芸術教育系教科(美術科・立体表現)に関する現在到達している授業分析の視点や方法論を理解する。(幸・大野:講義・演習)</p> <p>第5回: 芸術教育系教科(美術科・立体表現)に関する現在到達している授業分析の視点や方法論を、具体例に即して習得する。(幸・大野:事例研究)</p> <p>第6回: 現職教員学生と学部新卒学生がグループを作り、優れた授業として評価を受けている芸術教育系教科の授業事例(美術科・立体表現領域)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。(幸・大野:事例研究)</p> <p>第7回: 優れた授業として評価を受けている芸術教育系教科の授業事例(美術科・立体表現領域)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。(幸・大野:事例研究)</p> <p>第8回: 優れた授業として評価を受けている芸術教育系教科の授業事例(美術科・立体表現領域)を取り上げて、授業分析論の観点から、評価される要因の分析を行う。(幸・大野:事例研究)</p> <p>第9回: 各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(幸・大野:プレゼンテーション)</p> <p>第10回: 各グループの分析結果をプレゼンテーションする。相互批評を行う。(幸・大野:プレゼンテーション)</p> <p>第11回: 発表をもとに、優れた授業の構成の要因を明らかにする。(幸・大野:グループ討議)</p> <p>第12回: 受講者がこれまでに作成した学習指導案の改善を行う。(幸・大野:ワークショップ)</p> <p>第13回: 改善前と改善後の学習指導案の発表を行う。(幸・大野:発表活動)</p> <p>第14回: 改善後の学習指導案による模擬授業を行い、相互に批評、評価する。(幸・大野:模擬授業)</p> <p>第15回: 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(幸:演習)</p>

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科(美術科・立体表現)に関する教材開発と授業分析の演習を通して、芸術教育系教科教育には様々な教材開発と授業分析の可能性が存在することを認識することができる。 ・ それを手掛かりとして、芸術教育系教科における優れた授業の要因を把握することができるとともに、自らが作成した学習指導案の改善及び模擬授業を具体的にを行うことができる。 ・ この科目は、授業力、課題研究の能力を養う。

成績評価基準
成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する。 ・ この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により評価を行う。 ・ 成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

文献・教材
文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版ほか、適宜示す。

関連する授業科目

履修上の注意
各時間ごとに予習・復習を義務づける。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火曜日12:10-13:00</td> <td>火曜日12:10-13:00</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火曜日12:10-13:00	火曜日12:10-13:00
【前期】	【後期】			
火曜日12:10-13:00	火曜日12:10-13:00			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/13 17:13:22

科目コード	M8870	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	芸術教育系内容開発基礎研究 III B (造形鑑賞)				
(英語名称)					
担当教員	石川 千佳子、幸 秀樹				
開講日	後期 月曜日 9・10時限				

授業概要
芸術教育科の美術科に関する教科論及び教材論と、造形鑑賞とを結びつける学習・演習を通して、高度な作品研究能力や作品を教材に転嫁する能力、さらに教材開発技術の習得をねらいとする。授業は「協働方式」による演習形式で行う。なお一連の演習の中では各自の予習・復習を義務づける。

授業計画
1: 芸術教育系各教科・科目における教材開発をめぐる課題の把握 2: 芸術科における教科・教材論 3: 芸術作品の研究及び演習 (先史/古代) 4: 芸術作品の研究及び演習 (中世/ルネサンス) 5: 芸術作品の研究及び演習 (近世/近代) 6: 芸術作品の研究及び演習 (現代) 7: 芸術作品の研究及び演習 (メディアアート) 8: 教材化及びプレゼンテーション (先史/古代) 9: 教材化及びプレゼンテーション (中世/ルネサンス) 10: 教材化及びプレゼンテーション (近世/近代) 11: 教材化及びプレゼンテーション (現代/メディアアート) 12: 教材の分析と評価 (先史-中世) 13: 教材の分析と評価 (ルネッサンス~近代) 14: 教材の分析と評価 (現代/メディアアート) 15: 学習全体のまとめ

達成目標
芸術教育科の美術科に関する教科論及び教材論と、造形鑑賞とを結びつける学習・演習を通して、高度な作品研究能力や作品を教材に転嫁する能力、さらに教材開発技術の向上を図る。この科目は授業力、課題研究の能力を養う。

成績評価基準

宮崎大学大学院教育学研究科規定第14条に基づく。

成績評価方法

演習・課題発表・討議の態度や内容、まとめのレポート等を総合的に評価する。評価は合議制で行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について

宮崎大学大学院教育学研究科規定第14条に基づく。

文献・教材

授業時に指示または配布。

関連する授業科目

履修上の注意

各時間ごとに予習・復習を義務づける。

オフィスアワー

【前期】 火曜日 16:30~17:30 (石川) , 12:10 - 12:50 (幸)	【後期】 火曜日 16:30~17:30 (石川) , 12:10 - 12:50 (幸)
---	---

備考

参考URL

ファイル

更新日付

科目コード	M8880	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠA(身体能力形成)				
(英語名称)					
担当教員	高橋 るみ子、松永 智、三輪 佳見				
開講日	前期 金曜日 9・10時限				

授業概要
<p>スポーツ・生活科学教育系教科の体育分野に関して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力の向上をねらいとし、以下の学習を「協働方式」で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育分野、特に自己のからだの動きそのものを中核的内容とする運動領域等に関する素材研究 ・現職教員と学部新卒者のグループに分かれて、体育分野・科目に関する素材研究、教材に転化する作業、その結果のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。

授業計画
<p>第1回： 自己のからだの動きそのものを中核的内容とする領域に関する現状の問題点を分析、把握及び解決の方向性の明確化を図る。(グループ討議)(三輪)</p> <p>第2回： 自己のからだの動きそのものを中核的内容とする領域に関する運動構造の体系及び教材開発の基礎理論を理解する。(講義)(三輪)</p> <p>第3回： 器械運動の指導体系を理解し、問題点の解決策を考察する。(演習)(三輪)</p> <p>第4回： 器械運動(マット運動)の教材開発を行う。(実習)(三輪)</p> <p>第5回： 器械運動(跳び箱運動及び技の組み合わせ)の教材開発を行う。(実習)(三輪)</p> <p>第6回： 器械運動の教材についてプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(グループ討議)(三輪)</p> <p>第7回： ダンスの指導体系を理解し、問題点の解決策を考察する。(演習)(高橋)</p> <p>第8回： ダンス(創作ダンス)の教材開発を行う。(実習)(高橋)</p> <p>第9回： ダンス(リズムダンス)の教材開発を行う。(実習)(高橋)</p> <p>第10回： ダンスの教材についてプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(グループ討議)(三輪・高橋)</p> <p>第11回： 体づくり運動の指導体系を理解し、問題点の解決策を考察する。(演習)(松永)</p> <p>第12回： 体づくり運動(体ほぐしの運動)の教材開発を行う。(実習)(松永)</p> <p>第13回： 体づくり運動(体力を高める運動)の教材開発を行う。(実習)(松永)</p> <p>第14回： 体づくり運動の教材についてプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(グループ討議)(松永・三輪)</p> <p>第15回： 学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(松永・高橋・三輪)</p>
達成目標
<p>スポーツ・生活科学教育系教科の体育分野に関して、教科論及び教材論と、スポーツ科学等の方法や成果とを結びつける学習を通して、素材研究能力や素材を教材に転化する能力を向上させ、教材開発の方法を習得することができる。</p> <p>この科目は、デュプロマポリシーに掲げる授業力および課題研究能力を養う。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式を含む授業として行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・ディスカッション等への参加状況、課題レポートの記述内容等に基づき、総合的に評価する。 ・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目

履修上の注意
毎回の授業内容をまとめておくこと。また、それに基づいて、各運動領域ごとにプレゼンテーションを課します。

オフィスアワー								
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火10:30~11:30(三輪)</td> <td>木13:30~14:30(三輪)</td> </tr> <tr> <td>火昼休み(高橋)</td> <td>火昼休み(高橋)</td> </tr> <tr> <td>木16:40~18:10(松永)</td> <td>木16:40~18:10(松永)</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火10:30~11:30(三輪)	木13:30~14:30(三輪)	火昼休み(高橋)	火昼休み(高橋)	木16:40~18:10(松永)	木16:40~18:10(松永)
【前期】	【後期】							
火10:30~11:30(三輪)	木13:30~14:30(三輪)							
火昼休み(高橋)	火昼休み(高橋)							
木16:40~18:10(松永)	木16:40~18:10(松永)							

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/22 14:23:25

科目コード	M8890	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠB(食物・保育)				
(英語名称)					
担当教員	伊波 富久美、篠原 久枝				
開講日	前期 木曜日 9・10時限				

授業概要
<p>現職教員と学部新卒者がペアを組み、食物及び保育分野の中から特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。(グループ討議)</p> <p>素材から教材へ転化する手掛かりとなる教科専門教員による食物及び保育分野に関する素材研究及び演習。(事例研究・実験・演習活動)</p> <p>選択した単元の素材-教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(発表活動)</p> <p>・上記の活動を円滑に実施するために、毎回、関連文献の予習を課す。</p>

授業計画
<p>第1回：授業の全体計画と日程(グループ討議)(篠原、伊波)</p> <p>第2回：現職教員と学部新卒者がペアを組み、食物分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う1(グループ討議)(篠原)</p> <p>第3回：現職教員と学部新卒者がペアを組み、食物分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う2(グループ討議)(篠原)</p> <p>第4回：食物分野に関する事例研究・実験・演習活動1(実験・演習)(篠原)</p> <p>第5回：食物分野に関する事例研究・実験・演習活動2(実験・演習)(篠原)</p> <p>第6回：選択した単元のプレゼンテーションを行う1(発表活動)(篠原)</p> <p>第7回：選択した単元のプレゼンテーションを行う2(発表活動)(篠原)</p> <p>第8回：食物分野の選択した単元の相互批評と評価(グループ討議)(篠原、伊波)</p> <p>第9回：現職教員と学部新卒者がペアを組み、保育分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う1(グループ討議)(篠原)</p> <p>第10回：現職教員と学部新卒者がペアを組み、保育分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う2(グループ討議)(篠原)</p> <p>第11回：保育分野に関する事例研究1(演習)(篠原)</p> <p>第12回：保育分野に関する事例研究2(演習)(篠原)</p> <p>第13回：選択した単元のプレゼンテーションを行う1(発表活動)(篠原)</p> <p>第14回：選択した単元のプレゼンテーションを行う2(発表活動)(篠原)</p> <p>第15回：保育分野の選択した単元の相互批評と評価(グループ討議)(篠原、伊波)</p>

達成目標
<p>授業構成・単元構成の観点から、食物及び保育分野・科目に関する素材研究を中心に、素材研究能力・素材を教材に転化する能力・教材開発技術の質的向上を図る。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式を含む授業として行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>出席回数のほか、調査研究・報告内容・プレゼンテーション、レポートなどを総合して行う。</p> <p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
小・中・高校の家庭科関係学習指導要領・解説および家庭科教科書など

関連する授業科目

履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> 各単元終了後に、ミニレポートを課す。 事前・事後における関連文献についての予習および復習を課す。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>木曜日12:00-13:00</td> <td>木曜日12:00-13:00</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	木曜日12:00-13:00	木曜日12:00-13:00
【前期】	【後期】			
木曜日12:00-13:00	木曜日12:00-13:00			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/03 15:51:51

科目コード	M8900	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究 IC (技術)				
(英語名称)					
担当教員	藤元 嘉安、湯地 敏史				
開講日	前期 月曜日 9・10時限				

授業概要
<p>スポーツ・生活科学教育系教科(技術科)における技術分野「材料と加工に関する技術」及び「エネルギー変換に関する技術」について教科論及び教材論の講義・演習を行い、技術分野「材料と加工に関する技術」及び「エネルギー変換に関する技術」について素材研究を行う。</p> <p>現職教員とストレートマスターのグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行うとともに、その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。</p>

授業計画
<p>第1回: 「材料と加工に関する技術」授業での教材開発事例の発表(グループ討論)【藤元】</p> <p>第2回: 学習指導要領「材料と加工に関する技術」の内容及びその取り扱い(項目1)(講義)【藤元】</p> <p>第3回: 学習指導要領「材料と加工に関する技術」の内容及びその取り扱い(項目2)(講義)【藤元】</p> <p>第4回: 学習指導要領「エネルギー変換に関する技術」の内容及びその取り扱い(項目1)(講義)【湯地】</p> <p>第5回: 学習指導要領「エネルギー変換に関する技術」の内容及びその取り扱い(項目2)(講義)【湯地】</p> <p>第6回: 「材料と加工に関する技術」における教材開発の観点と視点(講義)【藤元】</p> <p>第7回: 「エネルギー変換に関する技術」における教材開発の観点と視点(講義)【湯地】</p> <p>第8回: 「材料と加工に関する技術」における教材の検討(項目1)(演習)【藤元】</p> <p>第9回: 前回検討した教材に関する相互批評と評価(グループ討論)【藤元】</p> <p>第10回: 「材料と加工に関する技術」における教材の検討(項目2)(演習)【藤元】</p> <p>第11回: 前回検討した教材に関する相互批評と評価(グループ討論)【藤元】</p> <p>第12回: 「エネルギー変換に関する技術」における教材の検討(項目3)(演習)【湯地】</p> <p>第13回: 前回検討した教材に関する相互批評と評価(グループ討論)【湯地】</p> <p>第14回: 「エネルギー変換に関する技術」における教材の検討(項目4)(演習)【湯地】</p> <p>第15回: 前回検討した教材に関する相互批評と評価(グループ討論)【湯地】</p>

達成目標
<p>スポーツ・生活科学教育系教科(技術科)における技術分野「材料と加工に関する技術」及び「エネルギー変換に関する技術」に関する教材論と、工学の方法や成果とを結びつける学習・演習を通して、現職教員及びストレートマスターの素材研究能力や素材を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の向上を図ることができる。</p> <p>なお、この科目では、ディプロマポリシーに掲げる「授業力」及び「課題研究」に関する能力を養う。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
教材開発にむけた素材研究内容と教材プランのプレゼンテーション結果の総合評価とする。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材
<p>技術・家庭科教科書(開隆堂,東京書籍), 中学校学習指導要領 技術・家庭編, 高等学校学習指導要領解説-工業編, その他配布資料</p>

関連する授業科目
なし

履修上の注意
事前・事後における関連文献についての予習および復習を課す。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>月曜日11-12時</td> <td>月曜日11-12時</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	月曜日11-12時	月曜日11-12時
【前期】	【後期】			
月曜日11-12時	月曜日11-12時			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/08 14:29:06

科目コード	M8910	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究 IIA (競争ｽﾎﾟｰﾂ)				
(英語名称)					
担当教員	日高 正博、未定、三輪 佳見				
開講日	後期 木曜日 3・4時限				

授業概要
<p>スポーツ・生活科学教育系教科の体育分野に関して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力の向上をねらいとし、以下の学習を「協働方式」で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育分野、特に他者との競争を中核的内容とする運動領域に関する素材研究 ・現職教員と学部新卒者のグループに分かれて、体育分野・科目に関する素材研究 <p>教材に転化する作業、その結果のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。</p>

授業計画
<p>第1回：競争スポーツを中核的内容とする領域に関する現状の問題点を分析、把握及び解決の方向性の明確化を図る。(グループ討議)(三輪)</p> <p>第2回：競争スポーツを中核的内容とする領域に関する運動構造の体系及び教材開発の基礎理論を理解する。(演習)(三輪)</p> <p>第3回：陸上競技の指導体系を理解し、問題点の解決策を考察する。(演習)(未定)</p> <p>第4回：陸上競技(走運動)の教材開発を行う。(実習)(未定)</p> <p>第5回：陸上競技(跳運動)の教材開発を行う。(実習)(未定)</p> <p>第6回：陸上競技の教材についてプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(グループ討議)(日高・未定)</p> <p>第7回：ボール運動の指導体系を理解し、問題点の解決策を考察する。(演習)(日高)</p> <p>第8回：ボール運動(ネット型)の素材・教材研究を行う。(演習)(日高)</p> <p>第9回：ボール運動(ゴール型)の素材・教材研究を行う。(演習)(日高)</p> <p>第10回：ボール運動(ベースボール型)の素材・教材研究を行う。(演習)(日高)</p> <p>第11回：ボール運動の教材開発を行い、理論的に検討する。(演習)(日高)</p> <p>第12回：ボール運動の教材開発を行い、実践的に検討する。(演習)(日高)</p> <p>第13回：開発したボール運動の教材について、その有効性の根拠を考察し整理する。(演習)(日高)</p> <p>第14回：ボール運動の教材についてプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(グループ討議)(日高・三輪)</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。(三輪)</p>

達成目標
<p>スポーツ・生活科学教育系教科(保健体育科・家庭科・技術科)に関する教科論及び教材論と、スポーツ科学や生活諸科学等の方法や成果とを結びつける学習を通して、素材研究能力や素材を教材に転化する能力を向上させ、教材開発の方法を習得することができる。</p> <p>この科目は、デュプロマポリシーに掲げる授業力および課題研究能力を養う。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の授業は、複数の教員による協働方式を含む授業として行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。 ・ディスカッション等への参加状況、課題レポートの記述内容等に基づき、総合的に評価する。 ・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
各時間に必要な資料は、配布または準備を指示する。

関連する授業科目

履修上の注意
毎回の授業内容をまとめておくこと。また、それに基づいて、各運動領域ごとにプレゼンテーションを課します。

オフィスアワー						
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>火10:30～11:30(三輪)</td> <td>木13:30～14:30(三輪)</td> </tr> <tr> <td>木10:30～12:00(日高)</td> <td>金10:30～12:00(日高)</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	火10:30～11:30(三輪)	木13:30～14:30(三輪)	木10:30～12:00(日高)	金10:30～12:00(日高)
【前期】	【後期】					
火10:30～11:30(三輪)	木13:30～14:30(三輪)					
木10:30～12:00(日高)	金10:30～12:00(日高)					

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/02/22 14:25:20

科目コード	M8930	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究 IIC (栽培)				
(英語名称)					
担当教員	佐野 順一				
開講日	後期 月曜日 9・10時限				

授業概要
<p>現職教員とストリートマスターがペアを組み、技術分野（栽培）から研究IICと関連付けた特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。素材から教材へと転化する手がかりとなる技術分野（栽培）に関する素材研究および選択した単元の素材・教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。</p>

授業計画
<p>第1回:栽培植物と農業の起原 --エネルギー大量消費社会の起原と人口および食糧問題 第2回:前回の講義および素材研究をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 第3回:栽培植物の種類と分類 --農学的分類 第4回:前回の講義および素材研究をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 第5回:栽培植物の種類と分類 --植物学的分類 第6回:前回の講義および素材研究をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 第7回:栽培植物の遺伝資源の保全と遺伝的改良 第8回:前回の講義および素材研究をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 第9回:栽培のための土壌、肥料、および気候 第10回:前回の講義および素材研究をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 第11回:栽培植物の生長と分化 --栄養生長 第12回:前回の講義および素材研究をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 第13回:栽培植物の生長と分化 --生殖生長 第14回:前回の講義および素材研究をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 第15回:まとめ 定期試験</p>

達成目標
<p>技術科の単元構成の観点から、教科専門教員による技術分野・栽培に関する素材研究及び演習の成果を生かすとともに、現職教員やストリートマスターの素材研究能力・素材を教材に転化する能力・教材開発技術の質的向上を図る。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

成績評価方法
授業に対する取り組み状況, レポート, 定期試験を総合して評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による。

文献・教材

関連する授業科目
栽培学概論（学部）

履修上の注意

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>月曜12:00-12:50</td> <td>月曜12:00-12:50</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	月曜12:00-12:50	月曜12:00-12:50
【前期】	【後期】			
月曜12:00-12:50	月曜12:00-12:50			

備考

参考URL

ファイル

更新日付

科目コード	M8940	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究 IIIA (保健)				
(英語名称)					
担当教員	福田 潤				
開講日	前期 金曜日 5・6時限				

授業概要
<p>体育・スポーツ活動における保健管理や保健指導に関する知見を深め、今後のあり方について考察する。授業は、文献と資料の輪読と討論によって進める。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般のスポーツ活動における事故・災害の実態・要因・発生機序 2. 体育・スポーツ活動における事故・災害 (実態・要因・発生機序) 3. 体育・スポーツ活動における事故・災害 (対策) 4. 体育・スポーツ活動の保健管理 (疾病異常について) 5. 体育・スポーツ活動の保健管理 (疾病異常について) 6. 体育・スポーツ活動の保健管理 (スクリーニングについて) 7. 体育・スポーツ活動の保健管理 (スクリーニングについて) 8. 体育・スポーツ活動の保健管理 (上肢外傷について) 9. 体育・スポーツ活動の保健管理 (上肢外傷について) 10. 体育・スポーツ活動の保健管理 (下肢外傷について) 11. 体育・スポーツ活動の保健管理 (下肢外傷について) 12. 体育・スポーツ活動の保健管理 (頭部外傷について) 13. 体育・スポーツ活動の保健管理 (頭部外傷について) 14. 体育・スポーツ活動の保健管理 (感染症について) 15. 体育・スポーツ活動の保健管理 (感染症について)

達成目標
<p>1) 体育・スポーツ活動の保健管理について、科学的根拠をもって論考する。</p>

成績評価基準
<p>所定の時間数の75%以上出席しなければ受験資格は得られない。出席不足の場合は改めて受講しなければならない。授業開始から20分までの入室は遅刻扱いとする。遅刻3回は欠席1回に相当する。</p>

成績評価方法
<p>レポートによる評価が80%、参加態度の評価を20%として算定する。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
<p>宮崎大学教育文化学部専門科目の受講および試験に関する内規に準じるものとします。</p>

文献・教材
<p>適宜配布する。</p>

関連する授業科目
<p>学校保健学 衛生公衆衛生学</p>

履修上の注意
<p>ガイダンス時に示した授業内禁止活動を行ったものは欠席扱いとする。特別な事由による止むを得ない欠席については、大学所定の書面を併せて申し出ることが必要になる。配布資料の翻訳および理解は予習の一部とする。</p>

オフィスアワー		
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;">【前期】 月曜3,4</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">【後期】 月曜3,4</td> </tr> </table>	【前期】 月曜3,4	【後期】 月曜3,4
【前期】 月曜3,4	【後期】 月曜3,4	

備考
<p></p>

参考URL						
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; height: 20px;"></td> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; height: 20px;"></td> <td style="width: 33%; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; height: 20px;"></td> <td style="border-right: 1px dashed black; height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table>						

ファイル
<p></p>

更新日付
<p>2017/03/21 11:40:43</p>

科目コード	M8950	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究 III B (住居)				
(英語名称)					
担当教員	未定、米村 敦子				
開講日	後期 木曜日 7・8時限				

授業概要
<p>現職教員と学部新卒者がペアを組み、住居分野の中から特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。(グループ討議)</p> <p>素材から教材へ転化する手掛かりとなる教科専門教員による住居分野に関する素材研究及び演習。(事例研究・実験・演習活動)</p> <p>選択した単元の素材-教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(発表活動) 課題に応じた本授業の予習と復習は必須である。</p>

授業計画
<p>第1回：授業の全体計画と日程(グループ討議)(米村、未定)</p> <p>第2回：現職教員と学部新卒者がペアを組み、住居分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う1(グループ討議)(米村)</p> <p>第3回：現職教員と学部新卒者がペアを組み、住居分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う2(グループ討議)(米村)</p> <p>第4回：現職教員と学部新卒者がペアを組み、住居分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う3(グループ討議)(米村)</p> <p>第5回：住居分野に関する事例研究1(演習・グループ討議)(米村)</p> <p>第6回：住居分野に関する事例研究2(演習・グループ討議)(米村)</p> <p>第7回：住居分野に関する事例研究3(演習・グループ討議)(米村)</p> <p>第8回：住居分野に関する事例研究・実験・演習活動1(実験・演習)(米村)</p> <p>第9回：住居分野に関する事例研究・実験・演習活動2(実験・演習)(米村)</p> <p>第10回：住居分野に関する事例研究・実験・演習活動3(実験・演習)(米村)</p> <p>第11回：住居分野に関する事例研究・実験・演習活動4(実験・演習)(米村)</p> <p>第12回：選択した単元のプレゼンテーション1(発表活動)(米村)</p> <p>第13回：選択した単元のプレゼンテーション2(発表活動)(米村)</p> <p>第14回：選択した単元のプレゼンテーション3(発表活動)(米村)</p> <p>第15回：住居分野の選択した単元の相互批評と評価(グループ討議)(米村、未定)</p>

達成目標
<p>授業構成・単元構成の観点から、住居分野・科目に関する素材研究を中心に、素材研究能力・素材を教材に転化する能力・教材開発技術の質的向上を図る。</p> <p>この科目は、デュプロマポリシーに掲げる授業力および課題研究能力を養う。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<p>・この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>・調査研究課題・報告内容・プレゼンテーション、レポートなどを総合して行う。</p> <p>・成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
小中高校の家庭科教育関連教科書、小中高校の家庭科関係学習指導要領 解説など

関連する授業科目
特になし

履修上の注意
積極的な討論・発表活動が基礎となる。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>月曜：12:00～12:50</td> <td>月曜：12:00～12:50</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	月曜：12:00～12:50	月曜：12:00～12:50
【前期】	【後期】			
月曜：12:00～12:50	月曜：12:00～12:50			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/09 18:24:00

科目コード	M9030	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系内容開発基礎研究 IC (歴史学)				
(英語名称)					
担当教員	関 周一、中堀 博司、藤本 将人				
開講日	後期 金曜日 3・4時限				

授業概要	
<p>社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の歴史的分野に関する教科論および教材論と、歴史学研究的視点・方法や成果を結びつける。この学習を通して、高度な素材研究能力や教材開発能力・技術の修得をねらう。以下の学習を「協働方式」(関周一、中堀博司、藤本将人)で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会認識教育系教科の歴史的分野に関する現状の分析 社会認識教育系教科の歴史的分野に関する教科論および教材論の演習 歴史学担当教員による歴史的分野・科目に関する素材研究および講義・演習 学校種別、または現職教員学生と新卒既卒学生のグループ単位による、素材研究をもとにした教材開発 開発した教材によるプレゼンテーションと、相互批評および評価 	

授業計画	
第1回	社会認識教育系教科(社会科・地歴科)の歴史的分野に関する現状の問題点を把握・分析し、解決の方向性を明確化する(グループ討議・演習) [関・中堀・藤本]
第2回	社会認識教育系教科の歴史的分野に関する教科論を理解する(演習) [藤本]
第3回	社会認識教育系教科の歴史的分野に関する教材論を理解する(演習) [藤本]
第4回	社会認識教育系教科の歴史的分野(日本史・古代)に関する方法上の課題とその解決策を考察する(講義・演習) [関]
第5回	社会認識教育系教科の歴史的分野(日本史・中世)に関する方法上の課題とその解決策を考察する(講義・演習) [関]
第6回	社会認識教育系教科の歴史的分野(日本史・近世)に関する方法上の課題とその解決策を考察する(講義・演習) [関]
第7回	社会認識教育系教科の歴史的分野(日本史・近現代)に関する方法上の課題とその解決策を考察する(講義・演習) [関]
第8回	社会認識教育系教科の歴史的分野(外国史・古代)に関する方法上の課題とその解決策を考察する(講義・演習) [中堀]
第9回	社会認識教育系教科の歴史的分野(外国史・中世)に関する方法上の課題とその解決策を考察する(講義・演習) [中堀]
第10回	社会認識教育系教科の歴史的分野(外国史・近世)に関する方法上の課題とその解決策を考察する(講義・演習) [中堀]
第11回	社会認識教育系教科の歴史的分野(外国史・近現代)に関する方法上の課題とその解決策を考察する(講義・演習) [中堀]
第12回	学校種別、または現職教員学生と新卒既卒学生の各グループに分かれて、素材研究を行う [関・中堀・藤本]
第13回	学校種別、または現職教員学生と新卒既卒学生の各グループに分かれて、教材開発を行う [関・中堀・藤本]
第14回	開発した教材をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う [関・中堀・藤本]
第15回	学習の成果や課題等から、学習全体のまとめを行う [関・中堀・藤本]

達成目標	
<ul style="list-style-type: none"> 社会認識教育系教科の歴史的分野に関する教科論および教材論と、歴史学研究的視点・方法や成果を結びつけることができる 歴史的分野における素材研究が歴史学的な視点からできる 歴史的分野における素材を教材に転化させ、教材開発の基礎的方法を理解することができる 現職教員学生がメンターシップの能力をより高度なレベルで発揮することができる 	

成績評価基準	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による	

成績評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 教材や教材化過程の歴史学的妥当性および教科教育的有効性の観点を中心にして、発表(問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等)、授業への参加・貢献度、レポート等を総合して判断する 評価および評点は、各協働担当者の時間数に関係なく合議制で決定する 成績評価基準および評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める 	

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について	
宮崎大学大学院教育学研究科規程による	

文献・教材	
(参考文献) 東京大学教養学部歴史学協会編『史料学入門』岩波書店、2006年。	

関連する授業科目	
社会認識教育系内容開発基礎研究 A (人文地理学) 社会認識教育系内容開発基礎研究 B (自然地理学)	

履修上の注意	
【予習・復習について】受講者は、毎回数時間以上の予習・復習が必要です。	

オフィスアワー	
【前期】	【後期】
	木曜12h-13h (関)
	木曜12h-13h (藤本)
	木曜15h30-16h30 (中堀)

備考	

参考URL	

ファイル	

更新日付	
2017/02/23 09:26:25	

科目コード	M9040	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	社会認識教育系内容開発基礎研究 IIC (法学・政治学)				
(英語名称)					
担当教員	足立 文美恵、丸山 亜子、未定、吉村 功太郎				
開講日	後期 木曜日 5・6時限				

授業概要
社会認識教育系教科の公的的分野・科目に関する教科論及び教材論と法学・政治学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 教材及び教材化過程の経済学・財政学的妥当性、及び、教科教育の有効性の観点を中心にして、発表（問題の整理状況、解決に向けた取り組みの有効性等）、授業への参画・貢献度、レポート等を総合して判断する。 2 評価及び評点は、個人担当及び協働担当者との時間数に関係なく合議制で決定する。 3 成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。

授業計画
<p>第1回：社会認識教育系教科の経済的分野・領域に関する現状の問題点を分析、把握及び解決の方向性の明確化を図る。（グループ討議）（吉村功太郎）</p> <p>第2回：社会認識教育系教科の経済的分野・領域に関する教科論及び教材論を理解する。（演習・グループ討議）（吉村功太郎）</p> <p>第3回：消費者取引に関わる法として特定商取引法を理解し、特定商取引法上のクーリングオフ行使について検討する。（講義・グループ討議）（足立文美恵）</p> <p>第4回：消費者取引に関わる法として割賦販売法を理解し、カード取引とその救済策について検討する。（演習・グループ討議）（足立文美恵）</p> <p>第5回：消費者取引に関わる法としてPL法を理解し、PL法による救済策の必要性について検討する。（演習・グループ討議）（足立文美恵）</p> <p>第6回：労働をめくり、現在いかなる問題が生じているか、そして、労働に関係する法律はどのようになっているか、現状を把握する。（丸山亜子）（演習・グループ討議）</p> <p>第7回：労働の場において法が果たしている役割およびその限界につき、裁判例を通じて理解する。（丸山亜子）（事例研究・演習）</p> <p>第8回：労働の場において法が果たすべき機能につき、今後の展望を考える。（丸山亜子）（演習・グループ討議）</p> <p>第9回：政治制度の現状と課題について、具体的な事例を通じて考察する。（事例研究・演習）（未定）</p> <p>第10回：地方自治の現状と課題について、具体的な事例を通じて考察する。（未定）（事例研究・演習）</p> <p>第11回：国際政治の現状と課題について、具体的な事例を通じて考察する。（未定）（事例研究・演習）</p> <p>第12回：学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。（作業学習）（吉村功太郎、足立文美恵、丸山亜子、未定）</p> <p>第13回：引き続き素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。（作業学習）（吉村功太郎、足立文美恵、丸山亜子、未定）</p> <p>第14回：その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。（プレゼンテーション）（吉村功太郎、足立文美恵、丸山亜子、未定）</p> <p>第15回：学習の成果、課題等を出し合い、学習全体のまとめを行う。（グループ討議）（吉村功太郎、足立文美恵、丸山亜子、未定）</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
<ul style="list-style-type: none"> ・プリントなどを配布。 ・参考文献などについては、授業中で適宜紹介する。

関連する授業科目

履修上の注意
本授業は社会科、公民科の学習内容に関する知識理解を基盤とした社会科教員としての授業構成力・実践力という能力の育成を主眼としている。授業中の作業課題や次の時間へ向けての予習課題なども随時課すので、授業時間以外にも適切な学習時間を確保すること。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水曜日 12:10～12:50</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】		水曜日 12:10～12:50
【前期】	【後期】			
	水曜日 12:10～12:50			

達成目標
<ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科（社会科・公民科）の公的的分野・領域に関する教科論及び教材論と法学・政治学の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。 ・政治的分野・領域における素材研究が法学・政治学的な視点からできる。 ・政治的分野・領域における素材を教材に転化させることができ、教材開発の基礎的方法を理解することができる。 ・現職教員学生がメンターシップの能力をより高度なレベルで発揮することができる。

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/04 17:31:05

科目コード	M9050	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究IVB(家庭経営)				
(英語名称)					
担当教員	伊波 富久美、未定				
開講日	後期 月曜日 7・8時限				

授業概要
<p>現職教員と学部新卒者がペアを組み、家庭経営分野の中から特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。(グループ討議)</p> <p>素材から教材へ転化する手掛かりとなる教科専門教員による家庭経営分野に関する素材研究及び演習。(事例研究・実験・演習活動)</p> <p>選択した単元の素材・教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(発表活動)</p> <p>・上記の活動を円滑に実施するために、毎回、関連文献の予習を課す。</p>

授業計画
<p>第1回: 授業の全体計画と日程(グループ討議)(未定、伊波)</p> <p>第2回: 現職教員と学部新卒者がペアを組み、家庭経営分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う1(グループ討議)(未定、伊波)</p> <p>第3回: 現職教員と学部新卒者がペアを組み、家庭経営分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う2(グループ討議)(未定、伊波)</p> <p>第4回: 家庭経営分野に関する事例研究・実験・演習活動1(実験・演習)(未定、伊波)</p> <p>第5回: 家庭経営分野に関する事例研究・実験・演習活動2(実験・演習)(未定、伊波)</p> <p>第6回: 選択した単元のプレゼンテーションを行う1(発表活動)(未定、伊波)</p> <p>第7回: 選択した単元のプレゼンテーションを行う2(発表活動)(未定、伊波)</p> <p>第8回: 家庭経営分野の選択した単元の相互批評と評価(グループ討議)(未定、伊波)</p> <p>第9回: 現職教員と学部新卒者がペアを組み、家庭経営分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う1(グループ討議)(未定、伊波)</p> <p>第10回: 現職教員と学部新卒者がペアを組み、家庭経営分野の中から特定の単元を選択して、素材研究を行う2(グループ討議)(未定、伊波)</p> <p>第11回: 家庭経営分野に関する事例研究1(演習)(未定、伊波)</p> <p>第12回: 家庭経営分野に関する事例研究2(演習)(未定、伊波)</p> <p>第13回: 選択した単元のプレゼンテーションを行う1(発表活動)(未定、伊波)</p> <p>第14回: 選択した単元のプレゼンテーションを行う2(発表活動)(未定、伊波)</p> <p>第15回: 家庭経営分野の選択した単元の相互批評と評価(グループ討議)(未定、伊波)</p>

達成目標
<p>授業構成・単元構成の観点から、食物及び保育分野・科目に関する素材研究を中心に、素材研究能力・素材を教材に転化する能力・教材開発技術の質的向上を図る。</p>

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

成績評価方法
<p>この科目の授業は、複数の教員による協働方式を含む授業として行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議制により以下の評価の観点・方法により行う。</p> <p>出席回数のほか、調査研究・報告内容・プレゼンテーション、レポートなどを総合して行う。</p> <p>成績評価基準及び評価に対する申し立ては宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき、評点は科目の到達目標に則して定める。</p>

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程による

文献・教材
小・中・高校の家庭科関係学習指導要領・解説および家庭科教科書など

関連する授業科目

履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> 各単元終了後に、ミニレポートを課す。 事前・事後における関連文献についての予習および復習を課す。

オフィスアワー				
<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>木曜日12:00-13:00</td> <td>木曜日12:00-13:00</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	木曜日12:00-13:00	木曜日12:00-13:00
【前期】	【後期】			
木曜日12:00-13:00	木曜日12:00-13:00			

備考

参考URL

ファイル

更新日付
2017/03/03 15:52:47

科目コード	M9060	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	予防・開発的な生徒指導の理論とスキル開発				
(英語名称)					
担当教員	立元 真、東迫 健一				
開講日	後期 月曜日 5・6時限				

授業概要
この科目は、児童・生徒の問題行動や社会的不適応をいかに予防するかという視点から構成される。社会的不適応を起こす要因について学習した後、予防・開発的な視点に立った教育相談の具体的な技法及び発達障害のある児童生徒への対応や指導技術を取り上げる。また、事例検討会の意義や具体的な方法について学ぶとともに保護者との連携の在り方について探究し、個別支援に係る理論及び技能を身に付ける。さらに、問題行動等を未然に防ぐための集団づくりや学習指導の在り方についても学びを広げ、児童生徒の見立てに基づいた指導技術を修得することを目的とする。

授業計画
第1回：生徒指導における予防的指導の観点（講義：立元・東迫） 第2回：ストレスマネジメント（講義：立元・東迫） 第3回：教師のストレス（講義、演習：立元・東迫） 第4回：親と力を合わせる（講義と演習：立元・東迫） 第5回：子どもと良い関係を作る（講義：立元・東迫） 第6回：SSTの指導計画：立元・東迫（立元・東迫） 第7回：SST演習（演習：立元・東迫） 第8回：予防的介入実践見学研修：（見学：立元・東迫） 第9回：予防的介入実践見学研修：（見学：立元・東迫） 第10回：抑うつ予防プログラム（認知再構成法）の指導計画（講義：立元・東迫） 第11回：認知・環状・行動制御演習：（演習：立元・東迫） 第12回：認知再構成法演習：（演習：立元・東迫） 第13回：問題解決法演習：（演習：立元・東迫） 第14回：同僚教師への技術提供：（講義と演習：立元・東迫） 第15回：まとめ（立元・東迫）

達成目標
児童生徒のさまざまな問題行動の発生は、社会的不適応につながる関連性が大きく、生徒指導や教育相談を円滑に進めていくためには、予防・開発的取組が不可欠である。本科目では、予防的、開発的な視点に立って、児童生徒の見立てに基づいた指導法についての理論及び技能を修得する。

成績評価基準
授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・レポート等で総合的に評価する。

成績評価方法
この科目の授業は、複数の教員による協働方式により行われる。担当教員は、担当時間数の多少にかかわらず、合議により以下の評価の観点・方法により行う。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき実施する。

文献・教材

関連する授業科目
生徒指導の実践と課題

履修上の注意

オフィスアワー	
【前期】 随時 但しメール等によるアポイントがあること s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]	【後期】 随時 但しメール等によるアポイントがあること ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]

備考

参考URL
子どもと若者のため http://kongoshuppan.co.jp/dm/1034

ファイル

更新日付
2017/03/10 16:22:16

科目コード	M9070	配当年次	1年	単位数	2
授業科目	子どもの個別課題への対応と関係機関との連携				
(英語名称)					
担当教員	立元 真、東迫 健一				
開講日	前期 月曜日 5・6時限				

授業概要
この科目は、生徒指導における学校と家庭・地域・関係機関との連携、及び児童生徒の個別課題への教師の対応の在り方について探究する構成となっている。生徒指導の前提となる発達観と指導観、集団指導・個別指導の方法原理を学んだ後、学校の組織的対応と関係機関等との連携について、児童自立支援施設や養護施設、教育行政関連施設等の現場の活動の理解をとおして確かな実践力を身に付けることを目的としている。また、問題行動の早期発見と効果的な指導について、具体的事例や生徒指導提要进行をとおして学びを深めていく。

授業計画
第1回：生徒指導の前提となる発達観と指導観（講義：立元・東迫） 第2回：個別指導の方法原理、さまざまな不登校の原因（講義・グループ討議：立元・東迫） 第3回：不登校対応のアセスメントと指導（講義・演習：立元・東迫） 第4回：不登校対応の実際（講義・グループ協議：東迫・立元） 第5回：組織的対応と関係機関等との連携（フィールド体験・演習：東迫・立元） ～教育委員会・児童相談所等の行政機関～ 第6回：組織的対応と関係機関等との連携（フィールド体験・講義：東迫・立元） ～児童自立支援施設・養護施設等の専門機関～ 第7回：生徒指導主事の役割（講義・グループ討議：東迫・立元） 第8回：個別支援計画に基づいた連携（講義・グループ討議：立元・東迫） 第9回：発達に関する課題と対応についての事例研究（グループ討議：東迫・立元） 第10回：発達に関する課題と対応についての事例研究（演習・発表：東迫・立元） 第11回：発達に関する課題と対応についての事例研究（発表・グループ討議：立元・東迫） 第12回：生徒指導に関する法制度（事例研究・グループ討議：東迫・立元） 第13回：少年非行に関する少年法（講義：東迫・立元） 第14回：問題行動と関連法規等の理解の重要性（グループ討議：東迫・立元） 第15回：まとめ（立元・東迫）

達成目標
生徒指導における学校と家庭・地域・関係機関との連携について理解し、児童生徒の抱える最新の教育課題への教師として適切な論理的思考力、問題解決法を修得する。

成績評価基準
宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき実施する。

成績評価方法
出席率（75%以上）、授業の到達目標及びテーマの観点から、出席・演習のパフォーマンス・レポート等で担当者の合議により総合的に評価する。

成績に対する申し立て及び答案の返却・開示等について
宮崎大学大学院教育学研究科規程第14条に基づき実施する。

文献・教材
「認知行動療法を生かした発達障害児・者への支援」ジアース教育新社

関連する授業科目

履修上の注意
シラバスの内容の順序は、現地学習の先方との交渉の関係で前後することがある。

オフィスアワー	
【前期】 随時 但しメール等によるアポイントがあること s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]	【後期】 随時 但しメール等によるアポイントがあること ls-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp[立元]

備考

参考URL
認知行動療法を生か http://www.kyoikushinsha.co. 教科書として部分的 不登校の認知行動療 http://www.iwasaki-ap.co. 資料として部分的に

ファイル

更新日付
2017/03/10 16:03:22